

令和5年度

ひょうごボランティア地域づくりネットワーク会議・

ひょうごボランティア基金助成事業報告会

助成事業報告資料・活動資料 とりまとめ冊子



兵庫県社会福祉協議会 ひょうごボランティアプラザ

グループ分け・資料目次

| グループ | 区分 | 団体名・企業名・学校名 | 事業名(助成団体のみ) | ページ |
|------|-----|------------------------|--|----------|
| A | 企 | 有限会社 神輝興産 | | 2 |
| | 企 | 生活協同組合コープこうべ | | 4 |
| | 中基 | (一社)さんぴいす | 淡路市中間支援ネットワーク自立支援サポート事業(2年目) | 5 |
| | 地 | (認定)コムサロン21 | 大手前通りユニバーサルマップおもてなしパワーアップ作戦事業 | 6 |
| | 中創 | (特非)あしたあさって | つながるこのまち事業(1年目) | 7 |
| | 地 | (特非)きょうどうのわ | 六甲アイランドの団体活性化と住民の活動参加を応援する事業 | 8 |
| B | 企 | 第一生命保険株式会社 芦屋オフィス | | 10 |
| | 学 | 神戸親和大学 地域連携センター事務室 | | 12 |
| | 地 | (特非)丹波ひとまち支援機構 | 丹波「学校を核とした地域づくり」プロジェクト | 14 |
| | 地 | (公財)神戸YWCA | 市営住宅集会所を活用した多文化多世代の地域コミュニティ拠点づくり事業 | 15 |
| | 地 | (公社)兵庫県精神福祉家族会連合会 | 精神障害者保健福祉手帳による医療費助成(福祉医療) 制度について | 16 |
| | 中創地 | (特非)地域チャレンジセンター・プラス | 北神区初の中間支援組織設立事業(2年目) 多様な社会・地域に対応した子ども・若者まると支援 | 17 18 |
| C | 企 | 第一生命保険株式会社 芦屋オフィス | | 20 |
| | 学 | 関西福祉大学 萬代ゼミ | | 22 |
| | 地 | (認定)コミュニティ・サポートセンター神戸 | コロナ禍における地域の居場所の活動実態調査ー持続可能なつながりの探求 | 23 |
| | 中基 | (特非)シンフォニー | 地域NPOブラッシュアップ支援事業 | 24 |
| | 地 | Toyooka AgRestart | 「耕作放棄地を解消し、里山を再生。過疎地域に賑わいを。」事業 | 25 |
| | 地 | (特非)里地里山問題研究所 | 農村課題解決と地域活性化に貢献する関係人口創出・拡大事業 | 26 |
| D | 企 | 第一生命保険株式会社 芦屋オフィス | | 28 |
| | 企 | 生活協同組合コープこうべ | | 30 |
| | 学 | 関西福祉大学 萬代ゼミ | | 31 |
| | 中基 | (認定)コムサロン21 | 播磨NPO中間支援センター事業 | 32 |
| | 地 | (一社)神戸健康大学 | 健康寿命延伸セミナーの開催 | 33 |
| | 地 | (特非)西脇てとて広場 | 生きづらさを抱えた子ども・若者の居場所 | 34 |
| | 中基 | (特非)コミュニティアートセンタープラッツ | 但馬地域におけるNPO活動の継続的支援と人材育成事業 | 35 |
| E | 企 | 株式会社パイクとそら | | 37 |
| | 行政 | 神戸市役所垂水区地域協働課 | | 39 |
| | 学 | 関西福祉大学 萬代ゼミ | | 42 |
| | 地 | (特非)コミュニティ事業支援ネット | NPO法人のアカウントビリティにかかる実証的研究 | 43 |
| | 地 | (特非)神戸ロボットクラブ | 子供のプログラミング的思考と情報活用能力学習の支援活動 | 44 |
| | 中創地 | (一社)パートナーズ | 孤立しがちな子育てを地域と社会につなぐ中間支援事業(1年目) ひょうご・こどもコミュニティラボ | 45 46 |
| | 地 | (特非)生涯学習サポート兵庫 | 学校に行きづらい子どものためのサードプレイス HYM事業 | 47 |
| F | 企 | エム・シーシー食品株式会社 | | 49 |
| | 行政 | 神戸市役所地域協働局地域協働課 | | 51 |
| | 学 | 関西福祉大学 萬代ゼミ | | 54 |
| | 地 | (特非)Co-Creationこのゆびとまれ | 山をまるごと遊ぼうこの指とまれプロジェクト | 55 |
| | 地 | (認定)宝塚NPOセンター | もったいないをみんなで笑顔に | 56 |
| | 地 | (特非)おーえんくらぶ | 本気のこどもクッキング 目指せ キッズシェフ! ~食から育てる 子どもの自立心 | 57 |
| | 中基 | (特非)北播磨市民活動支援センター | NPO設立・運営相談及びNPOの資金調達について考える | 58 |

区分の種別 企業:企業または企業に準じる組織 学校:高校、大学 中基:中間支援活動助成基本事業

| グループ | 区分 | 団体名・企業名・学校名 | 事業名(助成団体のみ) | ページ |
|--|-----------------|---|--|-----|
| G | 学 | 学校法人玉田学園 神戸常盤ボランティアセンター | | 60 |
| | 企 | エム・シーシー食品株式会社 | | 62 |
| | NPO | (特非)にしのみや次世代育成支援協会 | | 64 |
| | 中基地 | (認定)しみん基金・こうべ | 共助の資金循環をつくる助成事業 | 65 |
| | | | オンラインITツール講座 | 66 |
| | 地 | (特非)神戸ロボットクラブ | 子供のプログラミング的思考と情報活用能力学習の支援活動 | 67 |
| | 地 | (特非)ふおーらいふ | 家庭が居づらい子ども・若者の居場所作りと支援体制作り | 68 |
| 中基地 | (特非)兵庫SPO支援センター | 働いている人・遠隔地の人のためのNPO等支援窓口 -淡路島の中間支援- | 69 | |
| | | 不登校及び困窮児童生徒家族の居場所づくりと支援会議の設置 | 70 | |
| H | 地 | (特非)ひょうごセルフヘルプ支援センター | セルフヘルプグループオンライン体験型セミナー:当事者の声を聴こう | 72 |
| | 地 | (特非)健康・生きがい就労ラボ | 高齢者向け生活に役立つスマホ操作技術普及事業 | 73 |
| | 地 | 猫のミーナ | 猫の譲渡会と野良猫のTNR | 74 |
| | 中基 | (特非)あしやNPOセンター | 「Just! do it!」応援します。あなたの活動を夢から実現へ | 75 |
| | 中創 | (特非)いながわリンク | 地域活動エンパワーメント事業(2年目) | 76 |
| | 地 | (特非)神戸の冬を支える会 | 生活困窮、困難者への緊急支援とその支援ネットワーク構築事業 | 77 |
| I | 地 | (特非)TEAM・あげあげ | 合言葉は「地域での繋がり」 | 79 |
| | 地 | (特非)あしやNPOセンター | 共生のまちへ「灯籠で街を彩る」 | 80 |
| | 中基地 | (特非)場とつながりの研究センター | NPOや地縁団体の事務力アップ支援事業 | 81 |
| | | | 「在住外国人の孤立を防ぎ、仲間づくりができる場づくりプロジェクト」 | 82 |
| | 地 | (特非)夢の森伴走者CUE | 特別養護老人センターを舞台とした「世代間交流カフェ」運営事業 | 83 |
| | 地 | (特非)Goodstock | 「知る」「見る」「過ごす」龍野暮らしのプロジェクト | 84 |
| 地 | (特非)健康・生きがい就労ラボ | 高齢者の健康づくり就労(ショートワーク等)のネットワークづくり及び浸透拡大事業 | 85 | |
| J | 地 | 食親同好会 | ローカルパートナーシップ活性化による地域QOL向上事業 | 87 |
| | 地 | 猫のミーナ | 猫の譲渡会と野良猫のTNR | 88 |
| | 中基地 | (認定)ソーシャルデザインセンター淡路 | SODA地域応援事業2023 | 89 |
| | | | 淡路島と神戸と結ぶ新たな拠点づくり | 90 |
| | 中創 | (特非)いながわリンク | 地域活動エンパワーメント事業(2年目) | 91 |
| | 地 | (特非)One by one | 協働のまちづくり防災学習 | 92 |
| | 地 | しんぐうNext | 『Next Seeds プロジェクト』しんぐう 미래研究室~協働・共創社会の実現と新たなまちのカタチから未来を想像する~ | 93 |
| しんぐう☆まちあそび2023【~まちが人を育む、人がまちを育む『まち育プロジェクト』~】 | | | 94 | |
| K | 中基 | (特非)市民事務局かわにし | 「NPO大学・マナビ塾」2023 | 96 |
| | 地 | (特非)高砂海文化21C | 海洋プラスチック問題を伝える、学ぶ、ヨットでのごみ回収実証 | 97 |
| | 中基 | (特非)奥播磨夢倶楽部 | 中山間地域における地域づくり支援事業 | 98 |
| | 地 | (特非)ミヤンマー-KOBE | ミヤンマー人への支援・交流事業 | 99 |
| | 地 | 生涯学習応援隊so-so.39 | SRHRたんばプロジェクト その1 | 100 |
| | 地 | 自由演劇倶楽部 えん | 市民による自由演劇倶楽部の推進事業 | 101 |
| L | 中基 | (特非)市民事務局かわにし | 「NPO大学・マナビ塾」2023 | 103 |
| | 地 | (特非)高砂海文化21C | 海洋プラスチック問題を伝える、学ぶ、ヨットでのごみ回収実証 | 104 |
| | 中基 | (特非)奥播磨夢倶楽部 | 中山間地域における地域づくり支援事業 | 105 |
| | 地 | (特非)ことばルームへようこそ | 「小さく生まれたり、医療的ケアが必要な赤ちゃんたちとご両親を先輩父母と医療職がサポートします!」カンガルーボー | 106 |
| | 地 | (特非)ハッピーキッズひがし | 『親子で楽しく体験活動』『長期休み・児童居場所づくり健全育成』支援事業 | 107 |
| | 地 | 東灘こどもカフェ | 学び実践を通じて「こ」が輝き成長する事業 | 108 |
| M | 地 | (特非)NGO神戸外国人救援ネット | 地域で孤立する外国人の相談・支援活動 | 110 |
| | 中創 | (特非)なごみ | 協働体制で構築する新たな地域づくり中間支援事業(2年目) | 111 |
| | 地 | 兵庫県健康生きがいづくり協議会 | 健康生きがいづくり | 112 |
| | 地 | (特非)親子会エルフ | 親子会 ~大人も子どもも季節行事を楽しもう~ | 113 |
| | 地 | (特非)京口スコラ | 不登校・ひきこもり経験者等、社会に出るのに不安を抱える青少年に対する総合的な相談支援及び居場所づくり | 114 |
| | 中創 | (一社)みくもや | 若者に特化した中間支援事業UxCampus(2年目) | 115 |

A Group



| 団体名・企業名・学校名 | 事業名(助成団体のみ) |
|--------------|-------------------------------|
| 有限会社 神輝興産 | |
| 生活協同組合コープこうべ | |
| (一社)さんぴいす | 淡路市中間支援ネットワーク自立支援サポート事業(2年目) |
| (認定)コムサロン21 | 大手前通りユニバーサルマップおもてなしパワーアップ作戦事業 |
| (特非)あしたあさって | つながるこのまち事業(1年目) |
| (特非)きょうどうのわ | 六甲アイランドの団体活性化と住民の活動参加を応援する事業 |

みんなのインフラはみんなを守る

神輝興産は高齢化する構造物の健康診断をしています



神戸で輝く☆
= 神輝

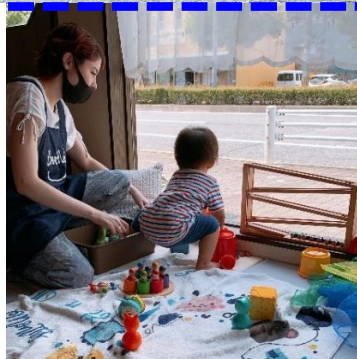


地域があってこそその企業！ 人生**100年**時代。
仕事を通じて専門スキルはアップデートできますが、地域との関係性は限られます。
地域と積極的に交流することで共に育ち（共育） スタッフのアンテナを磨き、
激動の時代に新たな価値を創造し続け、より良い業界を構築します。

①歩目 【かがやキッチン】 会議室をレンタルスペースへ



SHINKI かがやキッチン



NPOさんの居場所として交流

②歩目 【おせっカフェ】 倉庫をカフェや寺子屋へ



子どもや地域の方と食と勉強を通じて交流

③歩目 【地域×学校×企業】 コラボサロン

SDGs/橋博士/食品ロス/防災ゲーム/ など



CS神戸さんの『自立と共生』を学びつつ学校や地域と交流

④歩目 【探究心】 こども商店



子どもたちとリアル経営を通じて対等に探究

次の一步 【アントレプレナーシップ教育】

2018年こども商店プロジェクトがスタート！

コロナ禍により子ども達によるリアル商店の開催が2年間遅れましたが、2024年からは神戸だけでなくスタートアップおよびIT大国のエストニアと奈良県宇陀市とも産官学連携した新たな学びがスタートします！！

正しいより楽しい！！を大切に、わが社は次の世代への“架け橋”となります☆

買い物行こカー 店舗への送迎車

「買い物行こカー」は、2016年度に始まりました。現在、**31台 35店舗**まで広がり、年間でのべ**13万1407人**が利用しています。

高齢者の悩みは「いつでも安心して暮らしていきたい」これに生協が積極的に関わってほしい。

買い物行こカーや、移動店舗をもっと必要とされる時代がくる。広げてほしい。



「移動店舗」は、都市部でも必要になっている。

この地域ではスーパーがなく、買い物に困難な人が多い。



移動店舗

「移動店舗」は、都市部でも買い物に不便を感じている方がもっと利用できるように、軽四車両を導入するなど、改善に取り組んでいます。現在、**10台 513カ所**、年間でのべ**11万5494人**が利用しています。



体力がなくなっており、台所仕事も少しでも減る取り組みがあると良い。

店が近くになく、宅配は命綱。宅配がなくなったら生活できない。

まいくる

栄養バランスに配慮した夕食弁当をお届け

「まいくる」は、メニューの充実や、冷凍おかず(冷凍まいくる)のおすすめなど、組合員のくらしに寄り添って、改善に取り組んでいます。現在、**1日 9599食の利用**があります。

地域めーむひろば

店舗以外の場所で、宅配商品の受け渡し

地域の企業の事業所などで、商品の受け渡しをする「地域めーむひろば」は、2018年度に始まりました。現在、**33カ所**に広がっています。



地域との協働宅配

主に障がいのある方の就労や実習の場として、「週一宅配」や「めーむひろば」の仕組みを活用した取り組みが広がっています。

- 地域の担い手が運営する
- 「週一宅配」……3拠点
- 「めーむひろば」……6カ所

つながるマルシェ

コロナ禍で販売機会の減った福祉事業所に応援するため、2020年度から「つながるマルシェ」を実施。マルシェには、**福祉事業所が出店**して、投産品(パンや焼き菓子、手芸品、雑貨等)を販売しています。

健康づくり

兵庫県生協連や医療生協など、地域の協同組合と連携し、健康づくりに向けた取り組みの習慣化をめざす、「健康チャレンジ」が、2018年度から始まりました。2022年度は、**4951人**が参加しました。

健康寿命を延ばすよう社会全体で取り組みを推進しなければ。



コミュニティ食堂 子ども食堂

地域と連携して運営する、「コミュニティ食堂」や「子ども食堂」が広がっています。現在、**43カ所**で運営しています。(休止中含む)

地域の方々と「よりよい広場」のような場で一緒に食事ができるといい。



お互いに参加するという意識で、「これなら私もできるのでは」と思える場を作りたい。

困っている人の声と、助けたいと思っている人と結びつける仕組みづくり。

買い物支援ボランティア

組合員が、組合員の買い物のお手伝い

「買い物支援ボランティア」は、2016年度に始まりました。現在、**13の店舗**で取り組んでいます。(休止中含む)



つながりや、つどえる場を生協が作り出すことで、地域づくりに発展していくと感じる。

地域の居場所・つどい場

「ふれあい喫茶」など、コープサークルが運営する「つどい場」づくりの取り組みが進んでいます。「ふれあい喫茶」は現在、**82カ所**に広がっています。(休止中含む)
「居場所・つどい場立ち上げ支援助成制度」は、2016年度に始まりました。2022年度は、**19グループ**立ち上がりしました。

地域に開かれたコープの「つどい場施設」は現在、**19カ所**あります

お米を贈ろう 助け合い募金

コロナ影響で広がる社会不安を少しでも和らげたいと願い、年間を通じて募金を実施。2022年度は、**約593万円の善意**が寄せられました。

集まった募金でお米を調達し、地域のさまざまな団体に提供していきます

助け合いのしくみ

コープくらしの助け合いの会(兵庫県内) 助け合い制度 コープむつみ会(大阪北地区)

地域住民の助け合いによって自立したくらしを支える有償の家事支援活動です。2022年度は、のべ**2716人**が活動し、のべ**3329人**が利用しました。

たすけタッチ

「ゴミ出し」など、ちょっとした困りごとをアプリの機能を使ってご近所同士で解決する取り組みが2021年1月に始まりました。手助けしてほしい組合員と手伝える組合員がつながって実施されたたすけあいは、2022年度末まで**1260件**になりました。

できるときに、できる人が、できることま、ちょっぴりお手伝い。



コミュニティの再生のために、地域のメンバーとして、参加を求められている。

「地域づくり」の視点、もっと地域との連携を深めていく必要がある。

地域つながるミーティング

「地域との「出会い」の場、仲間との「協働」の取り組みが生まれ続ける場」をめざす、「地域つながるミーティング」。2022年度は、のべ**3263人(うち地域の方861人)**が参加。生協や地域のことなど、さまざまなテーマで話し合っています。

約9割の会場に、地域の諸団体(行政や社会福祉協議会、地域の活動者など)が参加しています

地域コーディネーター

地区よりさらに小さい単位で、よりきめ細やかに地域連携と組合員参加の促進に取り組む、「地域コーディネーター」は、2018年度に始まりました。現在、**7人の「地域コーディネーター」**が、地域で活動しています。

フードドライブ

家庭で余った食品を持ち寄り、フードバンクや子ども食堂などに提供する「フードドライブ」は、2017年度に始まりました。2021年度からは店舗で**常時受付**をしています。

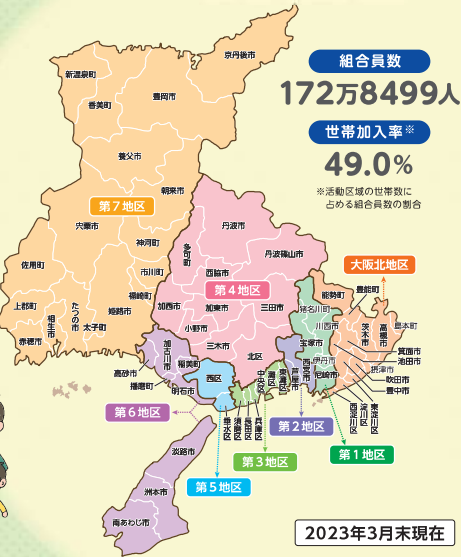
集まった食品は現在、地域の297のさまざまな団体に提供しています

マイバッグ運動が定着したように、社会的意義のある活動を。

「食品ロス」の問題は、生協が率先して取り組むべき。

コープこうべの活動エリア

37市 15町 3区



中間支援活動助成（基本事業）

一般社団法人さんぴいす

事業名：淡路市中間支援ネットワーク自立支援サポート事業（2年目）

1. 事業が目指すもの

淡路市のことは「淡路市」で！をスローガンに、一昨年、淡路市中間支援ネットワークを設立した。これにより、中間支援に関わる有志団体が集まり、地縁組織との連携も進み始めているが、このしくみが継続的に自立することを目指す、より一緒の地域連携と中間支援事業の運営資源の確保を目指し、淡路市内の団体によるひょうごボランティアプラザの中間支援活動助成（創設支援事業）への令和6年度の申請（挑戦）を目指す。

2. 事業の概要

- 定期的な無料相談会の開催
隔月 偶数月 に 1 回（第2金曜日 13:00～17:00）淡路市内で開催
- 人材育成、助成金申請等団体の運営強化、書類作成などニーズに合わせた講座を年3回実施（2月中に開催予定）
- 淡路市内で交流会を開催 年1回開催（2月16日開催予定）
- 次年度の中間支援活動助成（創設支援事業）への申請に向けた準備
- 中間支援ネットワークのWEBページの管理、運営
- 淡路市で中間支援を担える新たな人材の発掘 随時

3. 成果と課題

1) 相談会の開催場所の変更による相談者数の増加

NPO 法人島くらし淡路さんの事務所から、omiyageya HACHの交流スペースに会場を変更したことで、相談者や来場者が増えた。

2) 淡路市社会福祉協議会との連携が強化された

社協の相談員と連携が取れたことにより、地域のニーズ把握、課題を持った相談者との出会いが増えた。

3) 見守り、待ち、ともに成長する

淡路市への支援事業であるため、我々島外のものが動くのではなく、島内の団体が自主的に動けるように支援するために、やらせるのではなく寄り添うことに徹した。



4. 今後の展望、成果の活用

ひょうごボランティアプラザの中間支援活動助成（創設支援事業）への令和6年度の申請にも目途がついたので、来年度は淡路市内の団体からの申請を実現したい。また、地域の新たな交流拠点としてHACH（ハッチ）をより多くの市民に認知してもらい地域活動の交流拠点だけでなく、地域の単身高齢者の安否確認や、地域の他の施設、団体との連携を高め、中間支援活動の継続的な活動拠点へと成長させていきたい。



大手前通りユニバーサルマップおもてなしパワーアップ作戦事業

認定特定非営利活動法人コムサロン 21

<地域づくり活動NPO事業助成事業>

1.事業が目指すところ

SDGs活動の一環として、「誰もが楽しめる観光のまち」の取り組みの中で、障がいのある方に対する観光おもてなしを考えて、令和4年度は、大手前通りのユニバーサルマップを作成しました。メディアにも大きく取り上げられ、大変評価いただいた。しかし、マップはできて、具体的なお店の内容などは、まだ、わかりにくく、どのように観光客や対象者が、認識できるように伝えるかが課題であった。

昨年度作成したマップには、お店のおもてなしの誠意をつたえる「おもてなしマーク」を考案し、地図に組み込みましたが、それを今年度はより一般に活用化を目指して、ユニバーサルマップの深化をしたいと考えています。また、ユニバーサルなおもてなしを実践していきたいお店への研修会を行うためのマニュアルを作成し、センターや希望するお店への出前研修会も実践し、ユニバーサルなおもてなしまちづくりに貢献したいと考えている。

2.活動内容

◎調査活動

| 日時 | 場所 | 参加人数 | 内容 |
|----------|-----------|------|--|
| 9月19日(火) | ホテルクレール日笠 | 15名 | 姫路市内のホテルにおける車いすでの利用に関する調査とユニバーサルツーリズムの紹介を行う。 |
| 12月8日(金) | はりかい姫路城店 | 3名 | 家老屋敷跡飲食店・お土産物店における車いすでの利用に関する調査とユニバーサルツーリズムの紹介を行う。 |



◎マップの増刷と配布

昨年作成したマップ(右画像)を2000部増刷し、姫路市観光案内所への配布の他、イベント時に配布を行った。

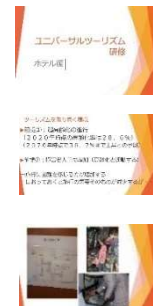
◎ホームページの改修

コムサロン会員企業とともに、改修を進めている。

◎おもてなし研修マニュアルの作成

パワーポイントにてユニバーサルツーリズムの考え方や具体的なおもてなし方法を記載したマニュアルを、宿泊業者、飲食店、お土産物店それぞれに向けての三種類作成した。

(右画像は宿泊業者向けマニュアルの一部)



◎おもてなし研修会の実施

作成したマニュアルを使用して、実際に研修を行った。

研修を受けた業者には「おもてなしマーク」を交付し、店頭に張り出していただく予定である。

| 日時 | 場所 | 参加人数 | 内容 |
|------------------|-----------------|------|--|
| 10月16日(月) | コムサロン21 | 12名 | 宿泊、飲食等に関わる業種に就職を希望する若者に向けて研修を行った。(右画像が研修の様子) |
| 1月25日(木) (予定) | 姫路キャッスルホテル | | 宿泊業者向けのマニュアルを利用して研修を行う予定である。 |
| 1月29日(月) (予定) | 家老屋敷公園便益施設利用者組合 | | 飲食店、お土産物店向けのマニュアルを利用して研修を行う予定である。 |



3. 成果や課題点

調査活動やマニュアルの作成、研修の実施により、ユニバーサルツーリズムの考え方が広まった。しかし同時に、ユニバーサルツーリズムという考え方の浸透はまだ十分ではないと考えている。

4. 今後の展望、成果の活用

ユニバーサルツーリズムという考え方を広く知ってもらうための活動が必要だと考えている。研修会の継続やその他の方法でユニバーサルツーリズムを広めていく予定である。

つながるこのまち事業



■事業が目指すところ

西脇市内に、気軽に相談できる地域の実情や情報に詳しいところがなく、私たちは、暮らしにまつわる地域の課題を解決したいと自ら行動しようとする人や、団体をサポートする中間支援が必要だと考えた。さらに、NPOの活動と自治会が繋がり、地域が抱える課題を色んな力を借りながら解決していくしくみが必要だと考えている。それぞれが智恵を出し合いお互いに頼れる先になること、多様な繋がりが、市民活動を継続させ、まちの力となると考え、そのようなNPO活動、市民活動をサポートする場、繋げる場になるよう活動していく。小さなまちの中間支援は、人と人をつなぎ、人と暮らしをつなぎ、このまちで、健やかに暮らせるように、地域で活動している人たちと一緒に歩み安心して活動が継続できるよう伴走していく。

(1年め)

地域の中間支援として、まちの人に寄り添ったきめ細やかな相談ができる運営を目指す

(2年め)

地域の実情を常に把握し、自治会ともつながりを深め相談窓口だけでなく訪問なども積極的に行い、きめ細やかなアウトリーチを行う

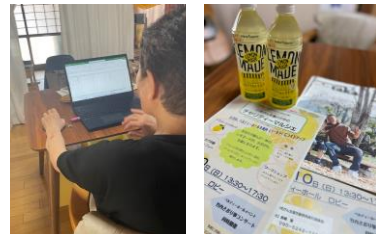
(3年め)

地域の中間支援として、それぞれの団体の運営を把握し、他のNPO等との関係づくりを深める

■1年め活動報告

○法人事務所を開設し、相談業務を開始

- ▶ NPO・市民活動団体、個人のサポート
相談件数 11件（面談・訪問・電話・メール・オンライン）
- ▶ 気軽に話せる場としての運営を開始



○「ここからはじまるよ。暮らしを紡ぐ女性の政治」

8月19日（日）13:00～ / 場所 西脇市黒田庄町 ガーデンログハウス (9名参加)
ゲスト / 平田真実さん（小野市議会議員）

小野市議会議員 平田真実さんを囲み、議員になったきっかけや日々の活動についてお話いただきながら、参加者全員が気軽に一緒に話せる場を作った。暮らしの先にある政治にもっと関心を持ち、政治は決して遠いものではなく私たちの生活のことを決めている場であることなど話し合うことが出来た。（2回目 2月開催予定）

○市民活動の運営サポート（2件）

- ・難病を抱える家族のお話し会
- ・ひとり親家庭応援 市民団体



■成果と課題

市民活動や個人の活動に対する相談が多く、その大半が女性であり、活動以外にも色んな悩みを話す場にもなった。就職、職場でのこと、介護、家族の病気のことなど、それらがきっかけで市民活動に繋がることもあり、仲間づくりにも繋がった。暮らしにまつわる課題は多岐にわたり、悩みの度合いも違うけれど「話す場」の必要性をととも感じる事ができた。このまちに合った活動と小さなことに心を寄せて活動できるのが、私たちが目指す中間支援のスタイルであると思っている。

来年度は活動拠点を整備し、地域の中に入ってより身近に活動をしていく。さらに一步一步と丁寧に進んでいき、信頼される法人になるように実績を作っていく。

六甲アイランドの団体活性化と住民の活動参加を応援する事業

特定非営利活動法人きょうどうのわ

1. なぜこの事業に取り組んだのか

⇒地域団体の共通課題「活動をもっと知ってもらいたい！」を解決したい

きょうどうのわは神戸市東灘区の六甲アイランド（2万人）で持続可能な地域づくりに取り組んでいます。2022年秋に当法人が行った意識調査（578枚回収）では、8割以上の住民が六甲アイランドについて「暮らしやすい、住み続けたい」と答えました。そのような街を作る原動力になっているのが多様な地域活動です。いっぽう同時期に島内38の活動団体にヒアリング調査を実施した結果、団体の新旧・大小に関わらず出てきた課題は「活動が知られていない、住民に団体を知ってもらえていないこと」「新しいメンバーが入ってこない、後継者がいないこと」でした。

そこで初年度の目標を「広く住民に団体および活動を知ってもらうこと」とし、本事業を始めました。

2. 活動内容

7/9に行った団体交流会で手を挙げた9名が実行委員会を組んで、活動見本市のようなイベント「六アイ・コミュニティフェスタ」を開催することになりました。出展を募ったところ、27団体もの応募があり、9/23（祝）神戸ファッション美術館4階を会場に開催が決定しました。まちかどネットの協力や実行委員の手配りで、チラシを全戸配布（7,000枚）し、店舗や施設にも配架、SNSでも呼びかけた結果、団体関係者・住民合わせて300人が来場しました。イベント後、希望者には団体への見学・体験をコーディネートし12件が成立しました。

2/8には事業報告&団体交流会を開催する予定で、次年度について意見交換し事業を進めます。

3. 成果と課題

最大の成果はフェスタに予想を大幅に上回る27団体が出展し、300人が来場したことです。フェスタでは参加団体（回収27枚）と来場者（回収80枚）にアンケートを実施しました。感想を回答の多い順に並べると、3位まで両者が同じ結果になりました。（以下、団体感想/来場者感想）

- ①活動団体を一堂に見てもらえた/見ることができた
- ②多くの団体と交流できた/多くの団体があることを知れた
- ③今後もこのような機会が必要/こういうイベントは必要

この結果から、目指していた「団体および活動を知ってもらう」が達成でき、かつ次年度に向けて環境が整ったことが成果であると考えています。

課題は「メンバー不足でぜひ活動者を獲得したい」団体への見学・体験希望が少なく、「希望者があればどうぞ」という程度の団体に多かったというミスマッチです。このミスマッチの解消のために、参加しやすい見学・体験機会を設けることなど企画を工夫して、新たな地域活動者の獲得につなげていきたいと思えます。

4. 今後の展望

多世代交流の機会を多様に提供することで、地域参加のハードルを下げ、いつの間にか活動者のすそ野や年代が広がっているようなイメージで、団体の支援をしていけたらと思っています。



参加した住民は団体のブースを回って直接活動者の話を聞きます

子どもたちも大勢参加してキッズコーナーを楽しみました

企業も出展。今後のまちの変化についてワクワクしながら説明を聞きました

イベント後は出展団体で反省会。「活動や団体を知ってもらいよい機会になった」と意見が出ました

当日はメディアロコウの取材が入り、神戸国際大学生が撮影やリポートを担当しました

B Group



| 団体名・企業名・学校名 | 事業名(助成団体のみ) |
|---------------------|--|
| 第一生命保険株式会社 芦屋オフィス | |
| 神戸親和大学 地域連携センター事務室 | |
| (特非)丹波ひとまち支援機構 | 丹波「学校を核とした地域づくり」プロジェクト |
| (公財)神戸YWCA | 市営住宅集会所を活用した多文化多世代の地域コミュニティ拠点づくり事業 |
| (公社)兵庫県精神福祉家族会連合会 | 精神障害者保健福祉手帳による医療費助成(福祉医療)制度について |
| (特非)地域チャレンジセンター・プラス | 北神区初の中間支援組織設立事業(2年目) 多様な社会・地域に対応した子ども・若者まると支援 |

第一生命の地域貢献活動

一生涯のパートナー
第一生命
Dai-ichi Life Group

全国4万1千名の生涯設計デザイナーを通じて、**地域の課題解決**に取り組んでいます。

For Women
安心して働けるために



For Seniors
もしものときのために



For the Earth
地球環境のために



MESSAGE



第一生命保険株式会社
代表取締役社長
Takashi Takano

地域の皆さまと共に持続可能な社会の実現を目指します。

第一生命は、1902年の創業以来、社会保障制度の一翼を担う生命保険会社として、その時代に応じて人々の幸せの実現や社会課題の解決に努めてまいりました。人生100年時代を迎え、一人ひとりの価値観が多様化する今、地域に根差す企業として、万が一の際の「保障」を磨き続けるだけでなく、「資産形成・承継」、「健康・医療」、さらには人と人、人と地域や社会との新しい「つながり」を通じて、お客さまのQOL(Quality of Life)の向上 ※や地域の課題解決に取り組んでいます。日々、全国4万1千名の生涯設計デザイナーがお客さまにお会いし、確かな安心と充実した健康サポートをお届けするように、地域の皆さまとのつながりが、第一生命の強みです。こうした強みを活かして、地域の皆さま、お客さまに、真っ直ぐに向き合い、持続可能な社会の実現を目指していきたいと考えています。

※QOLの向上とは、その人の望む人生や、こう生きたいという生活・生き方を実現することを指す。

| | | | |
|----------------------------|----------------------------------|------------------------------|-----------------------------------|
| 保障 保険普及等による生活の安定 | 資産形成・承継 人生100年時代の安心な老後 | 健康・医療 あらゆる人々の健康の増進 | つながり・絆 安心・安全で住みやすい地域づくり |
|----------------------------|----------------------------------|------------------------------|-----------------------------------|

数字で知る第一生命



第一生命は全国に広がるネットワークを活用し、**地域の課題解決**に取り組んでいます。

47都道府県にとどまらず、全国の市区町村も含めた**自治体との連携**を広げています。



地域のネットワークと連携して課題解決へ！



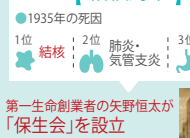
今までも、これからも、地域のみなさまの健康づくりを応援しています。

第一生命の健康増進に関する歩み

- 1902年 第一生命保険相互会社創業
- 1913年 創業者の矢野恒太、北里柴三郎を助けるべく日本結核予防協会理事就任
- 1935年 結核の予防・治療を目的として財団法人「保生会」設立
- 1939年 長期療養所「保生館」(後の保生園、現・新山手病院)開園
- 1950年 保健衛生の向上を目的として「保健文化賞」創設
- 1959年 財団法人「心臓血管研究所」設立
- 1988年 健康・医療をはじめ人生設計について調査する「㈱ライフデザイン研究所」(現・㈱第一生命経済研究所)設立
- 1998年 医療・介護分野の調査・研究を目的として「㈱第一生命ウェルライフサポート」(現・㈱第一生命経済研究所)設立
- 2000年 健康・医療・介護等のサービスを充実する目的で契約者向けポイントサービス「ドリームキングダム」開始
- 2008年 契約者ポイントサービス「ウィズパートナー」を開始。全契約者に健康・介護等のサービスを展開
- 2012年 国立がん研究センターと連携開始(がん情報)
- 健康・医療・介護等の電話相談を契約者などから受け付ける「メディカルサポートサービス」開始
- 2013年 公益財団法人がん研究会と連携開始(がん情報)
- 2014年 国立循環器病研究センターと連携開始(循環器病情報)
- 2015年 国立長寿医療研究センターと連携開始(認知症その他の長寿医療情報)
- 市民マラソンの協賛を柱とした「Run with You」プロジェクト開始
- 2016年 国立成育医療研究センターと連携開始(成育医療(小児・周産期)情報)
- 2017年 健康づくりをサポートする健康応援アプリ「健康第一」を公開
- 国立国際医療研究センターと連携開始(感染症および糖尿病・肝炎などの疾患情報)
- 2018年 国立精神・神経医療研究センターと連携開始(精神・神経・筋疾患などの疾患情報)

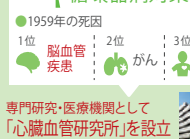
1 1935年当時の課題

【結核対策】



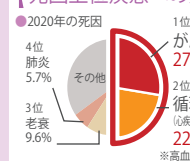
2 1959年当時の課題

【循環器病対策】

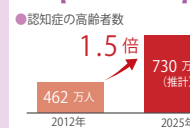


3 現在の課題

【死因上位疾患への対策】



【認知症対策】



1935年-1959年の死因：厚生労働省「我が国の人口動態」(2017)
2020年の死因：厚生労働省「人口動態統計」(2020)
認知症の高齢者：厚生労働省「認知症施策推進総合戦略(平成29年7月5日)」

健康増進

For Health

地域に根ざした健康増進活動に取り組む

■すべてのナショナルセンターと連携し、正しい情報の提供や予防啓発に取り組んでいます。



■健康応援アプリ「健康第一」を提供し、一人ひとりの健康づくりをサポートします。

健康診断結果で**今の健康状態**と**将来のリスク**がその場でわかる！

あなたの健康年齢※1と健康タイプは？

健康診断結果をスマホで読み取るだけ！さらに改善のためのアドバイスも。

【年齢・性別と比較したあなたの疾病リスク※2は？】

健康状態や生活習慣からカンタンチェック

がん、脳卒中、糖尿病、心臓病、脂質異常症

健康第一

アプリのダウンロードは「健康第一」検索

※1「健康年齢」は(株)JMDCの登録商標です。
※2 各疾患のチェック対象年齢
がん：45~74歳
脳卒中・糖尿病・心臓病：40~69歳
脂質異常症：30~83歳

■社会貢献活動に関する包括連携を結び、地域社会の活性化および発展に取り組んでいます。



環境取組

For the Earth

地球環境のサステナビリティの確保に向けて

●地域に根差した環境取組

地球環境保護への取組みの一環として、各地での清掃活動をはじめ、食品ロス削減に向けたフードドライブ活動、資源の再利用に向けた古着リサイクル活動等に取り組んでいます。

●機関投資家としての環境取組

秋田県の再生可能エネルギー導入の拡大と産業振興が期待できる洋上風力発電事業向けのプロジェクトファイナンス等に投資しています。

当社の責任投資活動の詳細は右記の2次元コードからご覧ください。

女性の活躍推進 For Women

地域の女性の活躍推進を応援する

- 働きやすい職場づくり
- 保有不動産への保育所・学童保育誘致



▲女性活躍推進セミナー(北海道)
地域企業の経営者や人事担当者をお招きし、「女性の活躍推進」や「ワーク・ライフ・バランス」をテーマにしたセミナーを開催しています。



▲鎌倉第一生命ビルがうちゅう保育園から
社会課題となっている待機児童対策の一環として、自社保有不動産に保育所や学童保育を誘致するなど、子育てしやすい社会の実現に貢献しています。

高齢者支援 For Seniors

地域に密着した活動を通じて高齢者をやさしく見守りたい

- 高齢者見守り活動
- コグニサイズ



▲認知症サポーター養成講座(長崎県)
認知症を正しく理解してもらい、認知症の方や家族を温かく見守る認知症サポーターの養成をはじめ、高齢者が安心して暮らせる見守り活動を実施しています。



▲認知症予防体操「コグニ体操」
国立長寿医療研究センターが開発した「頭」と身体を同時に使うことで脳とからだの機能を効果的に向上させる運動プログラム「コグニサイズ」。音楽付認知症予防体操「コグニ体操」のDVD提供等を通じて認知症予防啓発を行っています。

地域活性化 For Society

ニーズをとらえ地域の強みを引き出す

- 経営者向けのセミナー
- 地元サラ川



▲経済セミナー(三重県)
第一生命経済研究所のエコノミストをはじめ、さまざまな分野の専門家によるセミナーを開催し、ビジネスや経営に役立つ情報をお届けしています。



▲ジモサラ(地元サラ川)
長年継続してきた川柳コンクールの知名度や運営ノウハウを活かし、地域課題への関心や共感をいただくことで、自治体の課題解決に向けたお手伝いをしています。

子ども教育 For Kids

未来への一歩を心強くサポート

- 黄色いワッペン贈呈事業
- 金融保険・消費者教育



毎年、全国の小学校の入学一年生に交通事故傷害保険付きの「黄色いワッペン」を贈呈しています。



ライフイベントや消費者被害事例等について、すぐろ形式で楽しみながら学習でき、お金の大切さや将来に備えることの重要性を体感いただける「ライフサイクルゲーム」を全国の学校へ提供し、当社社員による出張授業も行っています。

安全・防災 For Safety

いざというときの安心のために

- 犯罪・災害に関する注意呼びかけ活動
- 子ども110番の家



▲振り込め詐欺被害防止活動(富山県)
自治体・警察と連携し、防犯や防災、交通安全に関する注意呼びかけ、不審な点を発見した際の連絡などの活動を行っています。



▲子ども110番の家(大阪府)
いざというときに子どもたちが避難できるように、地域の営業拠点を「子ども110番の家」にする取組みが広がっています。

スポーツ振興 For Sports

健康サポート活動として

- Run with You
- 第一生命全国小学生テニス選手権大会



市民マラソン大会への協賛やランニング教室の開催など、ランナーの皆さまを応援するプロジェクト「Run with You」を全国で展開しています。



「世界に通用する選手育成のためにはジュニアからの強化が重要である」という(公財)日本テニス協会の趣旨に賛同し、1983年の第1回大会より特別協賛するとともに、当社所有のコート(東京・仙川)を大会会場として提供しています。これまでに、錦織圭選手、奈良くるみ選手ら、国際的に活躍する選手を多数輩出しています。

第一生命の社会貢献活動の歴史

結核対策のために「保生会」設立

明治末期の日本国内では結核が猛威を振るっていました。医者であり第一生命創業者でもある矢野恒太は結核亡国を憂い、北里柴三郎博士を助けながら、その予防と撲滅を説いて歩きました。1913年には日本結核予防協会を設立、北里柴三郎が理事長、矢野恒太が理事に就任しました。また、小冊子「通俗・結核予防の心得」(矢野恒太著・北里柴三郎訳)を作って無料配布したり、講演や執筆にも奔走します。

●保生会



やの つたは 矢野 恒太

保生会社に就職のち農商務省に勤務し、保険業法を起草する。また同省商工局保険課の初代課長に就任。1902年わが国最初の相互会社第一生命を創立。以後専務取締役、社長、会長を歴任した。また「日本国勢図会」を刊行し、統計知識を国民に普及することにも尽力した。



きたさと しばぶらう 北里 柴三郎

医学博士で伝染病研究所(現在の東京大学医学研究所)の初代所長、第1回ノーベル医学・生理学賞の候補者にも挙げられ、私立北里研究所(現在の学校法人北里大学)の創立者兼初代所長並びに北里大学学祖となる。日本医師会設立者兼初代会長。写真提供:学校法人北里研究所

1935年、生命を保つという意味から財団法人「保生会」を設立。この取り組みが第一生命の社会貢献活動の先駆けともなりました。1939年には長期療養所である「保生館(後の保生園)」を東京の東村山に開設するとともに、全施設を結核予防会に寄付しました。

●保生館



●保生園



●新山手病院



写真提供:公益財団法人結核予防会

保健衛生向上のために「保健文化賞」創設

保健文化賞は、戦後の衛生環境が悪化していた中、わが国の保健衛生の向上に取り組む団体・個人に感謝と敬意を捧げる賞として1950年に創設されました。厚生労働省などの後援を得て毎年実施しており、最も長い歴史を持つ第一生命主催の社会貢献事業です。

例年、受賞者は天皇皇后両陛下の拝謁をお受けいただいています。

●第71回保健文化賞贈呈式



第一生命の

社会貢献活動

環境の保全



「都市の緑3表彰」(緑の環境ブラン大賞、緑の都市賞、屋上・壁面緑化技術コンクール)への支援を通じ、「都市環境の保全と再生」「地域コミュニティの形成・生活の質の向上」に資する緑化の取組みに貢献しています。

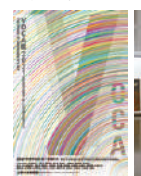
セナ(文化芸術の振興) 文化や芸術を支える活動に取り組んでいます

●認定NPO法人 トリトン・アーツ・ネットワーク



第一生命ホール(晴海)を拠点に公演事業と学校や福祉施設などに音楽をお届けするアウトリーチ活動を行っています。

●VOCA(ヴォーカ)展・第一生命ギャラリー



40歳以下作家による現代美術展の協賛、当社ギャラリーでの受賞作品展示を通じ若手芸術家を支援しています。

●モーツァルトイベント開催



モーツァルトの住家修復支援に賛、友好関係を築いた国際モーツァルト財団とのコレクション展・コンサートを行っています。

社員による地域・社会貢献活動

●全国各地の社員によるボランティア活動



左より、災害ボランティア活動、清掃活動、チャリティーウォークへの参加

●社内AED講習



定期的開催し、救命措置の大切さを伝えています。

引渡保険会社
第一生命保険株式会社
〒100-8411 東京都千代田区有楽町1-13-1
電話 (03) 3216-1211(大代表)
ホームページ <https://www.dai-ichi-life.co.jp/>

お届けしたのは...

神戸親和大学 2023年度 地域連携・ボランティア活動

第47回 きたきたまつり



5月20日(土) 鈴蘭公園で開催された「第47回きたきたまつり」にダンス部4名、宮辻ゼミ・田中ゼミ12名がステージ出演をしました。



4年ぶりとなる開催にたくさんの地域の方々に来場されていました。ダンス部は一年生も加わった新体制でのステージでしたが、笑顔で楽しく踊っていました。宮辻ゼミ・田中ゼミは「きたきた！元気体操」を披露し、観客の方々と元気に体操をしました。



北神×三田 元気ハツラツマルシェ ダンボール迷路



エコール・リラで開催された「北神・三田エリアの魅力発見！北神×三田元気ハツラツマルシェ」にお子様向けダンボール迷路を出展し、須増ゼミ4名と大島ゼミ3名が参加しました。



ほとんどの子どもたちは1回ゴールしても何回も繰り返し迷路を楽しんでいました。最後まで途切れることなく、多くの子どもたちに楽しんでもらいました。



七夕かざりをつくろう



7月2日(日) 神戸市立森林植物園のイベント「七夕かざりを作ろう」に大島ゼミ 10名が参加しました。



折り紙などで彦星さまや織姫さまをつくったり、短冊にお願い事を書いたり、来園者の方々と楽しく交流を深めながら七夕かざりを一緒に作りました。



なかざと夏祭り



7月29日(土) 中里中公園で開催された「第29回なかざと夏祭り」にダンス部学生5名が参加しました。



コロナ禍のため4年ぶりに開催されましたが、手拍子や観客に向けて声をかけ、ステージを盛り上げました。



箕谷子ども夏祭り



7月30日(日) 箕谷小学校運動場で開催された「第9回箕谷子ども夏祭り」にダンス部学生5名が参加しました。



振り付けを紹介しながら一緒に踊ったり、計4曲を披露しました。ステージの前で元気に踊ってくれた子どもたちと楽しく交流しました。



ちょこっとこども縁日



8月29日(火) 鈴蘭台駅外ひろばで開催した「ちょこっとこども縁日」に心理学科の3年生2名と児童教育学科の1年生3名が当日のお手伝いで参加しました。



暑い日でしたが、射的やフカフカすくいなどで、子どもたちと楽しく関わることができました。



大学×神戸電鉄北区制50周年記念 コラボハイキング(第5回目)



9月14日(木) 地域連携協定を結んでいる神戸電鉄とのコラボレーション企画である「きたきた！健康ハイキング」に宮辻ゼミ3年生が参加しました。



本年度で通算5回目となる「フリーハイキング形式+ご当地体操」の組み合わせとなっています。本年度は例年の開催とは異なり、「きたきた！元気体操(神戸市北区ご当地体操)」を実施するスペースの確保ができなかったため、フリーハイキングマップ(裏面)に準備運動・整理運動のワンポイントアドバイスが記載されたリーフレットを宮辻ゼミの学生が作成しました。



ベルスト鈴蘭台5周年イベント



9月23日(土) ベルスト鈴蘭台にて「ベルスト鈴蘭台5周年イベント」を開催しました。ユネスコクラブの学生3名が参加しました。



キャップを使ったコマやケーキのワークショップに子どもたちも楽しんでいました。



防災イベント「えほんで防災」



10月1日(日) ヘルスト鈴蘭台3階で開催された防災イベント「えほんで防災」に、本学学生26名(音楽ゼミ4年次生18名、中溝ゼミ4年次生5名、ボランティア1年次生3名)が参加しました。



音楽ゼミは合唱を披露、中溝ゼミは、紙の食器作成とフリーズドライ食品の試食を行いました。「SAIL (SHINWA実践教育プログラム)」の「実践教育活動」を受講している学生は、1日中イベントの準備、受付、片付け等を行いました。



淡河八幡神社「御旅神事」



10月1日(日)、淡河八幡神社で「秋季例大祭」があり、江戸時代から伝わる市指定重要無形民俗文化財の「御旅神事」が行われ、ユネスコクラブも参加しました。



子どもみこしを学生たちが担ぎながら練り歩き、参列していた子どもたちを呼び寄せながら一緒に神輿を担ぎました。



末広稲荷神社「秋季例大祭」



10月7日(土)、神戸市北区末広稲荷神社で「秋季例大祭」が行われ、ユネスコクラブも参加しました。



みんなで力を合わせ、声を掛け合いながら神社へと戻り、無事に神輿を奉納することができました。



ダンス部×ネットヨタ コラボイベント



10月8日(日)にテラス鈴蘭台、ダイハツ神戸北店にて、北区を盛り上げるプロジェクトとして神戸親和大学ダンス部とネットヨタのコラボイベントを開催しました。



ロマンチシズム(Mrs. Green Apple)、Something(東方神起)など、合計7曲を披露しました。中には参加者にレクチャーし、一緒に楽しく踊るプログラムもありました。



第16回 キッズオープンキャンパス



10月14日(土)本学で、「第16回キッズオープンキャンパス」を開催しました！今年で16回目を迎えた本イベントは、神戸北警察署様、北消防署様にもご協力いただきパトカー、白バイ、消防車、はしご車なども来ていただく大きな催しとなりました。普段はなかなか近くで見る機会のない動くくるまやバイクにのっての記念撮影や、神戸市北区の「キタールさん」、神戸森林植物園の「モリンくん」にも参加していただくなど多くのふれあいや関わりを体感できるイベントとなりました。



紅葉のライトアップオープニングコンサート



11月3日(木・祝) 神戸市森林植物園のイベント「紅葉のライトアップ」オープニングコンサートに音楽ゼミ4年生19名が出演しました。司会は神戸弘陵学園高等学校放送部の皆さんが務めてくださいました。



幻想的な雰囲気の中で、実際に日井真准教授の指揮で学生が「しあわせ運べるように」を最後まで歌い上げた時には、涙ぐまれている方も多数いらっしゃった感動的なコンサートとなりました。



第24回北区農村歌舞伎上演会



11月5日(日)、あいな里山公園 農村舞台にて「第24回北区農村歌舞伎上演会」が行われ、きたっ子むすめが司会進行、奈落体験での案内を務めました。



打ち合わせの時点では少し緊張していましたが、自宅で読み上げの練習をしていたとのこと、本番になると流暢に司会をし、地域の皆さんにも喜ばれていました。



第11回 神戸マラソン



11月19日(日)「第11回神戸マラソン」に学生約90名がボランティアとして参加しました。



神戸大橋ブロックで給水と沿道応援を行いました。ランナーの皆さんが懸命に頑張っておられる姿をみて大きな声援を送りました。



丹波「学校を核とした地域づくり」 プロジェクト (2023年度)

～子どもも大人も学び合い、育ち合う、誰もが楽しく参画できる地域づくりをめざして～

プロジェクトの目的とポイント

プロジェクトは2年目。「子どもも大人も学び合い、育ち合う、誰もが楽しく参画できる地域づくりをめざして」をテーマに、地域と学校の連携・協働のあり方について考え、学ぶことができる機会をつくり、地域学校協働活動に関わる人々・関心のある市民のために本プロジェクトに取り組んだ。今年度、新たに小中学校向けのアンケート調査や地域学校協働活動推進員向けのヒアリング調査を実施。教育委員会やまちづくり部と連携し、行政による地域学校協働活動人材育成プログラムの実施に向けて協議を進めた。

主催: 特定非営利活動法人丹波ひとまち支援機構(たんえん)
連携・協力: 丹波市市民活動支援センター／丹波市教育委員会教育部 社会教育・文化財課 学校教育課／丹波市まちづくり部 市民活動課／丹波市社会教育委員／丹波市地域学校協働活動推進員／丹波市立中央図書館／丹波市立船城小学校／丹波市内の小中学校21校・中学校5校

プロジェクトで取り組んできたこと

(開催レポートはQRコードからアクセス)

①学び「学校を核とした地域づくり講座」

第1回 (8/26 参加者:26人)

テーマ「丹波市では地域と学校の協働はどのように行われているの?」

報告者: 丹波市教育委員会 社会教育・文化財課
丹波市地域学校協働活動推進員 2名



第2回 (9/10 参加者:24人)

テーマ「学びと地域づくりを支える図書館の役割と地域・学校との連携」

講師: 嶋田 学氏(京都橘大学 教授／瀬戸内市民図書館もみわ広場 元館長)



第3回 (10/21 参加者:22人)

テーマ「PTA活動とコミュニティ・スクールの連携」

講師: 今関 明子氏(NPO法人放課後学習ボランティア支援の会 代表)
福本 靖氏(川西市教育委員会 教育推進部 理事)



②調査・研究

小中学校向け「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の
一体的取り組みに関するアンケート調査」

調査対象・回答率: 小学校21校(100%) 中学校5校(100%)



地域学校協働活動推進員向け「アンケート・ヒアリング調査」

調査対象・回答率: 地域学校協働活動推進員 8名(100%)

③交流「交流会」(2/24開催予定)

テーマ:「子どもたちの学びを支え、地域とのつながりを生み出す図書館の可能性」

学校司書が配置されていない丹波市において、子どもたちの育ちを支え、人と人をつなぎ、学び合いを通じた人づくりを目指して行われている地域・学校・家庭の連携・協働や図書館の役割、子ども司書の活躍や学校図書館サポーターについて考える機会とする。

発表者: 【行政】 丹波市立中央図書館 司書

【市民】 学校図書館サポーター

【NPO】 特定非営利活動法人丹波ひとまち支援機構

ゲスト: 宮澤優子氏(長野県 高森町立高森北小学校学校司書・高森町子ども読書支援センター司書)



④連携 人材育成事業の開発や「丹波市版地域学校協働活動ハンドブック(仮)」の作成に向けた行政との連携

プロジェクトの成果

1. 行政による地域学校協働活動人材育成プログラムの予算化、ハンドブック作成に向けた連携が進んだ
2. 研修会や本の展示等で公共図書館との連携、学校図書館サポーターとの連携が進んだ
3. 学校の地域学校協働活動や学校図書館に対する意識、地域学校協働推進員の現状・課題が把握できた
4. 学校管理職研修会への講師派遣や市外の地域づくり団体の視察対応など、講師依頼が増加した

市営住宅集会所を活用した多文化多世代の地域コミュニティ拠点づくり事業

公益財団法人神戸 YWCA

1. 事業が目指すところ

「高齢化する復興住宅の生活者に求められていることって何だろう」

2022年11月、神戸市建築住宅局が募集した市営住宅地域コミュニティ活性化事業に応募、採択され、2023年4月から市営 HAT 神戸・灘の浜南集会所を「なだのはまエイト」と名付けて、活動を開始しました。活動拠点となる HAT 神戸灘の浜は、阪神淡路大震災の後、震災復興住宅として、UR、県営、市営住宅が建設された地域です。震災から 29 年、超少子高齢化など現在の復興住宅が抱える課題を把握し、神戸 YWCA のこれまでの活動経験と支援のネットワークを生かして、地域コミュニティの課題に共に向きあいたいと願っています。

2. 活動内容



- 居住者との交流機会の創出
- ・ 年間を通してのバザー開催
- ・ 毎週金曜日の野菜市



- 地域との関係づくりや調査
- ・ つぶやきカフェ
- ・ 毎月一度の地域清掃活動参加



- 内外の人流を動かすために
- ・ 集会所の貸与

活動の柱は3つです。それぞれのプログラムが連携し相互に作用しながら、神戸 YWCA ならではの「地域の活性化とは何か」を見極めていきたいです。

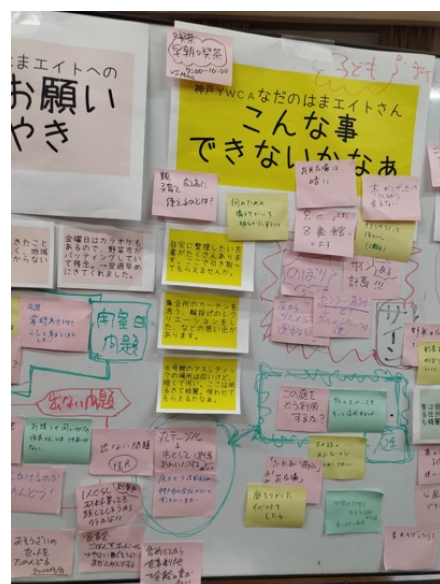
3. 成果や課題点

ここまで4回のバザーに延べ294人の来会者がありました。さらに新しい人と出会うべく、8月からは毎週金曜日の野菜市を実施。当初は数名の参加が、現在は20人近くの方が来られ、「この野菜、どう調理する?」「また来週」と言い合えるようになりました。また毎月1回、地域清掃後のつぶやきカフェも開催。それぞれが交流の場であり、次の活動のアイデアを聞きとる場となっています。

今の課題は「どこに集会所があるかわからない問題」そして「どうやって毎日開館するか問題」!

4. 今後の展望、成果の活用

この一年は、私たち自身が地域を学ぶ時間でした。それはまだ不十分で、これからも続きます。まずは知り合った方々、出会った方々からの小さな発信(つぶやき)を見える化し、小さくてもテンポよく実現して行くこと、その過程を通して、地域で求められているもの、そして神戸 YWCA だからこそ応えられる活動を見出していけたらと願います。



『2023 年度兵家連』（連携重視事業）

(公社)兵庫県精神福祉家族会連合会)

1. 事業が目指すところ

こころの病に苦しむ方々は、継続的な就労に就くことが難しく、生活保護や障害年金や作業所やパートやアルバイトで生計を立てている人が多い。生活に密接に関係する医療費については、通常3割負担ですが、精神障害者保健福祉手帳を所持しておれば、重度障害者医療費助成制度の活用により通院費用や入院費用が大幅に安くなる場合がある。県内では、精神障害者保健福祉手帳の等級により各市町独自の制度によってこの助成対象が異なっており不公平ですが、その現状を知っている人が少ない。通院費や入院費用の医療費助成の内容を説明して、兵庫県内各市町村での差別の現状を説明して、各市町間の不平等性の解消に繋げたい。



2. 活動内容

| | 開催月日 | セミナーのテーマ |
|---|--------|----------------------------------|
| 1 | 8月19日 | 令和5年度精神障害者保健福祉手帳による医療費助成（福祉医療）制度 |
| 2 | 11月11日 | |
| 3 | 2月23日 | |

3. 成果や課題

2回までの開催で参加者延べ105名であった。

1回目セミナーでは、兵庫県下における各市町での医療費助成制度の相違点を説明された。神戸市や姫路市

では、1級迄が助成対象ですが、加西市や丹波市では3級迄が助成対象という不平等な状況です。

2回目セミナーでは、12府県における医療費助成制度の相違点を説明された。岐阜県、山梨県、愛知県、奈良県では殆どの市町で2級迄が助成対象になっている先進県であり、兵庫県は中間的な状況。3回目セミナーでは、身体障害者や身体障害者の手帳保持者の助成対象の不平等状況について学びます。

4. 今後の展望と成果の活用

夫々の市町の市民は、自分の市町の医療費助成制度に従って助成を受けているが、他の市町との助成制度との差異に気づいていない、又は、気付いたとしても仕方がないものと思いがちです。小さな市町だから助成対象が少ないのではなく、その市町に住む市民の意識により、そして、市町への要望の力強さによりこの助成対象が左右されていることに、意識が辿り着いていない。セミナーのリアル参加者が30名程度であったのが、ZOOMで開催すると総数70名にもなり関心の高いテーマである。これからも出来るだけ多くの方々への発信を続けていき、各市町そして県への要望書の提出や議会活動により、医療費助成対象の平等化を進めていきたい。



みなさま、はじめまして！

「地域チャレンジセンター・プラス」です！

神戸市北神地域・西宮市北部を主な活動拠点とし、地域社会にそして自分自身に「プラス」を生み出したいと考える人が集えるような「場をつくる」活動を始めました。2022年3月に立ち上がったばかりの中間支援団体ですが、北神地域に縁のある方がつながれるような取り組みを進めていきます。

2023年3月31日にNPO法人格取得しました。神戸市北区を拠点とした中間支援活動に取り組みます。

●主な活動内容

1. 市民活動やNPOの立ち上げや運営に関する相談支援を行います。
2. 北神地域で活動する人たちの「つながり」を作ります。
3. 北神地域の魅力を、掘り下げていく場をつくりまします。
4. 北神地域内に多様な「居場所」を作るサポートを行います。

【中間支援活動助成(創設支援事業)】

| 講座① 「非営利団体の広報 はじめの一步講座」 | 講座② 「NPO法人向け 年度末やる ことまるわかり講座」 | 地域アイデア創出会議 「ピース&ネイチャーと考える、 これからのSDGs」 |
|---|---|--|
| 自分たちの活動が伝わらないと 考えている団体を対象に、リサイ クルショップのコンサルティング を行う講師から「伝えるコツ」を 学ぶ講座を開催しました。 | 事業年度終了後の手続きについ て、報告書類等の作成や通常総 会、理事会の開催方法、所轄庁等 への報告のスケジュールなどにつ いて開設する講座です。 | 神戸市北区大沢町にて里山保 全等の活動に取り組んでおら れるゲストより、地域の伝統文 化を重んじながら、活動を通じ て若い世代へ保全の大切さな どを継承される活動について 考えました。 |
| 日時：2023年10月28日(金) 14:00~15:30 場所：北神区文化センター 参加者：2名 講師：千馬雅史さん(コンサルタ ント/法人理事) | 日時：2024年2月21日(水) 14:00~16:00 場所：北神区文化センター 参加者： 講師：大島一晃(法人代表理事) | 日時：2024年1月19日(金) 14:00~15:30 場所：大沢地域福祉センター 参加者：6名 ゲスト：バハラム・イナナルさん (NPO法人Peace&Nature 代表理事 CEO) |

北神地域初の中間支援組織

地域チャレンジセンター・プラス

challengecenter.plus.
kobe@gmail.com

多様な社会・地域に対応した子ども・若者まるっと支援事業

(特非)地域チャレンジセンター・プラス

新旧の住宅地が混在した特徴ある地域である神戸市北神区および西宮市北部(いわゆる裏六甲エリア)は、「過疎地で孤立した母親」と「新地域でキャリアと子育てのジレンマを抱えながらのワンオペ子育ての母親」が存在している地域です。また、母語が非英語圏の外国人親子も増加傾向にあり、言語の問題から社会との接点を持たず孤立状態に陥っていることや、公営住宅や UR も多い土地柄のため困窮世帯やひとり親世帯も増加傾向にあります。しかし、「最初の一步として相談できる人や場」がない現状です。子どもの「生きる力」の原点は母親の「生きる力」であり、乳幼児の発育環境が学齢期の子どもの発達に大きな影響を与えることと考えられます。窮状にある母親が少しでも自分らしく心穏やかに生活できるためには、支援する人や場、機関などさまざまな社会資源との出会いが必要ですが、圏域の社会資源が「見える化」されていません(行政も手を付けることができていないようです)。昨年度は、圏域内における子ども若者やその家族を支えるための人的資源を洗い出し、見える化するための取り組みを行いました。

2年目である今年度は、昨年度の活動の補充とステップアップを目指し、①地域の居場所の実態調査、②地域の仲間の発掘と連携、③講座・交流会を実施しました。

●居場所実態調査

| 団体名 | 訪問日 | 団体名 | 訪問日 |
|-------------|--------|--------------|-------|
| 道場こども食堂 | 6月24日 | NPO 法人美 rais | 1月23日 |
| 合同会社あおいそら | 9月19日 | 三田里山工房 | 1月28日 |
| ココロの居場所ふわっと | 12月25日 | リ・ボン | 2月3日 |

●まるっと体験交流会と相談支援

| 実施日 | 内容 | 参加人数 |
|-----------|---|-----------|
| 9/30 | 【ちょこっと工夫でちょっぴり暮らしを楽しく】 生活に困りごとのある子育て世帯とリサイクルショップを運営しながら女性の企業等を応援する合同会社あおいそらのネットショップを活用した生活用品等の売上のノウハウの講座と交流会を実施。 | 15人 |
| 10/15 | 【お米の臼引き体験&芋ほり交流会】 昨年度に続き、JLC 自然塾の協力のもと、地域の親子の自然体験をととした交流会を実施。 | 32人 |
| 11/26 | 【ココロもお肌もピカピカキラリ～お金を掛けずに楽しめるセルフエステ】 シングルマザー等、日頃、子育てや仕事などに追われ、なかなか自分の心身の健康を後回しにしている子育て中の母親に、経済的な負担なく楽しめるセルフエステを NPO 法人美 rais の協力のもと体験してもらい、同じ立場の者同士の思いを共有する交流会の場を実施。 | 20人 |
| 2/3 予定 | 【木のぬくもりでリラックス】 日頃忙しいシングルマザー等の母親を対象に、木のミニワークを体験しながら、当事者同士や当事者を支援する支援者との交流を図る。 | 20人 予定 |

●支援者研修会と交流会

| 実施日 | 内容 | 参加人数 |
|------|-----------------------|------|
| 9/23 | 対人援助についての研修と支援者同士の交流会 | 15人 |
| 1/29 | 支援者ミーティングと交流会 | 6人 |

C Group



| 団体名・企業名・学校名 | 事業名(助成団体のみ) |
|-----------------------|------------------------------------|
| 第一生命保険株式会社 芦屋オフィス | |
| 関西福祉大学 萬代ゼミ | |
| (認定)コミュニティ・サポートセンター神戸 | コロナ禍における地域の居場所の活動実態調査－持続可能なつながりの探求 |
| (特非)シンフォニー | 地域NPOブラッシュアップ支援事業 |
| Toyooka AgRestart | 「耕作放棄地を解消し、里山を再生。過疎地域に賑わいを。」事業 |
| (特非)里地里山問題研究所 | 農村課題解決と地域活性化に貢献する関係人口創出・拡大事業 |

第一生命の地域貢献活動

一生涯のパートナー
第一生命
Dai-ichi Life Group

全国4万1千名の生涯設計デザイナーを通じて、**地域の課題解決**に取り組んでいます。

For Women
安心して働けるために



For Seniors
もしものときのために



For the Earth
地球環境のために



MESSAGE



第一生命保険株式会社 代表取締役社長 隅野 俊晃

地域の皆さまと共に持続可能な社会の実現を目指します。

第一生命は、1902年の創業以来、社会保障制度の一翼を担う生命保険会社として、その時代に応じて人々の幸せの実現や社会課題の解決に努めてまいりました。人生100年時代を迎え、一人ひとりの価値観が多様化する今、地域に根差す企業として、万が一の際の「保障」を磨き続けるだけでなく、「資産形成・承継」「健康・医療」、さらには人と人、人と地域や社会との新しい「つながり」を通じて、お客さまのQOL(Quality of Life)の向上 ※や地域の課題解決に貢献してまいります。日々、全国4万1千名の生涯設計デザイナーがお客さまにお会いし、確かな安心と充実した健康サポートをお届けするように、地域の皆さまとのつながりが、第一生命の強みです。こうした強みを活かして、地域の皆さま、お客さまに、真っ直ぐに向き合い、持続可能な社会の実現を目指していきたいと考えています。

※QOLの向上とは、その人の望む人生や、こう生きたいという生活・生き方を実現することを指す。

| | | | |
|----------------------------|----------------------------------|------------------------------|-----------------------------------|
| 保障 保険普及等による生活の安定 | 資産形成・承継 人生100年時代の安心な老後 | 健康・医療 あらゆる人々の健康の増進 | つながり・絆 安心・安全で住みやすい地域づくり |
|----------------------------|----------------------------------|------------------------------|-----------------------------------|

数字で知る第一生命

| | | | |
|-----------------------------------|-----------------------|--|---|
| 保険金・給付金のお支払い額 1日約 44 億円 | 創業 1902 年 | お客さま数 (個人) 約 1,000 万人 (法人) 約 16 万社 | 都道府県との包括連携協定数 42 2023年1月時点 |
| 2021年度時点 | 総資産 約 38 兆円 | 社員数 約 52,000 名 | |

第一生命は全国に広がるネットワークを活用し、**地域の課題解決**に取り組んでいます。

47都道府県にとどまらず、全国の市区町村も含めた**自治体との連携**を広げています。

| | | | |
|--------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 健康増進 For Health | 女性の活躍推進 For Women | 高齢者支援 For Seniors | 地域活性化 For Society |
| 環境取組 For the Earth | 子ども・教育 For Kids | 安全・防災 For Safety | スポーツ振興 For Sports |

地域のネットワークと連携して課題解決へ！

| | |
|---|--|
| 第一生命 | 地域のネットワーク |
| <ul style="list-style-type: none"> 全国各地に広がるネットワーク 生涯設計デザイナー 約4万1千名 支社・営業オフィス 約1,320 拠点 丁寧なお客さまフォローによる安心 | <ul style="list-style-type: none"> 地域密着の強み 自治体 (都道府県・市区町村等) 警察 情報やノウハウの共有 専門医療機関 パートナー企業 |

今までも、これからも、地域のみなさまの健康づくりを応援しています。

第一生命の健康増進に関する歩み

- 1902年 第一生命保険相互会社創業
- 1913年 創業者の矢野恒太、北里柴三郎を助けるべく日本結核予防協会理事就任
- 1935年 結核の予防・治療を目的として財団法人「保生会」設立
- 1939年 長期療養所「保生館」(後の保生園、現・新山手病院) 開園
- 1950年 保健衛生の向上を目的として「保健文化賞」創設
- 1959年 財団法人「心臓血管研究所」設立
- 1988年 健康・医療をはじめ人生設計について調査する「㈱ライフデザイン研究所」(現・㈱第一生命経済研究所) 設立
- 1998年 医療・介護分野の調査・研究を目的として「㈱第一生命ウェルライフサポート」(現・㈱第一生命経済研究所) 設立
- 2000年 健康・医療・介護等のサービスを充実する目的で契約者向けポイントサービス「ドリームキングダム」開始
- 2008年 契約者ポイントサービス「ウィズパートナー」を開始
- 2012年 国立がん研究センターと連携開始(がん情報)
- 2013年 公益財団法人がん研究会と連携開始(がん情報)
- 2014年 国立循環器病研究センターと連携開始(循環器病情報)
- 2015年 国立長寿医療研究センターと連携開始(認知症その他の長寿医療情報)
- 2016年 国立成育医療研究センターと連携開始(成育医療(小児・周産期)情報)
- 2017年 健康づくりをサポートする健康応援アプリ「健康第一」を公開
- 2018年 国立国際医療研究センターと連携開始(感染症および糖尿病・肝炎などの疾患情報)
- 2018年 国立精神・神経医療研究センターと連携開始(精神・神経・筋疾患などの疾患情報)

1 1935年当時の課題

【結核対策】

●1935年の死因

| | | |
|-------|------------|--------|
| 1位 結核 | 2位 肺炎・気管支炎 | 3位 胃腸炎 |
|-------|------------|--------|

第一生命創業者の矢野恒太が「保生会」を設立

2 1959年当時の課題

【循環器病対策】

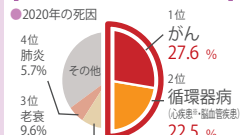
●1959年の死因

| | | |
|----------|-------|--------|
| 1位 脳血管疾患 | 2位 がん | 3位 心疾患 |
|----------|-------|--------|

専門研究・医療機関として「心臓血管研究所」を設立

3 現在の課題

【死因上位疾患への対策】



【認知症対策】



国内最高峰の専門医療機関と連携

1935年-1959年の死因：厚生労働省「我が国の人口動態」(2017)
2020年の死因：厚生労働省「人口動態統計」(2020)
認知症の高齢者：厚生労働省「認知症施策推進総合戦略(平成29年7月5日)」

健康増進 For Health

地域に根ざした健康増進活動に取り組む

●すべてのナショナルセンターと連携し、正しい情報の提供や予防啓発に取り組んでいます。

| | | |
|--|--|---|
| 国立循環器病研究センター 循環器病 リーフレットや減塩メニューの料理カードを通じて、がんの正しい知識をお伝えしています。 | 国立がん研究センター がん リーフレットの発行やセミナーの開催などを通じて、がんの正しい知識をお伝えしています。 | 国立精神・神経医療研究センター 精神・神経・筋疾患 精神・神経・筋疾患などに関する正確かつ最新の健康・医療情報を発信しています。 |
| 国立長寿医療研究センター 認知症その他の長寿医療 認知症予防やその他の長寿医療に関する知識について情報提供を行っています。 | 国立成育医療研究センター 成育医療 成育医療に関する基礎知識や予防・治療について幅広く情報提供し、健全な次世代の育成をサポートします。 | 国立国際医療研究センター 感染症・糖尿病・肝炎 感染症や糖尿病、肝炎などに関する正確かつ最新の健康・医療情報を発信しています。 |

●健康応援アプリ「健康第一」を提供し、一人ひとりの健康づくりをサポートします。

健康診断結果で **今の健康状態** と **将来のリスク** がその場でわかる!

| | | |
|--------------------|--------------------------|------|
| あなたの健康年齢※1と健康タイプは? | 同年齢・性別と比較したあなたの疾病リスク※2は? | 健康第一 |
|--------------------|--------------------------|------|

※1 「健康年齢」は(株)JMDCの登録商標です。
※2 各疾患のチェック対象年齢
がん：45~74歳
脳卒中・脳梗塞・心筋梗塞：40~69歳
糖尿病：30~83歳

●社会貢献活動に関する包括連携を結び、地域社会の活性化および発展に取り組んでいます。

主な取組内容

- 子どもの育成および子育て支援
- 健康増進
- スポーツ振興
- 地域社会の活性化

環境取組 For the Earth

地球環境のサステナビリティの確保に向けて

| | |
|--|---|
| 地域に根差した環境取組 地球環境保護への取組の一環として、各地での清掃活動をはじめ、食品ロス削減に向けたフードドライブ活動、資源の再利用に向けた古着リサイクル活動等に取り組んでいます。 | 機関投資家としての環境取組 秋田県の再生可能エネルギー導入の拡大と産業振興が期待できる洋上風力発電事業向けのプロジェクトファイナンス等に投資しています。 当社の責任投資活動の詳細は記載の2次元コードからご覧ください。 |
|--|---|

女性の活躍推進 For Women

地域の女性の活躍推進を応援する

- 働きやすい職場づくり
- 保有不動産への保育所・学童保育誘致



▲女性活躍推進セミナー(北海道)
地域企業の経営者や人事担当者をお招きし、「女性の活躍推進」や「ワーク・ライフ・バランス」をテーマにしたセミナーを開催しています。



▲鎌倉第一生命ビルがうちゅう保育園から」
社会課題となっている待機児童対策の一環として、自社保有不動産に保育所や学童保育を誘致するなど、子育てしやすい社会の実現に貢献しています。

高齢者支援 For Seniors

地域に密着した活動を通じて高齢者をやさしく見守りたい

- 高齢者見守り活動
- コグニサイズ



▲認知症サポーター養成講座(長崎県)
認知症を正しく理解してもらい、認知症の方や家族を温かく見守る認知症サポーターの養成をはじめ、高齢者が安心して暮らせる見守り活動を実施しています。



▲認知症予防体操「コグニ体操」
国立長寿医療研究センターが開発した「頭」と身体を同時に使うことで脳とからだの機能を効果的に向上させる運動プログラム「コグニサイズ」。音楽付き認知症予防体操「コグニ体操」のDVD提供等を通じて認知症予防啓発を行っています。

地域活性化 For Society

ニーズをとらえ地域の強みを引き出す

- 経営者向けのセミナー
- 地元サラ川



▲経済セミナー(三重県)
第一生命経済研究所のエコノミストをはじめ、さまざまな分野の専門家によるセミナーを開催し、ビジネスや経営に役立つ情報をお届けしています。



▲ジモサラ(地元サラ川)
長年継続してきた川柳コンクール(川柳)の知名度や運営ノウハウを活かし、地域課題への関心や共感をいただくことで、自治体の課題解決に向けたお手伝いをしています。

子ども教育 For Kids

未来への一歩を心強くサポート

- 黄色いワッペン贈呈事業
- 金融保険・消費者教育



毎年、全国の小学校の入学一年生に交通事故傷害保険付きの「黄色いワッペン」を贈呈しています。



ライフイベントや消費者被害事例等について、すころ形式で楽しみながら学習でき、お金の大切さや将来に備えることの重要性を感じただけの「ライフサイクルゲーム」を全国の学校へ提供し、当社社員による出張授業も行っています。

安全・防災 For Safety

いざというときの安心のために

- 犯罪・災害に関する注意呼びかけ活動
- 子ども110番の家



▲振り込め詐欺被害防止活動(富山県)
自治体・警察と連携し、防犯や防災、交通安全に関する注意呼びかけ、不審な点を発見した際の連絡などの活動を行っています。



▲子ども110番の家(大阪府)
いざというときに子どもたちが避難できるように、地域の営業拠点を「子ども110番の家」にする取組みが広がっています。

スポーツ振興 For Sports

健康サポート活動として

- Run with You
- 第一生命全国小学生テニス選手権大会



市民マラソン大会への協賛やランニング教室の開催など、ランナーの皆さまを応援するプロジェクト「Run with You」を全国で展開しています。



「世界に通用する選手育成のためにはジュニアからの強化が重要である」という(公財)日本テニス協会の趣旨に賛同し、1983年の第1回大会より特別協賛するとともに、当社所有のコート(東京・仙川)を大会会場として提供しています。これまでに、錦織圭選手、奈良くるみ選手ら、国際的に活躍する選手を多数輩出しています。

第一生命の社会貢献活動の歴史

結核対策のために「保生会」設立

明治末期の日本国内では結核が猛威を振るっていました。医者であり第一生命創業者でもある矢野恒太は結核亡国を憂い、北里柴三郎博士を助けながら、その予防と撲滅を説いて歩きました。1913年には日本結核予防協会を設立、北里柴三郎が理事長、矢野恒太が理事に就任しました。また、小冊子「通俗・結核予防の心得」(矢野恒太著・北里柴三郎監)を作って無料配布したり、講演や執筆にも奔走します。

1935年、生命を保つという意味から財団法人「保生会」を設立、この取り組みが第一生命の社会貢献活動の先駆けともなりました。1939年には長期療養所である「保生館(後の保生園)」を東京の東村山に開設するとともに、全施設を結核予防会に寄付しました。

なお「保生館(保生園)」は、現在「新山手病院」となっており、その裏山が「八国山」といわれることから「八国山病院」の愛称でも知られています。



やの つねた
矢野 恒太

保生会社に就職のち農商務者に勤務し、保険業法を起草する。また同商工局保険課の初代課長に就任。1902年わが国最初の相互会社第一生命を創立。以後専務取締役、社長、会長を歴任した。また「日本国勢図会」を刊行し、統計知識を国民に普及することにも尽力した。



きたさとし しばさぶろう
北里 柴三郎

医学博士で伝染病研究所(現在の東京大学医学部)の初代所長。第1回ノーベル医学・生理学賞の候補にも挙がり、私立北里研究所(現在の学校法人北里大学)の創立者兼初代所長並びに北里大学学祖となる。日本医師会設立者兼初代会長。写真提供:学校法人北里研究所

保健衛生向上のために「保健文化賞」創設

保健文化賞は、戦後の衛生環境が悪化していた中、わが国の保健衛生の向上に取り組む団体・個人に感謝と敬意を捧げる賞として1950年に創設されました。厚生労働省などの後援を得て毎年実施しており、最も長い歴史を持つ第一生命主催の社会貢献事業です。

例年、受賞者は天皇皇后両陛下の拝謁をお受けいただいています。



●第71回保健文化賞贈呈式

第一生命の社会貢献活動

環境の保全



「都市の緑3表彰」(緑の環境ブラン大賞、緑の都市賞、屋上・壁面緑化技術コンクール)への支援を通じ、「都市環境の保全と再生」、「地域コミュニティの形成・生活の質の向上」に資する緑化の取組みに貢献しています。

セナ(文化芸術の振興)

文化や芸術を支える活動に取り組んでいます

- 認定NPO法人 トリトン・アーツ・ネットワーク
- VOCA(ヴォーカ)展・第一生命ギャラリー
- モーツァルトイベント開催



第一生命ホール(晴海)を拠点に公演事業と学校や福祉施設などに音楽をお届けするアウトリーチ活動を行っています。



40歳以下作家による現代美術展の協賛、当社ギャラリーでの受賞作品展示を通じ若手芸術家を支援しています。



モーツァルトの住家修復支援に賛同、友好関係を築いた国際モーツァルト財団とのコレクション展・コンサートを行っています。

社員による地域・社会貢献活動

- 全国各地の社員によるボランティア活動
- 社内AED講習



左より、災害ボランティア活動、清掃活動、チャリティウォークへの参加



定期的開催し、救命措置の大切さを伝えています。

引受保険会社
第一生命保険株式会社
〒100-8411 東京都千代田区有楽町1-13-1
電話 (03) 3216-1211 (大代表)
◎ホームページ <https://www.dai-ichi-life.co.jp/>

お届けしたのは…

石川県能登半島地震復興支援ボランティア

～私達ができる事を探して～

関西福祉大学 萬代ゼミ

・ボランティアの背景

令和5年5月、石川県にて最大震度6強の地震があった。石川県全体での人的被害は比較的少なかったが、珠洲市では家屋の一部倒壊・全壊など住居被害があった。しかし、多くの人達の協力により復興が進んでいたため、特別養護老人ホーム第三長寿園を中心とする心のケアを学生15名・引率教員1名で行った。

・目的

現地での活動を通して地域の活性化を図り、今まで通りの笑顔と元気で溢れる生活を取り戻してもらい、被災前よりも強い住民同士のつながりを持ってもらうこと。

・活動内容

1, 現地活動/実施日令和5年8月7日(月)～8月10日(木)

今回の活動では珠洲市にある、社会福祉法人長寿会特別養護老人ホーム第三長寿園に協力してもらい、利用者と一緒に盆踊りやヨーヨー釣りを行った。加えて、この地震の影響で一部崩落した見附島をはじめ、珠洲市の観光地を取り上げ観光マップ作製も実施した。

2、現地活動以外にも募金活動や、災害復興支援ボランティアの事・現地活動で学んだ事を、本学のコミュニティアワー報告会と兵庫県要約筆記サークル連絡協議会東播・西播地域交流学习会で話をさせていただいた。

活動の様子



・成果

第三長寿園の方に対話や活動を通して喜んでいただき、日々の地域住民や人とのつながりが、災害発生時に強い力になることを学んだ。そして、現地での交流を通して人との交流が前を向く原動力になり、元気で明るいエネルギーは被災者に伝染することを体感した。加えて、地震発生から3か月も経っているにもかかわらず、修繕されていない箇所や現地の人に聞いて初めて知る困難などメディアで報道されていることは、ごく一部のものであり実際に見るのとは大きく違うと知った。さらに、災害発生時の情報の整理・伝え方には、もっと配慮する必要があることが分かった。特に聴覚障害者は、警報音や速報などが聞こえないので避難が遅くなる可能性が高いと気付いた。

・課題

現地活動で地域住民に直接介入する関わりが施設以外であまりできなかったこと。また、私たちが現地で学んだ事を得た知識や情報を外部に伝える活動が少なかったことが課題である。

地域の居場所の活動実態調査事業 コロナ禍にみる居場所のレジリエンス

～しなやかに継続・発展できた理由はなんだったのか～

1. 事業の目的

地域コミュニティの再構築や地域課題解決の場として、「地域の居場所」が注目されていますが、コロナ禍の影響で、多くの居場所が活動の休止や縮小を余儀なくされた。そんな没交流の日常の中でも、しなやかに継続・発展した居場所も数多く存在した。今回の調査事業では特に週 3 回以上開設している常設型の居場所の「レジリエンス(回復力・適応力)」に着目し、コロナ禍の影響とその対応を明らかにしつつ、リーダーシップ、つながり、環境等の要素から、コロナ禍を経験した居場所がどのように継続・発展していったのか明らかにした。

2. 事業の内容

- ①アンケートおよびヒアリング調査 (アンケート調査 13 団体/ヒアリング調査 8 団体)
- ②調査報告書の作成 (全 5 章・64 ページからなる調査報告書を発行/後日 HP で公開予定)
- ③調査報告会の実施 (調査報告書をもとに、2024 年 2 月 9 日に兵庫県民会館にて報告会を予定)
- ④常設居場所の共同広報および調査報告会の PR (2023 年 11 月 26 日産経新聞全面広告を掲載)

3. 事業推進体制

CS 神戸が実施主体となり、智雲ボランティア活動研究所、兵庫県立大学 NPO 研究連携センター、NPO 法人きょうどうのわとの共同研究として実施した。

4. 成果と課題

リーダーシップのあり方として「心のチャレンジ(静謐な情熱)」、「頭のチャレンジ(小さな工夫/戦略的思考)」、「手のチャレンジ(行動力/情報発信力)」や、環境要因としての日常的なつながりの重要性、柔軟な組織構造、場の設えとしての「縁側」の意義など、レジリエンスを発揮するための各要素が明らかとなった。しかしながら、常設居場所が人的・物的に課題を抱えている状況は継続しており、学識経験者と中間支援の共同研究を今後も進める中で、調査結果をより現場で活用してもらえるような働きかけや、常設居場所の意義の周知などが必要である。



調査報告書



報告会案内



産経新聞全面広告

(1) 相談事業

2023 年度は専門家による「夢応援相談」として実施。

- ①NPO 法人働き・生きがい仕事ネット（リハビリ友の会） 尼崎市神田北通
役員変更等の報告ができていない旨の相談があり、総会等手続きの支援を行う。
- ②NPO 法人あんだんて（放課後ティーサービス）
グループホーム建設の相談があり、空き土地の紹介（宅建業界と連携）
- ③NPO 法人ほこらしや（福祉グループ）（尼崎市武庫之荘）
解散手続きの相談があり、決了届等を指導
- ④NPO 法人 ASU ネット 尼崎市塚口
融資の相談があり、近畿労働金庫につなぐ（労金が訪問するも、融資にはつながらず）
- ⑤資金繰りで苦勞している団体が多いことを踏まえ、日本政策金融公庫の「ソーシャルビジネス相談会」（令和 6 年 2 月）開催につながった。

専門家（社労士、行政書士、税理士、弁護士）による「夢応援相談」を開始したが、相談が多岐にわたりくろうした。多くの団体は「事務支援」を求めていることも判明したが、資金繰り等も苦勞している団体が多い。そこで労金及び日本政策金融公庫と連携し、相談体制を強化していきたい。

(2) 書類作成支援

- ①尼崎国際交流協会の NPO 法人認証申請（法人格取得）
- ②NPO 法人歌と音楽の会の助成金申請支援（ひょうごコミュニティ財団、尼崎チャレンジコースの 2 件をお手伝いしたが、不採択）
- ③NPO 法人 ASU ネットより「ひょうごコミュニティ財団の電子申請」のお手伝い
- ④杭瀬商店街振興組合より「ワールド還付で有名になったサッカーの堂安律」の地元として商店街を盛り上げたいとの相談があり、ポスター作成

事務支援を求めている団体がおおくりるので、今後助成金申請などの電子申請など事務支援を強化していきたい。

(3) ボランティアマッチング

- ①インターン生は、日本の大学だけでなく、留学生も多く参加。述べ人数は 18 名。商店街でのお店ごっこ、パフォーマンス、子供支援、外国人との協働などを体験した。
- ②また商店街では「餅つき大会」の臼や杵の手配、ポスター掲示などもお手伝いにさんかした。

今後、長期インターン生（アルバイト型）や、社会的 OJT センターの取り組みなどを行っていきたい。

(5) ブラッシュアップセミナー

事業が目指すところとしては、インボイス制度の導入や、それに伴う事業計画作成の手ほどきを、社労士と税理士がセミナー及び相談事業にて実施致した。

また、感染症流行の社会的背景から、集客に苦勞する地域団体が多く、手助けになればと職業訓練パソコン講師が、WordPress を用いた集客販売促進プログラムのセミナーを実施致した。

①活動内容

| 日付 | 内容 | 講師 |
|-------|-------------------------------|-------|
| 10/28 | 社労士による事業計画づくり | 山崎 勲 |
| 11/4 | 税理士によるインボイスと電子保存法 | 福富 誉 |
| 11/11 | 職業訓練パソコン講師によるネット集客 | 大西 宏和 |
| 11/18 | プログラミングの知識不要のネット販促 | 大西 宏和 |
| 11/25 | 団体イメージを地域に浸透させるロゴマーク&名刺作成 | 大西 宏和 |
| 12/2 | デザインの知識が無くても、ターゲット層に効果的なチラシ作成 | 大西 宏和 |

③成果や課題点

プログラミングの知識不要とは言え、サーバーのレンタルや WordPress のドメインへのインストール等、初心者にはハードルが高く感じられる事が判明した。

例え話をを用いた紙芝居形式の説明で分かり易い授業を心掛けましたが、「手軽にできる」という受講者の先入観により、困難に感じられたようだ。

④今後の展望、成果の活用

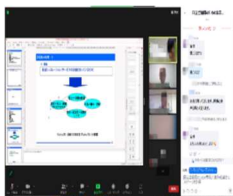
地域団体の活動を支援する為、オフィスソフトを用いた帳票類作成・名簿整理・チラシ作成・ビジネス文書作成等の、パソコン初心者にも認知度の高いスキルを授業で扱っていきたい。

(5) 今後の方向性

地域団体の直接の課題は信金繰りであるが、その内容に入っていくと、集客の失敗、魅力づくりの失敗など多岐にわたる。そのすべて手に共通しているのは人勢育成であり、特に事務能力、営業能力をもった人勢育成が急務である。

しかし、一方では、パラレルキャリア時代やテレワークが流行し、副業・起業の志向も強まっていて、地域団体への参加は学生だけでなく、企業人も増えている。

そこで、ICT を使った事務支援による人材育成や、長期インターン（アルバイト型）を模索していきたい。



「耕作放棄地を解消し、里山を再生。過疎地域に賑わいを。」事業

Toyooka AgRestart

1 事業目的

人口減少・少子高齢化において、地方の担い手が不足し活力が失われている。この状況は今後も続き、農地を含む里山の荒廃が進んでいく。地域や農地の担い手が減少している地域の耕作放棄地を解消し、兼業農家や非農家が持続可能な形で農地を担い、都市部からの体験交流を促し活力を創造する。

兼業農家や非農家が手を取り、地域農業を通じた地域の活性化につなげる「農ある暮らしの再発見」を通じて、持続可能な地域づくりを展開する。地域固有の取組みであるコウノトリの共生や支えあう地域づくりを社会実装する。

2 活動内容

(1)里山の再生(耕作放棄地の解消・地域住民との交流)

人口減少、少子高齢化に起因する地域の担い手不足による農地荒廃を解消し、県民の美しい農村を次代に繋ぐ。



(2)「農ある暮らし」の再発見事業

人口減少や農業を取り巻く厳しい環境(農産物の取引不安定等)により離農が増える地方農業の担い手を維持するため、兼業農家や非農家の農業への接点づくりを展開する。



3 成果・課題点

成果:活動エリアの耕作放棄田 21 枚約 1ha を復田し、地域や地権者へバトンを渡しました。地権者や地域が農地の維持に対して意欲的に取り組まれることとなりました。

地域の離農した兼業農家や非農家の方々に、農業に関心を持っていただける機会となり、活動メンバー増。

課題:専業・兼業農家の離農が増え、地産地消も激減している。活動情報の発信力が弱かったためか想定より参加者が少なかった。

4 今後の展望・成果の活用

2023 年度参加者に継続して関わってもらえるよう SNS 等でコミュニティ化し、活動情報を共有。対外的な情報発信力も向上させる。成果物の輸出も強化し、海外の消費者に向けたオンライン&リアルな体験活動を実施し、ファン強化へ。

農村課題解決と地域活性化に貢献する関係人口創出・拡大事業（3年目）

1 本事業が目指すところ

本団体は、人口減少・高齢化による担い手不足に悩む農村を支援するため、地域内外の多様な人材とともに地域が活性化までを支援する「**獣がい対策**」を推進している。本事業では、特に地域外から農作業や地域活動に関心のある人（**関係人口**）を募集し、耕作放棄地の増加や人手不足に悩む地域を応援するために、農作業ボランティアや農作物を活用したイベントを実施。丹波篠山市内の複数の集落で活動を行いながら参加者・地域双方の課題解決・満足度の向上を目指す。なお事業の助成金の使途は農作業・イベント資材、ボランティア募集・連絡ツールの利用、イベント運営に当たる人件費等である。

2 活動内容

本事業では主に3つの活動を実施した。1つ目は**黒豆ボランティア**（丹波篠山市安口西集落）、2つ目は**丹波栗栽培支援ボランティア**（丹波篠山市矢代集落）、3つ目は**耕作放棄地そば栽培・そば打ちイベント**（丹波篠山市藤坂集落）である。またそれ以外にも、ボランティア募集のプラットフォーム参加者とコミュニケーションを図るため「**公式LINE**」を年間を通して運用した。



黒豆栽培ボランティアの様子



栗拾いボランティアがテレビ朝日『グッド！モーニング』で放送

黒豆ボランティア
（丹波篠山市安口西集落）
4月～12月
全35回実施
（1～2週間に1度開催）

丹波栗栽培ボランティア
（丹波篠山市矢代集落）
9月～10月
全4回実施

耕作放棄地でそば・小麦栽培（丹波篠山市藤坂集落）
8月～2月
全5回実施



そば畑での収穫作業の様子



蕎麦打ちイベントの様子（昨年度）

育てたそばで蕎麦打ち体験
2月12日・24日に実施予定

実際のさともん公式LINE



さともん公式LINEの運用
年間通じて

3-1 成果

2023年度は**401名**（延べ）が地域外から様々な活動に参加した。

これまで取り組んでいた「黒豆ボランティア」の集客・運営ノウハウを生かし、丹波篠山市内の**複数の集落の課題解決のためのプログラム**（栗収穫・そば）を実施、収穫や試食の体験を実施、さらに来年度以降の活動も見据えた関係性づくりを行った。栗拾いボランティアについては、テレビ朝日『グッド！モーニング』で**テレビ放送**され、反響も大きかった。

また公式LINEアカウントの運用も開始し、**143名**（2024年1月現在）が登録。活動毎の告知や報告に活用し週に1回程度配信を行っており、特に若年層などとのコミュニケーションが円滑になった。

3-2 課題

昨年と比較して、ボランティア参加者数は減少している。今後多くの地域・集落の支援をしていくためには、農作業ボランティア参加者を増加させるための施策や、企画・集客・運営に携わるボランティアリーダーやインターンシップ等などの制度設計が必要と考えている。

↓ボランティア参加者数（大人・子ども合わせて・地域外のみ・延べ人数）

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 計 |
|-------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|-----|
| 黒豆ボランティア | 30 | 27 | 48 | 29 | 41 | 16 | 29 | 49 | 32 | | | 301 |
| 丹波栗栽培ボランティア | | | | | | 33 | 32 | | | | | 65 |
| そば栽培・蕎麦打ち体験 | | | | 3 | 7 | | | 15 | 6 | 4 | | 35 |
| 合計 | 30 | 27 | 48 | 32 | 48 | 49 | 61 | 64 | 38 | 4 | | 401 |

4. 今後の展開や成果の活用

今後は、これまでの成果を活かし

1. 収穫や試食だけでなく普段の農作業のボランティア人数を増やしていく。
2. 企画・集客・運営に携わるボランティアリーダーやインターンシップ等などの制度設計・人材育成を行う。

そのために、SNSやボランティア募集プラットフォームを有効に活用して企画・広報を行うほか、大学や社会福祉を支援する団体等との連携を模索する。また活動を通じて収穫した農産物を、参加者や地域外の人が購入して地域を応援し、さらに活動が活性化するという「**応援消費**」の普及を目指し、市役所や地域内外の多様な人材と関わりながら展開を拓けていく。

D Group



| 団体名・企業名・学校名 | 事業名(助成団体のみ) |
|-----------------------|----------------------------|
| 第一生命保険株式会社 芦屋オフィス | |
| 生活協同組合コープこうべ | |
| 関西福祉大学 萬代ゼミ | |
| (認定)コムサロン21 | 播磨NPO中間支援センター事業 |
| (一社)神戸健康大学 | 健康寿命延伸セミナーの開催 |
| (特非)西脇てとて広場 | 生きづらさを抱えた子ども・若者の居場所 |
| (特非)コミュニティアートセンタープラッツ | 但馬地域におけるNPO活動の継続的支援と人材育成事業 |

第一生命の地域貢献活動

一生涯のパートナー
第一生命
Dai-ichi Life Group

全国4万1千名の生涯設計デザイナーを通じて、**地域の課題解決**に取り組んでいます。

For Women
安心して働けるために



For Seniors
もしものときのために



For the Earth
地球環境のために



MESSAGE



第一生命保険株式会社
代表取締役社長
隅野 俊晃

地域の皆さまと共に持続可能な社会の実現を目指します。

第一生命は、1902年の創業以来、社会保障制度の一翼を担う生命保険会社として、その時代に応じて人々の幸せの実現や社会課題の解決に努めてまいりました。
人生100年時代を迎え、一人ひとりの価値観が多様化する今、地域に根差す企業として、万が一の際の「保障」を磨き続けるだけでなく、「資産形成・承継」、「健康・医療」、さらには人と人、人と地域や社会との新しい「つながり」を通じて、お客さまのQOL(Quality of Life)の向上 ※や地域の課題解決に貢献してまいります。
日々、全国4万1千名の生涯設計デザイナーがお客さまにお会いし、確かな安心と充実した健康サポートをお届けできるように、地域の皆さまとのつながりが、第一生命の強みです。こうした強みを活かして、地域の皆さま、お客さまに、真っ直ぐに向き合い、持続可能な社会の実現を目指していきたいと考えています。

※QOLの向上とは、その人の望む人生や、こう生きたいという生活・生き方を実現することを指す。

| | | | |
|----------------------------|----------------------------------|------------------------------|-----------------------------------|
| 保障 保険普及等による生活の安定 | 資産形成・承継 人生100年時代の安心な老後 | 健康・医療 あらゆる人々の健康の増進 | つながり・絆 安心・安全で住みやすい地域づくり |
|----------------------------|----------------------------------|------------------------------|-----------------------------------|

数字で知る第一生命



第一生命は全国に広がるネットワークを活用し、**地域の課題解決**に取り組んでいます。

47都道府県にとどまらず、全国の市区町村も含めた**自治体との連携**を広げています。



地域のネットワークと連携して課題解決へ！



今までも、これからも、地域のみなさまの健康づくりを応援しています。

第一生命の健康増進に関する歩み

- 1902年 第一生命保険相互会社創業
- 1913年 創業者の矢野恒太、北里柴三郎を助けるべく日本結核予防協会理事就任
- 1935年 結核の予防・治療を目的として財団法人「保生会」設立
- 1939年 長期療養所「保生館」(後の保生園、現・新山手病院)開園
- 1950年 保健衛生の向上を目的として「保健文化賞」創設
- 1959年 財団法人「心臓血管研究所」設立
- 1988年 健康・医療をはじめ人生設計について調査する「㈱ライフデザイン研究所」(現・㈱第一生命経済研究所)設立
- 1998年 医療・介護分野の調査・研究を目的として「㈱第一生命ウェルライフサポート」(現・㈱第一生命経済研究所)設立
- 2000年 健康・医療・介護等のサービスを充実する目的で契約者向けポイントサービス「ドリームキングダム」開始
- 2008年 契約者ポイントサービス「ウィズパートナー」を開始。全契約者に健康・介護等のサービスを展開
- 2012年 国立がん研究センターと連携開始(がん情報)
- 健康・医療・介護等の電話相談を契約者などから受け付ける「メディカルサポートサービス」開始
- 2013年 公益財団法人がん研究会と連携開始(がん情報)
- 2014年 国立循環器病研究センターと連携開始(循環器病情報)
- 2015年 国立長寿医療研究センターと連携開始(認知症その他の長寿医療情報)
- 市民マラソンの協賛を柱とした「Run with You」プロジェクト開始
- 2016年 国立成育医療研究センターと連携開始(成育医療(小児・周産期)情報)
- 2017年 健康づくりをサポートする健康応援アプリ「健康第一」を公開
- 国立国際医療研究センターと連携開始(感染症および糖尿病・肝炎などの疾患情報)
- 2018年 国立精神・神経医療研究センターと連携開始(精神・神経・筋疾患などの疾患情報)

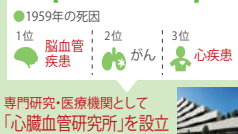
1 1935年当時の課題

【結核対策】



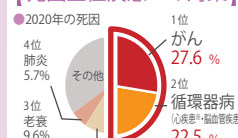
2 1959年当時の課題

【循環器病対策】

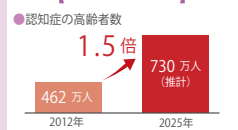


3 現在の課題

【死因上位疾患への対策】



【認知症対策】



国内最高峰の専門医療機関と連携

1935年-1959年の死因：厚生労働省「我が国の人口動態」(2017)
2020年の死因：厚生労働省「人口動態統計」(2020)
認知症の高齢者：厚生労働省「認知症施策推進総合戦略」(平成29年7月5日)

健康増進 For Health

地域に根ざした健康増進活動に取り組む

■すべてのナショナルセンターと連携し、正しい情報の提供や予防啓発に取り組んでいます。



■健康応援アプリ「健康第一」を提供し、一人ひとりの健康づくりをサポートします。

健康診断結果で**今の健康状態**と**将来のリスク**がその場でわかる！

あなたの健康年齢※1と健康タイプは？

健康診断結果をスマホで読み取るだけ！さらに改善のためのアドバイスも。

【年齢・性別と比較したあなたの疾病リスク※2は？】

健康状態や生活習慣からがん、脳卒中、糖尿病、心疾患、脂質異常症

健康第一

▼アプリのダウンロードは▼

健康第一

検索

※1「健康年齢」は(株)JMDCの登録商標です。
※2 各疾患のチェック対象年齢
がん：45~74歳
脳卒中・脳梗塞・心筋梗塞：40~69歳
糖尿病：30~83歳

■社会貢献活動に関する包括連携を結び、地域社会の活性化および発展に取り組んでいます。



環境取組 For the Earth

地球環境のサステナビリティの確保に向けて

●地域に根差した環境取組

地球環境保護への取組の一環として、各地での清掃活動をはじめ、食品ロス削減に向けたフードドライブ活動、資源の再利用に向けた古着リサイクル活動等に取り組んでいます。

●機関投資家としての環境取組

秋田県の再生可能エネルギー導入の拡大と産業振興が期待できる洋上風力発電事業向けのプロジェクトファイナンス等に投資しています。

当社の責任投資活動の詳細は右記の2次元コードからご覧ください。

女性の活躍推進 For Women

地域の女性の活躍推進を応援する

- 働きやすい職場づくり
- 保有不動産への保育所・学童保育誘致



▲女性活躍推進セミナー(北海道)
地域企業の経営者や人事担当者をお招きし、「女性の活躍推進」や「ワーク・ライフ・バランス」をテーマにしたセミナーを開催しています。



▲鎌倉第一生命ビルがうちゅう保育園から
社会課題となっている待機児童対策の一環として、自社保有不動産に保育所や学童保育を誘致するなど、子育てしやすい社会の実現に貢献しています。

高齢者支援 For Seniors

地域に密着した活動を通じて高齢者をやさしく見守りたい

- 高齢者見守り活動
- コグニサイズ



▲認知症サポーター養成講座(長崎県)
認知症を正しく理解してもらい、認知症の方や家族を温かく見守る認知症サポーターの養成をはじめ、高齢者が安心して暮らせる見守り活動を実施しています。



▲認知症予防体操「コグニ体操」
国立長寿医療研究センターが開発した「頭」と身体を同時に使うことで脳とからだの機能を効果的に向上させる運動プログラム「コグニサイズ」。音楽付き認知症予防体操「コグニ体操」のDVD提供等を通じて認知症予防啓発を行っています。

地域活性化 For Society

ニーズをとらえ地域の強みを引き出す

- 経営者向けのセミナー
- 地元サラ川



▲経済セミナー(三重県)
第一生命経済研究所のエコノミストをはじめ、さまざまな分野の専門家によるセミナーを開催し、ビジネスや経営に役立つ情報をお届けしています。



▲ジモサラ(地元サラ川)
長年継続してきた川柳コンクールの知名度や運営ノウハウを活かし、地域課題への関心や共感をいただくことで、自治体の課題解決に向けたお手伝いをしています。

子ども教育 For Kids

未来への一歩を心強くサポート

- 黄色いワッペン贈呈事業
- 金融保険・消費者教育



毎年、全国の小学校の入学一年生に交通事故傷害保険付きの「黄色いワッペン」を贈呈しています。



ライフイベントや消費者被害事例等について、すころ形式で楽しみながら学習でき、お金の大切さや将来に備えることの重要性を感じただけの「ライフサイクルゲーム」を全国の学校へ提供し、当社社員による出張授業も行っています。

安全・防災 For Safety

いざというときの安心のために

- 犯罪・災害に関する注意呼びかけ活動
- 子ども110番の家



▲振り込め詐欺被害防止活動(富山県)
自治体・警察と連携し、防犯や防災、交通安全に関する注意呼びかけ、不審点を発見した際の連絡などの活動を行っています。



▲子ども110番の家(大阪府)
いざというときに子どもたちが避難できるように、地域の営業拠点を「子ども110番の家」にする取組みが広がっています。

スポーツ振興 For Sports

健康サポート活動として

- Run with You
- 第一生命全国小学生テニス選手権大会



市民マラソン大会への協賛やランニング教室の開催など、ランナーの皆さまを応援するプロジェクト「Run with You」を全国で展開しています。



「世界に通用する選手育成のためにはジュニアからの強化が重要である」という(公財)日本テニス協会の趣旨に賛同し、1983年の第1回大会より特別協賛するとともに、当社所有のコート(東京・仙川)を大会会場として提供しています。これまでに、錦織圭選手、奈良くるみ選手ら、国際的に活躍する選手を多数輩出しています。

第一生命の社会貢献活動の歴史

結核対策のために「保生会」設立

明治末期の日本国内では結核が猛威を振るっていました。医者であり第一生命創業者でもある矢野恒太は結核亡国を憂い、北里柴三郎博士を助けながら、その予防と撲滅を説いて歩きました。1913年には日本結核予防協会を設立、北里柴三郎が理事長、矢野恒太が理事に就任しました。また、小冊子「通俗・結核予防の心得」(矢野恒太著・北里柴三郎訳)を作って無料配布したり、講演や執筆にも奔走します。

●保生会



やの つたは 矢野 恒太

保険会社に就職のち農商務省に勤務し、保険業法を起草する。また同省商工局保険課の初代課長に就任。1902年わが国最初の相互会社第一生命を創立。以後専務取締役、社長、会長を歴任した。また「日本国勢図会」を刊行し、統計知識を国民に普及することにも尽力した。



きたたて しはぶろう 北里 柴三郎

医学博士で伝染病研究所(現在の東京大学医学研究所)の初代所長。第1回ノーベル医学・生理学賞の候補者にも挙げられ、私立北里研究所(現在の学校法人北里大学)の創立者兼初代所長並びに北里大学学祖となる。日本医師会設立者兼初代会長。写真提供:学校法人北里研究所

1935年、生命を保つという意味から財団法人「保生会」を設立。この取り組みが第一生命の社会貢献活動の先駆けともなりました。1939年には長期療養所である「保生館(後の保生園)」を東京の東村山に開設するとともに、全施設を結核予防会に寄付しました。

●保生館



●保生園



●新山手病院



写真提供:公益財団法人結核予防会

保健衛生向上のために「保健文化賞」創設

保健文化賞は、戦後の衛生環境が悪化していた中、わが国の保健衛生の向上に取り組む団体・個人に感謝と敬意を捧げる賞として1950年に創設されました。厚生労働省などの後援を得て毎年実施しており、最も長い歴史を持つ第一生命主催の社会貢献事業です。

例年、受賞者は天皇皇后両陛下の拝謁をお受けいただいています。

●第71回保健文化賞贈呈式



第一生命の

社会貢献活動

環境の保全



「都市の緑3表彰」(緑の環境ブラン大賞、緑の都市賞、屋上・壁面緑化技術コンクール)への支援を通じ、「都市環境の保全と再生」「地域コミュニティの形成・生活の質の向上」に資する緑化の取組みに貢献しています。

セナ(文化芸術の振興) 文化や芸術を支える活動に取り組んでいます

●認定NPO法人 トリトン・アーツ・ネットワーク



第一生命ホール(晴海)を拠点に公演事業と学校や福祉施設などに音楽をお届けするアウトリーチ活動を行っています。

●VOCA(ヴォーカ)展・第一生命ギャラリー



40歳以下作家による現代美術展の協賛、当社ギャラリーでの受賞作品展示を通じ若手芸術家を支援しています。

●モーツァルトイベント開催



モーツァルトの住家修復支援に賛同、友好関係を築いた国際モーツァルト財団とのコレクション展・コンサートを行っています。

社員による地域・社会貢献活動

●全国各地の社員によるボランティア活動



左より、災害ボランティア活動、清掃活動、チャリティウォークへの参加

●社内AED講習



定期的開催し、救命措置の大切さを伝えています。

引渡保険会社
第一生命保険株式会社
〒110-8411 東京都千代田区有楽町1-13-1
電話 (03) 3216-1211(大代表)
◎ホームページ <https://www.dai-ichi-life.co.jp/>

お届けしたのは...

買い物行こカー

店舗への送迎車

「買い物行こカー」は、2016年度に始まりました。現在、**31台 35店舗**まで広がり、年間でのべ**13万1407人**が利用しています。

高齢者の悩みは「いつでも安心して暮らしていける」これに生協が積極的に関わってほしい。

買い物行こカーや、移動店舗をもっと必要とされる時代がくる。広げてほしい。



「移動店舗」は、都市部でも必要になっている。

この地域ではスーパーがなく、買い物に困難な人が多い。



移動店舗

「移動店舗」は、都市部でも買い物に不便を感じている方がもっと利用できるように、軽四車両を導入するなど、改善に取り組んでいます。現在、**10台 513カ所**、年間でのべ**11万5494人**が利用しています。



体力がなくなっており、台所仕事も少しでも減る取り組みがあると良い。

店が近くになく、宅配は命綱。宅配がなくなったら生活できない。

まいくる

栄養バランスに配慮した夕食弁当をお届け

「まいくる」は、メニューの充実や、冷凍おかず(冷凍まいくる)のおすすめなど、組合員のくらしに寄り添って、改善に取り組んでいます。現在、**1日 9599食の利用**があります。

地域めーむひろば

店舗以外の場所で、宅配商品の受け渡し

地域の企業の事業所などで、商品の受け渡しをする「地域めーむひろば」は、2018年度に始まりました。現在、**33カ所**に広がっています。



地域との協働宅配

主に障がいのある方の就労や実習の場として、「週一宅配」や「めーむひろば」の仕組みを活用した取り組みが広がっています。

- 地域の担い手が運営する
- 「週一宅配」……3拠点
- 「めーむひろば」……6カ所

つながるマルシェ

コロナ禍で販売機会の減った福祉事業所を応援するため、2020年度から「つながるマルシェ」を実施。マルシェには、**福祉事業所が**出店して、投産品(パンや焼き菓子、手芸品、雑貨等)を販売しています。

健康づくり

兵庫県生協連や医療生協など、地域の協同組合と連携し、健康づくりに向けた取り組みの習慣化をめざす、「健康チャレンジ」が、2018年度から始まりました。2022年度は、**4951人**が参加しました。



健康寿命を延ばすよう社会全体で取り組みを推進しなげれよ。

コミュニティ食堂

子ども食堂

地域と連携して運営する、「コミュニティ食堂」や「子ども食堂」が広がっています。現在、**43カ所**で運営しています。(休止中含む)

地域の方々と「よりよい広場」のような場で一緒に食事ができるといい。



お互いに参加するという意識で、「これなら私もできるのでは」と思える場を作りたい。

困っている人の声と、助けたいと思っている人と結びつける仕組みづくり。

買い物支援ボランティア

組合員が、組合員の買い物のお手伝い

「買い物支援ボランティア」は、2016年度に始まりました。現在、**13の店舗**で取り組んでいます。(休止中含む)



つながりや、つどえる場を生協が作り出すことで、地域づくりに発展していくと感じる。

地域の居場所・つどい場

「ふれあい喫茶」など、コープサークルが運営する「つどい場」づくりの取り組みが進んでいます。「ふれあい喫茶」は現在、**82カ所**に広がっています。(休止中含む)
「居場所・つどい場立ち上げ支援助成制度」は、2016年度に始まりました。2022年度は、**19グループ**立ち上がりました。

地域に開かれたコープの「つどい場施設」は現在、**19カ所**あります

お米を贈ろう 助け合い募金

コロナ影響で広がる社会不安を少しでも和らげたいと願い、年間を通じて募金を実施。2022年度は、**約593万円の善意**が寄せられました。

集まった募金でお米を調達し、地域のさまざまな団体に提供していきます

助け合いのしくみ

コープくらしの助け合いの会(兵庫県内)
助け合い制度
コープむつみ会(大阪北地区)

地域住民の助け合いによって自立したくらしを支える有償の家事支援活動です。2022年度は、のべ**2716人**が活動し、のべ**3329人**が利用しました。

たすけタッチ

「ゴミ出し」など、ちょっとした困りごとをアプリの機能を使ってご近所同士で解決する取り組みが2021年1月に始まりました。手助けしてほしい組合員と手伝える組合員がつながって実施されたたすけあいは、2022年度末まで**1260件**になりました。



できるときに、できる人が、できることま、ちょっぴりお手伝い。

コミュニティの再生のために、地域のメンバーとして、参加を求められている。

「地域づくり」の視点、もっと地域との連携を深めていく必要がある。

地域つながるミーティング

「地域との「出会い」の場、仲間との「協働」の取り組みが生まれ続ける場」をめざす、「地域つながるミーティング」。2022年度は、**のべ3263人(うち地域の方861人)**が参加。生協や地域のことなど、さまざまなテーマで話し合っています。

約9割の会場に、地域の諸団体(行政や社会福祉協議会、地域の活動者など)が参加しています

フードドライブ

家庭で余った食品を持ち寄り、フードバンクや子ども食堂などに提供する「フードドライブ」は、2017年度に始まりました。2021年度からは店舗で**常時受付**をしています。

集まった食品は現在、地域の297のさまざまな団体に提供しています

地域コーディネーター

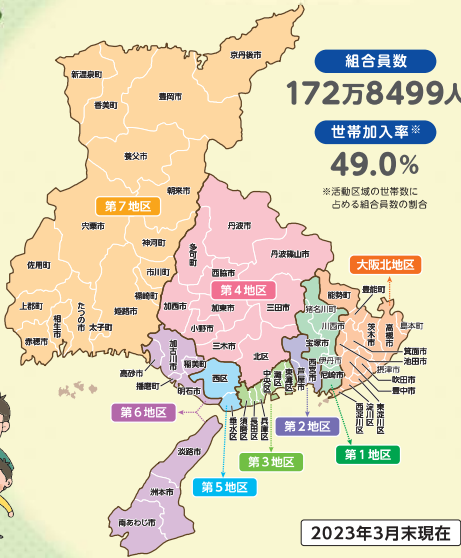
地区よりさらに小さい単位で、よりきめ細やかに地域連携と組合員参加の促進に取り組む、「地域コーディネーター」は、2018年度に始まりました。現在、**7人の「地域コーディネーター」**が、地域で活動しています。

マイバグ運動が定着したように、社会的意義のある活動を。

「食品ロス」の問題は、生協が率先して取り組むべき。

コープこうべの活動エリア

37市 15町 3区



石川県能登半島地震復興支援ボランティア

～私達ができる事を探して～

関西福祉大学 萬代ゼミ

・ボランティアの背景

令和5年5月、石川県にて最大震度6強の地震があった。石川県全体での人的被害は比較的少なかったが、珠洲市では家屋の一部倒壊・全壊など住居被害があった。しかし、多くの人達の協力により復興が進んでいたため、特別養護老人ホーム第三長寿園を中心とする心のケアを学生15名・引率教員1名で行った。

・目的

現地での活動を通して地域の活性化を図り、今まで通りの笑顔と元気で溢れる生活を取り戻してもらい、被災前よりも強い住民同士のつながりを持ってもらうこと。

・活動内容

1, 現地活動/実施日令和5年8月7日(月)～8月10日(木)

今回の活動では珠洲市にある、社会福祉法人長寿会特別養護老人ホーム第三長寿園に協力してもらい、利用者と一緒に盆踊りやヨーヨー釣りを行った。加えて、この地震の影響で一部崩落した見附島をはじめ、珠洲市の観光地を取り上げ観光マップ作製も実施した。

2、現地活動以外にも募金活動や、災害復興支援ボランティアの事・現地活動で学んだ事を、本学のコミュニティアワー報告会と兵庫県要約筆記サークル連絡協議会東播・西播地域交流学习会で話をさせていただいた。

活動の様子



・成果

第三長寿園の方に対話や活動を通して喜んでいただき、日々の地域住民や人とのつながりが、災害発生時に強い力になることを学んだ。そして、現地での交流を通して人との交流が前を向く原動力になり、元気で明るいエネルギーは被災者に伝染することを体感した。加えて、地震発生から3か月も経っているにもかかわらず、修繕されていない箇所や現地の人に聞いて初めて知る困難などメディアで報道されていることは、ごく一部のものであり実際に見るのとは大きく違うと知った。さらに、災害発生時の情報の整理・伝え方には、もっと配慮する必要があることが分かった。特に聴覚障害者は、警報音や速報などが聞こえないので避難が遅くなる可能性が高いと気付いた。

・課題

現地活動で地域住民に直接介入する関わりが施設以外であまりできなかったこと。また、私たちが現地で学んだ事を得た知識や情報を外部に伝える活動が少なかったことが課題である。

〈中間支援活動助成事業〉

1. 事業が目指すところ

NPO活動を行う団体や個人が事業を実施するにあたって、コロナ禍後の多様な社会の中で、新たに抱える様々な運営に関する悩みや問題を解決するため、中間支援組織であるコムサロン21が持つ多様なノウハウやネットワークを活用して課題を持つ団体等のサポートを行う「播磨NPO中間支援センター」事業を継続し、地域のNPO等の活動を具体的に解決できる拠点として、総合的な運営支援を行う。

2. 活動内容

◎NPO 団体設立運営相談会

R6.1 月時点で 18 件の相談があった。

| 時 | 相談者名 | 相談内容 | 担当 |
|---------------|------------------|--------------------|----|
| 令和5年 5月10日(月) | 神戸新聞事業者 | イベントの運営について | 前川 |
| 令和5年 5月16日(火) | (有)江戸屋 | 商品開発について | 前川 |
| 令和5年 5月30日(火) | 芸術文化観光学 教授 | ユニバーサルツーリズムの展開について | 前川 |
| 令和5年 6月16日(金) | 個人 | ボランティア活動について | 前川 |
| 令和5年 6月20日(火) | 一般社団法人 nanoful | 事業の展開について | 前川 |
| 令和5年 7月 3日(月) | さつき株式会社 | 製品の展開について | 前川 |
| 令和5年 7月18日(火) | 姫路デジタルサポート | 活動の発信について | 前川 |
| 令和5年 8月 4日(金) | NPO 法人ちゃれいじ | NPO 法人の移転について | 前川 |
| 令和5年 8月 8日(火) | NPO 法人陽だまりの家 | NPO 法人の運営について | 前川 |
| 令和5年 8月16日(水) | 個人 | 商品開発について | 前川 |
| 令和5年 8月17日(木) | 白鷺ニット工業(株) | 事業の展開について。 | 前川 |
| 令和5年 9月11日(月) | 社会福祉法人 はりまいのちの電話 | スタッフの募集、広報活動について | 前川 |
| 令和5年11月10日(月) | 個人 | NPO 法人の設立について | 前川 |
| 令和5年11月17日(金) | 社会福祉法人ひびき福祉会 | 事業の展開について | 前川 |
| 令和5年11月30日(木) | 個人 | NPO 法人の設立について | 前川 |
| 令和5年12月 7日(木) | 個人 | NPO 法人の設立について | 前川 |
| 令和5年12月25日(木) | 社会福祉法人尚紫会 | 広報について | 前川 |
| 令和6年 1月23日(月) | ゴトウアズプランニング | ボランティア活動について | 前川 |



◎NPO 団体専門家相談会

R6.1 月時点で 7 件の相談があり、ZOOM の使い方や運用の支援を行った。

◎情報提供・ネットワーク

| 日時 | 場所 | 参加団体数 | 参加人数 | 内容 |
|-----------------|---------|-------|------|------------------------|
| 令和5年 5月 9日 (火) | 姫路市市民会館 | 11 団体 | 15 名 | 助成金、補助金説明会 情報交換会 |
| 令和5年 7月 11日 (火) | 姫路市市民会館 | 9 団体 | 14 名 | NPO 法人の活動紹介 情報交換会 |
| 令和5年 9月 12日 (火) | 姫路市市民会館 | 11 団体 | 17 名 | NPO 法人・地域団体の活動紹介 情報交換会 |
| 令和5年 11月 7日 (火) | 姫路市市民会館 | 8 団体 | 11 名 | NPO 法人・地域団体の活動紹介 情報交換会 |
| 令和6年 1月 17日 (水) | 姫路駅前北広場 | 7 団体 | 14 名 | 防災の取組みについての勉強会 情報交換会 |



◎若者 NPO ボランティア体験

| 日時 | 実施内容 | 人数 |
|---------------|------------------------------|-----|
| 令和5年11月19日(日) | 姫路城お姫様ボランティア お姫様役 撮影補助 | 4名 |
| 令和5年11月26日(日) | 姫路城お姫様ボランティア お姫様役 撮影補助 | 5名 |
| 令和6年 1月17日(水) | 「ひょうご安全の日」中播磨のつどい in 姫路 募金活動 | 32名 |

上記のほか、毎月第2日曜日に開催している、お城のそうじ会にスタッフとして毎月4名程度、ボランティアには1月現在合計10名程度参加していただいている。

3. 成果や課題点

相談会には昨年以上に多様な団体から相談が寄せられた。

情報提供、ネットワークは参加団体の活動紹介を中心に行った。新たな参加者もあったが、さらに新規の参加者を増やすべく方法を模索する必要があると感じた。

4. 今後の展望、成果の活用

広報方法については、昨年に引き続き SNS の活用や、口コミ、姫路市市民活動ボランティアサポートセンターの広報サイトなど多様な手段を活用する。

相談に来ていただいた団体・個人に対しては、引き続き情報提供や相談対応を行う。

事業名 「健康寿命延伸セミナー」の開催

1 事業の目的

日本は世界有数の長寿国といわれております。2019年の日本人の平均寿命は男性 81.41 才、女性 87.45 才ですが、WHO が「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定めた「健康寿命」は男性 72.68、女性 75.38 才であり、平均寿命と健康寿命との差は男性で約 9 年女性で約 12 年となります。

すなわち不健康な期間がこれだけあるという事であり、この差を少しでも少なくすることが一人一人の生活を豊かにし、また社会保障制度を持続可能なものにすることが可能となります。そのため健康寿命の延伸が国家的プロジェクトとなっております。当法人もこれを大きな目標とし、そのための主要な事業として「健康寿命延伸セミナー」を定期的に継続して実施しております。

2 活動内容

下記の通り、専門の先生方による最先端の知識、智慧をお伝えする「健康寿命延伸セミナー」を開催いたしました。

1) 第27回健康寿命延伸セミナー 日時 令和5年2月25日(土)

- ① 「発想力・独創力のトレーニング」 近畿大学工学部前教授 橋新裕一
- ② 「フレイル予防について」 ほりい医院 院長 堀井弘幸
- ③ 「老化は血管病から始まる」 神戸健康大学 理事長 岡田昌義

2) 第28回健康寿命延伸セミナー 日時 令和5年6月17日(土)

- ① 「救急医療現場からのアドバイスーあなたの命を守るためにー」
医療法人社団愛友会岩崎病院 救急医 国立兵庫あおの病院 名誉院長 栗栖 茂
- ② 「低侵襲心臓手術についてー神戸大学心臓血管外科の取り組みー」
神戸大学大学院医学研究科 心臓血管外科 准教授 高橋宏明
- ③ 「糖尿病患者さんの足を守る」 慈恵会新須磨病院 創傷治療センター長 北野育郎

3) 第29回健康寿命延伸セミナー 日時 令和5年11月18日(土)

- ① 「変わりゆく肥満症診療～肥満を治せる時代を迎えて～」
神戸大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科学 教授 小川 渉
- ② 「最新の肺がん治療」 神戸大学大学院医学研究科 呼吸器外科学 教授 眞庭謙昌
- ③ 「創立25周年を迎えた第12回日独血管外科学会に出席して」
日本血管内治療学会 名誉理事長 神戸健康大学 理事長 岡田昌義

3 成果と今後の展望

当法人の主要な事業であります「健康寿命延伸セミナー」を定期的に継続して開催することにより、専門の先生方より最先端の正しい知識を習得することが出来、これによって健康に対する意識が高まり健康寿命の延伸に貢献できると考えております。2024年以降も継続して健康寿命延伸セミナーを年3回開催してまいります。

以上

生きづらさを抱えた子ども・若者の居場所事業

特定非営利活動法人 西脇てとて広場

1. 事業の目的

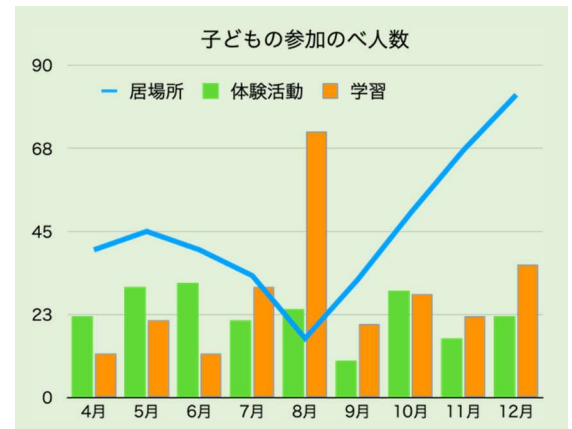
現代社会において、不登校やいじめ問題が増加し、子どもの貧困、児童虐待など、少子化で子どもの数が減っているのに、子どもに関わる社会問題は重く深く広がっています。外国にルーツを持つ家庭も増え、個人の考え方や捉え方が多様化し、昔ながらの家庭教育や学校教育システムの枠にはまらない子どもや家族が出てきています。また、不登校から引きこもりになる、発達障害があるために学校に行きづらくなるなど、二次的な問題も起こっています。行政や学校だけでは、行き届かない子どもたちの居場所を作り、保護者を励ましながら、子どもの育ちを見守ることを第一の目的とします。

開設日数（回数）

| | 居場所 | 体験活動 | 若者 |
|-----|-----|------|----|
| 4月 | 8 | 5 | 4 |
| 5月 | 9 | 5 | 3 |
| 6月 | 8 | 6 | 0 |
| 7月 | 9 | 3 | 1 |
| 8月 | 12 | 3 | 1 |
| 9月 | 8 | 3 | 1 |
| 10月 | 9 | 6 | 1 |
| 11月 | 8 | 6 | 1 |
| 12月 | 8 | 4 | 1 |
| 合計 | 79 | 41 | 13 |

2. 活動内容と成果

西脇市内の古い賃貸住宅を借りて、毎週火・土曜日の10時～15時に子どもの居場所、不定期土曜日の15時～17時に若者広場を開設。いずれも不登校や発達障害、ひとり親家庭等経済的に厳しい家庭の生きづらさを抱えた子どもたちを中心に、元学校教員や学校心理士の専門スタッフと子どもを見守る居場所サポーター、当事者経験のあるピアサポーターで運営しています。参加延べ人数：子ども432名、保護者91名、若者42名。農業、アート、楽器、調理、スポーツなどの体験活動を41回開催。参加延べ人数：113名



3. 課題と今後の展望

コロナ禍に始めた居場所も3年目になり、今年度からNPO法人が運営主体となりました。助成金をいただくことで成り立つ居場所で、多くの生きづらさを抱えた子どもや若者に会い、関わることができました。子どもを取り巻く課題が多すぎて、あと居場所がいくつあったら、あの子もこの子も自分らしくいられるのではと思う日々です。市内に一つでは足りない。スタッフも足りない。もちろん資金も。居場所という小さな地域のコミュニティの中で、人の温かさによるソーシャルサポートが、一人ひとりの子どもを育み、保護者の支えとなるその仕組みをどれだけうまくコーディネートしていくかが継続の鍵であり、行政との協働による取り組みの形など、今後の課題です。



中間支援活動助成事業（基本事業）
団体名：NPO法人プラッツ

第1回講座

『もっと活動を知ってもらうには？』
～効果的なSNS活用法～

今日、世の中には様々な情報があふれています。そしてそれは、紙を使ったものからいわゆる「SNS」を使った告知・募集へ移行しつつあります。今まで上手に届けられていない方へ届ける手法を一緒に学びませんか。

6月11日(日) 場所:豊岡市民プラザ 市民活動室C (豊岡市大手町4-5アイティ7階)
13:30-15:30

講師 小菅 誠一郎氏 (NPO法人シズンズーズ)
2011年より業務提携を経て、コミュニティ・形成支援、観光振興関係なども経て2018年より本月に置く「プラッツ」事務局「トラスト」を創設。2017年に防災員養成へ移行し、たつがの地区防災組織の立ち上げを経て2019年よりNPO法人のメンバーとして参画。東海地区100人協議会の統括を務める。

参加費無料

申込方法
お電話・FAX・メール・下記QRコードよりお申込みください。
TEL:0796-34-6078 FAX:0796-24-3004
mail:info@plat-z-npo.com お申込QRコード

主催：NPO法人プラッツ
〒658-0031 豊岡市大手町4-5アイティ7階
http://www.platz-npo.com
令和5年度ひょうごボランティア基金助成事業



参加者：8名

参加者感想
「参考になった！直ぐに実践できそう」

第3回講座

「給与明細はこう見る！」

毎月会社から受け取る「給与明細」の詳細を知っていますか？
厚生年金保険料・健康保険料・雇用保険料なども色々控除されています。これらがどのようなものか加えておく方が役立つことが多いです。是非この機会に学んでみませんか？
※税に関する項目の解説はございません。

2023年12月11日(月)
時間：13:30-15:30
会場：豊岡市民プラザ
参加：無料(要申込)

お問合せ・お申込み
主催：NPO法人プラッツ
TEL:0796-34-6078
又は下記QRコードよりお申込みください。

講師 石田 隆利氏
社会福祉専門学校講師・ライエ代表
2016年度、30歳までに10以上の国際資格を取得し、独立起業すると決意し、海外ボランティアの他に「社会福祉専門学校」で「社会福祉士」の資格取得に挑戦し、2023年10月現在、10科目中9科目の合格を達成し、1科目の勉強中である。是非この機会に学んでみることをお勧めいたします。それにより地域が豊かになっていくことを目的に開催しています。

令和5年度ひょうごボランティア基金助成事業（基本事業）

第2回講座

分かりやすく解説！
始まった！インボイス制度

2023年10月12日(木) 13:30～15:30

いよいよ2023年10月1日から本格的に始まる「インボイス制度」。どういう人が対象なのか、何が変わるのか、知っているよう知らないままの方も多いのでは？
税制を知って頭を悩ますことはありません。この機会に一度学んでみませんか。

講師 作花 良祐氏
公認会計士・税理士
2004年公認会計士試験合格。東証一部上場企業、大手IT企業、中小企業、非営利団体等に所属し、2010年独立して公認会計士事務所を開設。2012年、東証一部上場企業に所属し、2015年独立して公認会計士事務所を開設。2017年、公認会計士事務所を開設。2018年、公認会計士事務所を開設。2019年、公認会計士事務所を開設。2020年、公認会計士事務所を開設。2021年、公認会計士事務所を開設。2022年、公認会計士事務所を開設。2023年、公認会計士事務所を開設。

会場：豊岡市民プラザ 市民活動室C
参加：無料(定員20名※要申込)
主催：NPO法人プラッツ
お申込フォーム

お申込・お問合せ
NPO法人プラッツ TEL:0796-34-6078
又はQRコードよりお申込みください。

令和5年度ひょうごボランティア基金助成事業（基本事業）



参加者：21名

参加者感想
「話すスピード、例などわかりやすかった」



参加者：8名

参加者感想
「基本的な項目を学ぶことができた！」

但馬コミュニティ協創会第3回

日時：2023.8.27



過去最多の27名参加！

参加者感想
「但馬でこれから色々なことが発展しそう」

～今後の予定～

「こころ」と「からだ」が変わる食事のお話

子育ての悩みを食事で解決しませんか？

先着予約！
場所：豊岡市民プラザ 市民活動室C (アイティ7階)
定員：20名
1/24(水) 13:30～15:30

時間：13:30～15:30
※2023年11月1日(日)までお申込みください

便秘・下痢・朝食・夕食・嘔吐・肥満・お肌のトラブルなど、慢性的なお子様の不調を改善したい！と思っているお母さん、お父さんにおススメの食事術をお伝えします。

当日の内容
01 座学
02 ワーク

お申し込み
お電話・お問合せ
主催：NPO法人プラッツ
TEL:0796-34-6078
mail:info@plat-z-npo.com
お申込QRコード

令和5年度ひょうごボランティア基金助成事業（基本事業）

但馬 第4回 コミュニティ協創会議

対話からつながる 但馬の未来

対話 つながり コラボ

日時：2024年2月25日(日) 13:00～16:00
場所：豊岡権古堂3階

お申し込み
お電話・お問合せ
主催：NPO法人プラッツ
TEL:0796-34-6078
mail:info@plat-z-npo.com
お申込QRコード

令和5年度ひょうごボランティア基金助成事業（基本事業）

E Group



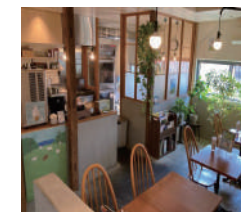
| 団体名・企業名・学校名 | 事業名(助成団体のみ) |
|-------------------|--|
| 株式会社パイクとそら | |
| 神戸市役所垂水区地域協働課 | |
| 関西福祉大学 萬代ゼミ | |
| (特非)コミュニティ事業支援ネット | NPO法人のアカウンタビリティにかかる実証的研究 |
| (特非)神戸ロボットクラブ | 子供のプログラミング的思考と情報活用能力学習の支援活動 |
| (一社)パートナーズ | 孤立しがちな子育てを地域と社会につなぐ中間支援事業(1年目) ひょうご・こどもコミュニティラボ |
| (特非)生涯学習サポート兵庫 | 学校に行きづらい子どものためのサードプレイス HYM事業 |

『笑顔のあげパンプロジェクト』

～日本中の子供に夢と希望を～

芦屋あげパン パイクとそら

店舗紹介



芦屋あげパン「パイクとそら」は、絵本から生まれたあげパン屋さんをコンセプトにレトロ住宅をリノベーションし2019年2月1日にOPENしました。

●笑顔のあげパンプロジェクトの概要

レジカウンターに寄付箱を設置し、お客様から寄付を募っています。月に一度、寄付金を原資に100円につき1個のあげパンを作り、母子生活支援施設と自立援助ホームへ届けています。店頭で服の回収も行っており着用できる服も一緒に届けています。

●笑顔のあげパンプロジェクトを始めたきっかけ

「子は社会の宝」地域に根差したお店だからこそ地域社会に少しでも貢献したくて日々思索していました。優しさが循環する素敵な社会を目指して、まずは一般家庭より少しだけ笑顔を作るのが難しい社会的養護施設にいる子供から笑顔にしたいと始めました。「子は社会の宝」社会の宝である子供が全員、笑顔ならその地域は幸福度が高い地域と考えております。



店頭の告知物



活動の内容

毎月最終水曜日に...

- あげパンを140個と回収した服を母子生活支援施設と自立援助ホームへ届けています。
- 絵本講師の方と母子生活支援施設へ行き、絵本講師の方に絵本の読み聞かせをして頂いています。
- 当店近隣の木屋さんが毎月1冊の本を寄贈して下さいます。

あげパン以外にもお届けしました ～施設からのリクエスト～

- 妊婦さんが緊急避難してきたので...
ゆりかご、哺乳瓶、新生児用の肌着をお届けしました。
- 施設で修学旅行に行く子供がいるので...
男女兼用できる3泊前後できるボストンバッグをお届けしました。
- 母子生活支援施設が小高い場所にあるので...
電動自転車をお届けしました。



- ★春休み・夏休み・冬休みは施設の子供達をお店に招待して...
あげパン、ソフトクリーム、ジュースの食べたい放題
スーパーボールすくい、輪投げ大会、射的ゲームなどなど

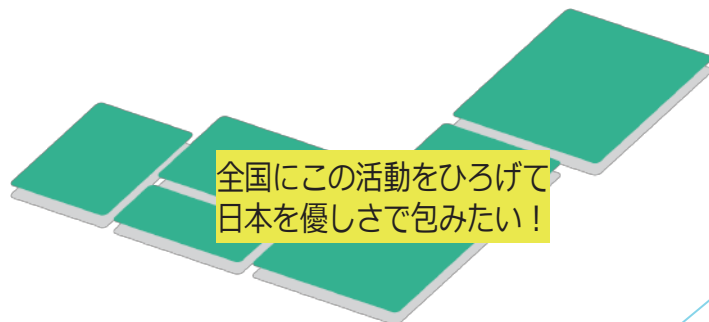
笑顔のあげパンプロジェクトで実現したい社会とは

【地域社会が地域の子供の笑顔を守る】←こんな社会を実現したいです。

「どうして子供の笑顔を守る必要があるの？」

なぜなら「子は社会の宝」だから。

全ての子供が笑顔の地域があったなら...きっとそこは天国だと思いませんか？



将来のビジョン (日本全国の子供達・若者達に夢と希望を与えます)

(現状は...)

- ・店頭販売とネット販売のみで営業しています。
 - ・従業員は土日アルバイトさん、平日は妻と運営しています。
(2024年春の店舗改装をきっかけに...)
 - ・厨房スペースを拡張し、セントラルキッチン化をします。(生産数の増加)
 - ・社会的養護施設から高校卒の子供2名を社員採用します。(7月予定)
夢と希望を与える職業だから沢山のお給料をお支払いする事を目指します。
目標は百貨店業界の大卒初任給を目指します。
- ★改装した事、従業員を増強した事で販売チャネルの拡大が可能となります。



全国百貨店催事の進出、卸売り、ネット販売の強化を行います。
百貨店催事を開催する際は「笑顔のあげパンプロジェクト」を実施します。
催事開催百貨店から1番近い社会養護施設へあげパンを届けます。
プレスリリースを行い「笑顔のあげパンプロジェクト」の周知に努めます。

最後に

『私は子供が大好きです。

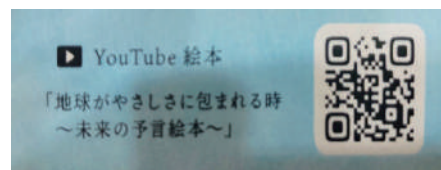
日本全国の子供達・若者達に夢と希望を与える事が私の目標です。

雇い入れた社会的養護施設の子供達と共に働き、共に喜び、共に人生を謳歌します。

そして当社の全てのステークホルダー（お客様、お取引先様、従業員）と共に笑い

幸せになります。

町の小さなあげパン屋の挑戦がこれから始まります！』

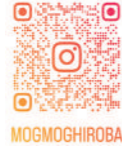


笑顔のあげパンプロジェクトが
YouTube絵本になってます。
是非、ご覧下さい。

「垂水魅力アップ活動助成」を活用したみなさんの声をご紹介します。



もぐもぐ広場
多世代交流・居場所づくり



どんな活動ですか？

食育イベントや体験型イベントを企画・開催しています。今年度は、リトミック、フォトブース、ベビーマッサージなど、垂水で活動する素敵な講師の方々とともに学び楽しむ地域交流イベントを開催しました。

活動を始めたきっかけは？

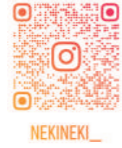
多様な世代の方が出会えるきっかけをつくりたいという思いが発端となっています。

助成申請してよかったことは？

「魅力アップ活動助成」に採択されたことで広報紙に掲載され、一般の方に安心感を持って参加していただきました。また、助成金を使うことでイベントの規模を拡大することが可能になりました。



ネキネキ
音楽・ダンス



どんな活動ですか？

音楽家、画家、ダンサーたちと一緒に遊びながら、参加者が“そのまんま”を“表現”することを楽しめる活動です。

助成申請してよかったことは？

「助成金」はハードルが高いと思っていましたが、地域協働課では、開催場所や資金繰り、広報ノウハウなど、私たちでは考えの及ばないところまでわかりやすく具体的にアドバイスしていただきました。また、図書館などの公共施設にチラシを置いてもらえて、広報もしやすくなりました。年間計画を立てることで長期的な見通しを立てることもでき、活動として大きく前進することができました。



舞子で繋がる
健康ヨガの会
高齢者の健康づくり



どんな活動ですか？

舞子六神社境内をメインに“椅子ヨガ”を開催しています。

活動を始めたきっかけは？

コロナ禍により高齢者のふれあいや運動の機会が減少し、外出するきっかけやコミュニケーションの場をつくりたいと、ヨガの会を企画しました。

助成申請してよかったことは？

活動地域を広げて定期開催することができ、「毎月ヨガ新聞」の発行やイベントチラシも作成できました。SNSを活用したことも相乗効果となり、新たなつながりもたくさんできました。地域協働課の方が親身に相談に乗ってくれてありがたかったです。



Hoaloha Tarumi
高齢者の健康づくり

どんな活動ですか？

イスに座って気軽にできるフラの活動を行なっています。

活動を始めたきっかけは？

コロナ禍で外出もままならない高齢者の方が健康でいきいきと過ごせるような活動をお手伝いをしたいと思い、始めました。

助成申請してよかったことは？

公民館や施設の会場使用料や演奏者をお呼びした際の出演料、イベント告知チラシの作成に助成金を活用しました。助成があったことでプロのミュージシャンの生演奏を聞く機会もでき、より充実したイベントを開催することができました。

みんなの“やってみたい”をサポート
地域活動を応援する
垂水魅力アップ活動助成



さらにこんな声も！

広報紙で掲載してもらって参加者が増えた

寄付や協賛金の呼びかけなど、自主財源の確保については準備期から検討すべき

区内の地域活動団体やキーパーソンとのつながりが大事

活動場所が増えた！他の団体とコラボできた！

1年目(準備期) 助成額 上限 10万円

2年目(実践期) 助成額 上限 30万円

3年目(実践期) 助成額 上限 30万円

自分たちで実践できる！

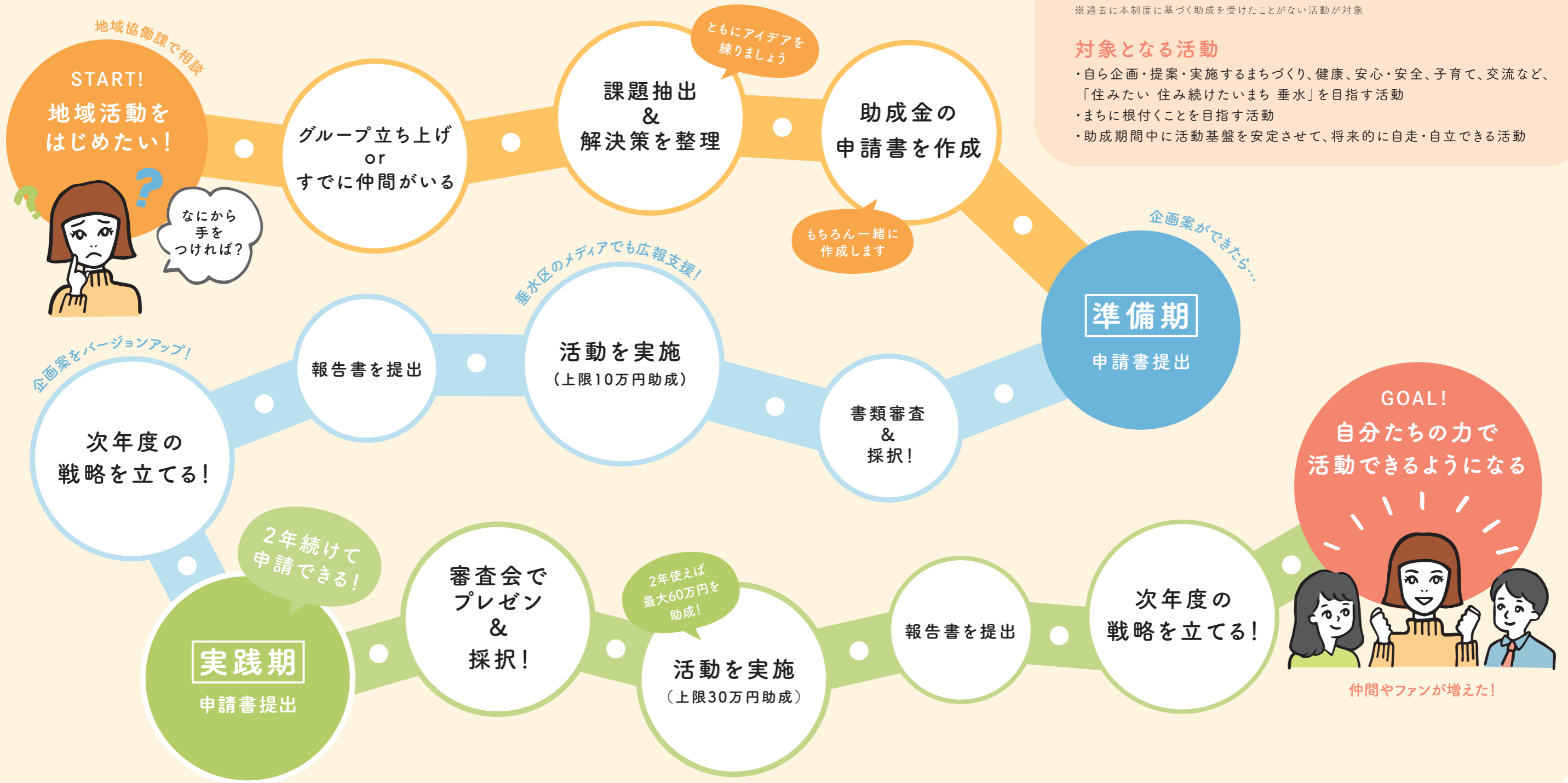
助成終了後も地域協働課が活動をサポート！



垂水魅力アップ活動助成とは？

よりよい地域づくりのための活動に使える助成金&サポート制度です。
 アイデアはあるけれど何から手をつけたらいいのか悩んでいる方も
 お気軽にご相談ください！地域協働課が伴走します。※相談は毎週月曜日(予約制)

- # 企画の相談
- # 申請書作成フォロー
- # チラシの作成方法
- # SNS発信方法
- # 活動場所の紹介
- # 資金繰りの相談
- # オンラインの打ち合わせ方法



募集期間

準備期 2023年3月1日(水)～12月28日(木)
 実践期 2023年3月1日(水)～4月21日(金) 準備期を終えてから申請できます
 ※予算の範囲内で助成を行うため、申請期間中であっても助成の受付を終了することがあります

助成対象期間

準備期 採択後～3月
 実践期 4月～3月

助成金額

準備期 上限10万円(年間)
 実践期 上限30万円(年間)
 (最大2年まで申請可)

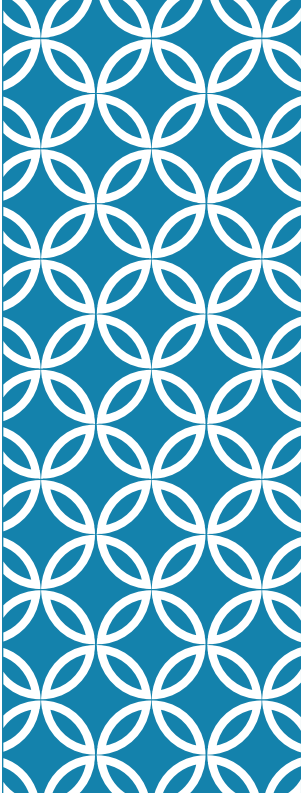
対象団体

- ・企画した活動を終了まで責任を持って遂行できる団体
- ・2名以上で構成される、実行組織や地域活動団体、NPO等非営利団体など

※法人格の有無は問いません。ご近所同士・自治会・サークル・ボランティアグループなどでもOK
 ※過去に本制度に基づく助成を受けたことがない活動が対象

対象となる活動

- ・自ら企画・提案・実施するまちづくり、健康、安心・安全、子育て、交流など、「住みたい 住み続けたいまち 垂水」を目指す活動
- ・まちに根付くことを目指す活動
- ・助成期間中に活動基盤を安定させて、将来的に自走・自立できる活動



垂水魅力アップ活動助成

令和5年度 探採団体

T s u k a n o m a

「子育て中の方に息抜きをしてほしい」という思いから立ち上がった団体。利用者の方にはカフェスペースでゆっくりしてもらい、子どもたちは又タツが留守ります。1人の時間や趣味など、それぞれの時間を過ごしてもらえるようにサポートをします。



秘密基地D0-Z0

子どもの居場所、つくり中。築100年の古いお家を子どもたちと面白がつて再生していきます！それぞれの『やってみたい！』ができる場所になるように、ぜひ、つくることから関わって、一緒に遊びましょう！



舞子でつながる健康ヨガの会

舞子六神社や地域福祉センターで「健康ヨガ」を定期的に開催しています。高齢者でも無理なくできるイスヨガ、曹空のもとで行うヨガをお伝えしています。また、自宅でできる体操やストレッチを紹介した『健康ヨガ新聞』も毎月発行しています。



ネキネキ

音楽家、ダンサー、アーティストと一緒に遊ぶ、鳴らす、踊る、つくる。笑つ、繋がつて、その時感じたそのまんまを表現してみるワークショップです。



ちぐもぐ広場

子育て世帯だけではなく、幅広い年代層が出会い、交流するキッカケ作りを、食育イベントなどの企画・開催を通じて提供しています。また、新しく地域活動をしたい方や興味がある方へのお手伝いもしています。



石川県能登半島地震復興支援ボランティア

～私達ができる事を探して～

関西福祉大学 萬代ゼミ

・ボランティアの背景

令和5年5月、石川県にて最大震度6強の地震があった。石川県全体での人的被害は比較的少なかったが、珠洲市では家屋の一部倒壊・全壊など住居被害があった。しかし、多くの人達の協力により復興が進んでいたため、特別養護老人ホーム第三長寿園を中心とする心のケアを学生15名・引率教員1名で行った。

・目的

現地での活動を通して地域の活性化を図り、今まで通りの笑顔と元気で溢れる生活を取り戻してもらい、被災前よりも強い住民同士のつながりを持ってもらうこと。

・活動内容

1, 現地活動/実施日令和5年8月7日(月)～8月10日(木)

今回の活動では珠洲市にある、社会福祉法人長寿会特別養護老人ホーム第三長寿園に協力してもらい、利用者と一緒に盆踊りやヨーヨー釣りを行った。加えて、この地震の影響で一部崩落した見附島をはじめ、珠洲市の観光地を取り上げ観光マップ作製も実施した。

2、現地活動以外にも募金活動や、災害復興支援ボランティアの事・現地活動で学んだ事を、本学のコミュニティアワー報告会と兵庫県要約筆記サークル連絡協議会東播・西播地域交流学习会で話をさせていただいた。

活動の様子



・成果

第三長寿園の方に対話や活動を通して喜んでいただき、日々の地域住民や人とのつながりが、災害発生時に強い力になることを学んだ。そして、現地での交流を通して人との交流が前を向く原動力になり、元気で明るいエネルギーは被災者に伝染することを体感した。加えて、地震発生から3か月も経っているにもかかわらず、修繕されていない箇所や現地の人に聞いて初めて知る困難などメディアで報道されていることは、ごく一部のものであり実際に見るのとは大きく違うと知った。さらに、災害発生時の情報の整理・伝え方には、もっと配慮する必要があることが分かった。特に聴覚障害者は、警報音や速報などが聞こえないので避難が遅くなる可能性が高いと気付いた。

・課題

現地活動で地域住民に直接介入する関わりが施設以外であまりできなかったこと。また、私たちが現地で学んだ事を得た知識や情報を外部に伝える活動が少なかったことが課題である。

事業報告資料

NPO 法人のアカウントビリティにかかる実証的研究

特定非営利活動法人コミュニティ事業支援ネット

1. 事業が目指すところ

NPO 法人制度は、法人の自主的な運営の尊重と情報開示を通じた市民の選択、監視を前提とした制度であることに特徴がある。この制度の趣旨を具現化するには、NPO 法人の活動において高い倫理性と透明性の発揮のみならず、情報開示を通じた説明責任を果たすことが前提となる。

本事業においては、各 NPO 法人が所轄庁に提出する事業報告書等の点検、並びにその実態確認等を通じて、アカウントビリティにかかる課題を剔出するとともに、透明性や情報開示として必要な時勢に合った制度についての課題を明らかにすることにより、市民に信頼される NPO 法人づくりの一助とするものである。

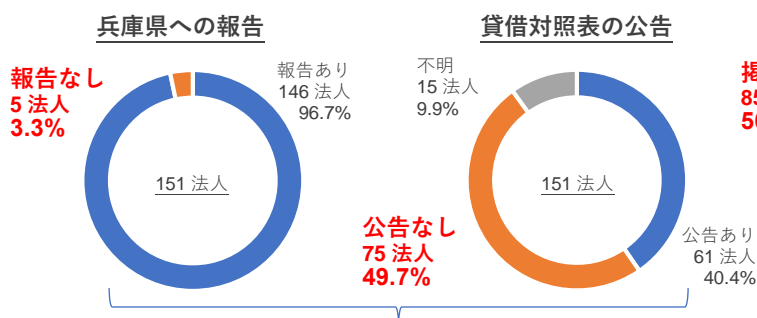
2. 活動内容

西宮市内 NPO 法人を対象に、下記方法で点検・調査を行った。

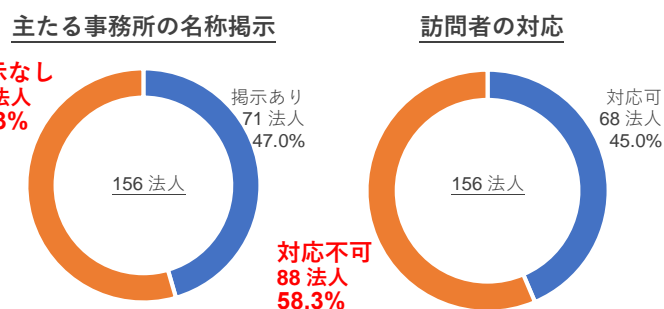
- ①公開情報を点検（県への報告書類の提出及び貸借対照表の公告状況を点検）[5～6 月実施]
(R5.4/1 時点の内閣府 NPO ポータルサイト掲載全 151 法人を点検)
- ②実態確認（訪問により事務所の法人名称掲示の有無及び訪問者対応の可否を確認）[9～12 月実施]
(R5.9/24 時点の全 156 法人を確認) ※①法人数との差異は新設法人
- ③アンケート調査（情報開示及び最低限の法人運営の順守事項の実施状況をアンケート調査）[9～12 月実施]
(R5.9/24 時点の全 156 法人を対象に調査し 59 法人から回答) ※①法人数との差異は新設法人

3. 成果や課題点、課題解決の取り組み

①公開情報を点検



②実態確認



→今回の②実態確認を通じて、各 NPO 法人を訪問した際に赤・太字(課題点)のアドバイスをし、必要に応じてその後個別に相談にのることにより改善されてきている。

4. 今後の展望

今回の取り組みを通じて、「兵庫県への報告」や「貸借対照表の公告」といった NPO 法人のアカウントビリティと、法人運営の実態は乖離しているところがあることが明らかになった。

NPO 法人の透明性や情報開示を考えるうえで、主たる事務所とはなにか？西宮市内の 156 法人事務所を訪ねてみて、改めてその意義を考えさせられている。各々の法人の設立目的・活動の種類・事業の種類・事業形態等により「事務所」というものの位置づけが大きく変化してきていることが明確になった。

インターネット網が確立され、場所を問わず業務に従事できる社会となった今、常時対応可能な事務所であるかどうかには価値はないと判断する法人も増加している。メールや SNS で即応できれば、事務所設置の優位性は下がり、より柔軟な対応が可能であることから、登記だけ可能な施設に事務所を置く法人が後を絶たない。

このような現状から、考え方をこれまでの創成期とまったく変えていかなければならないのではないかと考える。

『子供のプログラミング的思考と情報活用能力学習の支援活動』(予定) (プログラミングの学習会)

NPO 法人 神戸ロボットクラブ

1 事業が目指すところ

2020年、学校教育にプログラミング教育の導入が始まり、そのために小中学性にパソコンまたはタブレットを一人一台の支給している。しかし、すべての子供たちが容易に使いこなせるとは限らないし、反対にもっと進んだ教育を受けたいが、その教育機関が少なく、費用の面でも教育を受入れられない等の問題が発生している。当協会はそのような子供達に費用面、人的にも一人一人寄り添う教育を行うために、学習会を開き、少しでも置き去りや、興味のなくす子供たちをなくし、より理工学に興味を抱くようにしたい。

2 活動内容

神戸を中心に、姫路、西宮等でパソコンによるプログラミング学習会、ドローンや小型ロボットをプログラムで操作し、より実感のわく学習会



12月の夕方の学習風景



11月 神戸市内の小学校授業

3 成果や課題点

子供たちは、プログラミングが良くわかったもさることながら、学習会が楽しかったを主に、学習会の内容を検討しています。名前が徐々に知れ渡って学習者も増えてきてますが、固定的な学習所がなく、リピーターの定着とはいかず、また、パソコンやタブレットは学校の物は使用できないため、当協会でも都度取り揃えているため、各設定を都度おこなわなくてはならず、また、旧式の物で、大きく重たいものが多いため、支障をきたしている。

4 今後の展望、成果の活用

神戸市内の小学校にも授業の一環としておこなうようになり、当協会の信頼感が増して、今後公共での学習会を行うことが増え、固定的な学習場所の確保、必要機材の充実、講師陣の増員も見込まれるようになり、子供達に対する配慮も深めることにもなり、放課後の学童保護の一翼にもなっていけると思う一方、シニアの講師陣が増え、シニアの生きがい活動にも貢献できる。固定的な場所での『デジタルひろば』の開設も視野に入れたい。

以上

1. 事業が目指すところ

子育てサークルや支援グループ、講座やワークショップなどの開催意欲をお持ちの個人など、特に子育て世代の新しいプレイヤーを対象に、活動場所の提供、情報提供と地域連携・紹介、IT 機器（PC、プリンタ等）の貸出、広報活動、交流イベントの企画運営等の支援を行っています。市営住宅集会所を多様な団体の活動拠点として開放することで、運営側、参加者側のいずれにとっても日常的な多世代交流の居場所が生まれています。子育て世代に関わらず孤立を防ぎ、だれもがいつまでも安心して暮らしやすい街の実現のため、若い世代の主体的な地域活動プレイヤーの育成を目指しています。

2. 活動内容と実績

【中間支援の内容】

▶パートナーズが主催するイベント・交流事業に参加（イベント参加機会の提供）

ハロウィン交流会 53 名、クリスマス交流会 34 名、リフレッシュ交流会 37 名、ベビーヨガとお話会（5 回）、ベビーマッサージ（4 回）、親子ヨガ（1 回）クッキングプログラム（4 回）、オープンカフェ（1 回）

▶相談支援

5 団体（キラキラキッズ、わくわく LABO★TETE、こどもいろ、MomLabo、兵庫駅南公園こどもフェスタ実行委員会）、個人 10 名

▶対象団体が主催する活動を支援（会場・広報の無償提供）

計 8 団体 129 回（1 月末時点）



| | |
|-----------------|--|
| ①相談業務 | 随時受付により個別相談対応。会場・広報の提供。講座、イベント開催に向けての助言とサポート |
| ②情報提供・ネットワークの構築 | ホームページ、SNS による広報支援。交流イベントの開催、兵庫区の子育てサークル情報の集約、フライヤー制作、情報発信、託児サポート、相談窓口情報提供、マッチング |
| ③人材育成の取組 | 交流イベントの企画運営、調整、スケジュール管理、スタッフ配置、SNS 発信、広報など OJT による随時レクチャーを実施。 |
| ④書類作成指導業務 | SNS バナー制作、オンラインフォーム制作、フライヤー制作のレクチャーとサポート |

3. 成果や課題点

- （1）成果：主に子育て世代のスタートアップ、「こどものための活動」の企画運営の中間支援に特化して取り組むことで、地域のこどもたちの多彩な体験活動の機会が増えました。他の支援事業との相乗効果もあり、孤立しがちな子育て世代の地域との新しい接点生まれ、結果的には世代を超えていつでも相談できる居場所の創出につながりました。
- （2）課題：共働き世帯、あるいは困窮世帯の増加もあり、中間支援の対象となる子育て世代の地域プレイヤーが減少している印象があります。ただ防災の観点からも日ごろからの地域のつながりづくりは必須のため、少人数であっても継続的で粘り強い支援が求められています。

4. 今後の展望、成果の活用

広報活動を継続し、地域活動を始めたばかりの支援対象となる団体や個人に、支援が行き届くように積極的にアプローチしていきます。1 つの団体や個人レベルで実現できることは限られてしまうこと、また広報や集客に対するそれぞれの苦労など、共通する課題の解決に向けて、共に相談し合い協力するための、さらなるネットワーク強化に努めていきます。

1. 事業が目指すところ

以前より小・中学生の学校外での文化体験活動の機会が減っており、コロナ禍でさらに学校内での体験機会までも失われました。大勢で集うことが叶わなくなっている現状においては、少人数で、かつ開催機会を増やすことが求められています。

学校現場においては、家庭教育や社会福祉の機能までも担う必要が増し、すべてのこどもの個性を受け入れる余裕がない現状です。地域で継続的に関わり、こどもの可能性や主体性を引き出す支援を行うため、特に学校教育で十分に補えないロボットプログラミングを含む情報教育や、音楽、文化芸術分野の体験活動の機会を創出することが目的です。

またコミュニティラジオ番組の制作体験を通じて、公に自分の意見を発信する経験を通じたモラル形成、多文化理解、体験や学習の場を創出します。大人に子ども達の率直なリアルな声が届くことも目的としています。

2. 活動内容

| | |
|--|--|
| <p>ロボットプログラミング（小学生 5 名）のべ 50 名 4/16、5/21、6/18、7/16、8/20、9/17、10/15、11/19、12/17、1/21、2/18（予定） 講師：（株）S&F PARTNERS プログラミング教室 Makids 講師</p> | <p>コミュニティラジオ番組制作 わいわいキッズラジオ（小学生 1 名、中学生 4 名）のべ 20 名 5/6、7/1、9/2、11/18、1/13（全 5 回） 講師：FM わいわい代表理事 金千秋氏 理事（ミキサー） 藤田学氏</p> |
|  |  |

3. 成果や課題点

- (1) 成果：学校外での地域のプロ講師との継続的で深い関わりにより、こどもの興味関心と意欲がさらに高まりました。
- (2) 課題：主な対象となる要配慮家庭に広く届けたい一方で、個々の課題や特性に寄り添った継続的な支援に応えるためには、対象者が限られてしまうというジレンマがあります。

4. 今後の展望、成果の活用

ロボットプログラミング講座の受講により、パソコンやプログラミングと情報リテラシーの基礎を習得しました。主体性をもちゲームやロボット操作の制作意欲が高まり、個々のスキルアップはもちろん、チームワークの体験を通じた社会性や協調性の向上がみられました。その成果として、地域イベントのこどもブース出店にエントリーする等、新たなチャレンジへの意欲が見られました。

コミュニティラジオ番組制作では、パーソナリティーへのチャレンジにとどまらず、番組のトークテーマやクイズコーナー等の企画考案にも主体的に参画しました。また YouTube 配信用の動画のスイッチング、スライド制作、タイムキーパー、音源やマイクの切り替え等音響ミキサー操作も習得しました。少人数ではありますが、継続的で個々に寄り添った支援を継続することにより、子どもたちと関わる大人達、保護者さんとの強い信頼関係ができ、地域イベントへの初参画という大きなチャレンジにつながったことは大きな成果でした。この子どもたちの活躍する姿がロールモデルとなり、次世代へ継続していくことが願いです。一団体でできる事業は限られますが、地域のネットワークとパートナーシップで、より多くの体験活動の機会を子どもたちに提供していきたいと願っております。



学びたい気持ちや社会と繋がりたいという気持ちはあっても、不登校気味であったり、経済的な問題などから「学校」や「学校外の居場所」を選べない子どもたちに、人と関わることの喜びやさまざまなことにチャレンジする中で「できた」が自信につながるよう、自然の中での「まなび」と体験活動の場を提供します。

こんなこと、できます！

まずは、ゆったりと流れる時間の中で、自分らしく過ごしましょう。それから一緒に、やってみたいことを形にしていきましょう。

焚き火、薪割り、クッキング、登山、山菜とりにモルック、グランドゴルフ…

ボードゲームやクラフト、陶芸、ギターにドミノに挑戦！！

体験（あそび）の中には、まなびもいっぱい。「できた」の経験を増やしていきましょう。

今日は、ママも子ども、ほっと「ひとやすみ」の日。

これまでと、これから。

「ひとやすみ」の開催

- * 毎週1日 10時～15時（8時から早朝対応/18時まで延長対応）
- * 誰もが主役なオープンディ（親子参加やお友だちとの参加も可）
（次回）3月29日（金）マルシェTEMIL（仮）

「学習会・支援者意見交流会」の開催

- * 子どもたちの現状や事業を実施するために必要なノウハウを知る学習会
- * 阪神地域や北播磨地域で不登校支援や居場所づくりをしている支援者との意見交流会

「ひとやすみ」広報活動

- * チラシ配布、ホームページ掲載、SNSでの広報（今後）



F Group



| 団体名・企業名・学校名 | 事業名(助成団体のみ) |
|------------------------|---|
| エム・シーシー食品株式会社 | |
| 神戸市役所地域協働局地域協働課 | |
| 関西福祉大学 萬代ゼミ | |
| (特非)Co-Creationこのゆびとまれ | 山をまるごと遊ぼうこの指とまれプロジェクト |
| (認定)宝塚NPOセンター | もったいないをみんなで笑顔に |
| (特非)おーえんくらぶ | 本気のこどもクッキング 目指せ キッズシェフ! ~食から育てる 子どもの自立心 |
| (特非)北播磨市民活動支援センター | NPO設立・運営相談及びNPOの資金調達について考える |

□ ABOUT US

エム・シーシー食品株式会社は、神戸の調理食品専門メーカーとして、「安全で美味しい」食品の提供をお約束いたします。

そのため、兵庫県産バジルをはじめとして、原料の国産化に向けた取り組みを進めてまいります。

お客さまにきつとご満足いただける豊富なラインナップの調理缶詰・レトルトパウチ・冷凍食品を取りそろえ、食文化の担い手として皆様のお役に立ちたいと願っております。

代表取締役社長 水垣 宏隆



会社概要

| | |
|------|-----------------------------|
| 本社住所 | 〒658-0023 神戸市東灘区湊江浜町32番 |
| 資本金 | 9,000万円（非上場） |
| 設立 | 1954年（昭和29年）1月 |
| 売上 | 148億円（2023年8月期） |
| 従業員 | 308名（2023年10月末） |
| 事業内容 | 調理缶詰、調理冷凍食品、レトルトパウチ食品の製造、販売 |

味の感動を伝える一。
エム・シーシー食品株式会社
 MCC FOOD PRODUCTS CO., LTD.



エム・シーシー食品株式会社は「味の感動」をつくりつづけています。

フアンション都市、神戸で生まれて60年。エム・シーシー食品株式会社は、素材缶詰の時代に調理缶詰、素材冷凍食品の時代に調理冷凍食品を他社に先駆けて商品化。つねに時代を先取りしたチャレンジ精神で新商品をつぎつぎに発表してきました。1950年代の「プレザーブタイプのいちごジャム」、60年代の「調理カレメ、シチュー、ミートソース缶詰」、70年代の「ナイフとフォークで食べる調理冷凍食品、クリームコロッケ」、「湯せんするだけで焼き立ての味が楽しめる調理冷凍ハンバーグ」、80年代の「調理レトルト食品群」、90年代、イタリア料理ブームを先取りした「冷凍ピッツアシリーズ」、「スパゲッティ、パスタソース」など。神戸から新しい食のフアンション、トレンドを発信し、独自の業務用マーケットを築いてきました。

最近では、業務用商品で培ったプロの技を家庭用商品の中に取り込み、より多くの方々に「ほんものの味」の醍醐味、感動をご家庭でも手軽に味わっていただける様になりました。手間と時間を惜しげなく費やし、独自のレシピと調理技術、新鮮な素材を活かして仕上げた「100時間かけたカレメ」など100シリーズ、バラエティ豊かな「スパゲッティソース」シリーズ、東京・神戸の老舗専門店監修のもと高い技術力でお店の味を再現した「名店シリーズ」、神戸消防局・兵庫県警察との取組による社会貢献の一旦を担う目的で商品化した「協創シリーズ」カレメ、ボルシチをはじめとする「朝のスープ」シリーズ、特に「味道・丹波黒」はエム・シーシーの半世紀以上に亘る最高の缶詰技術の粋を集めた逸品です。

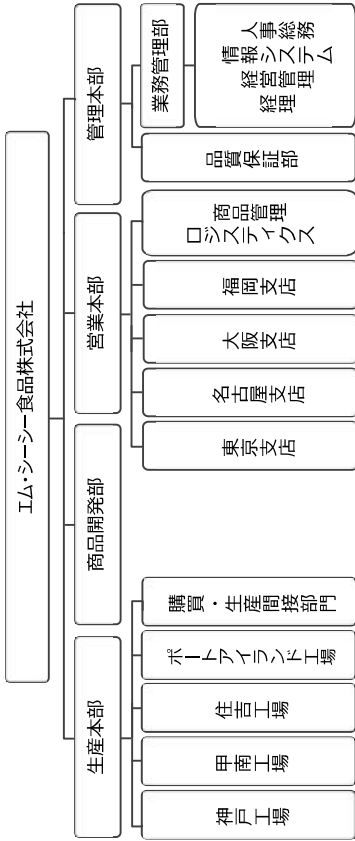
食の最先端情報をすばやくキャッチし、商品を独自の切り口で開発し、新しい食のトレンドを創出するエム・シーシー食品株式会社は、プロのキッチン調理手順、伝統を受け継ぎ、「世界の味と食文化を日本へ、日本の味と食文化を世界へ」発信し続ける総合食品会社です。

COMPANY HISTORY

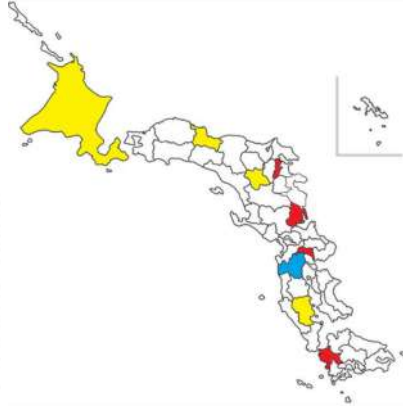
- 1923 (大正12年) ● 水垣商店創立
- 1931 (昭和06年) ● イワシ、いちごジャムなどの缶詰製造を開始 (現 神戸工場)
- 1954 (昭和29年) ● エム・シーシー食品株式会社設立
- 1959 (昭和34年) ● 調理缶詰 (ミートソース・ドライカレー) の製造開始
- 1963 (昭和38年) ● 東京支店開設
- 1965 (昭和40年) ● 新幹線缶詰フエ、後に食堂車にカレー缶詰他を納入
- 1968 (昭和43年) ● 調理冷凍食品 (クリームコロッケ) の製造を開始
- 1971 (昭和46年) ● 神戸第4工区に冷凍食品工場完成 (現 甲南工場)
- 1978 (昭和53年) ● 日本古来の伝統食品として、「味道・丹波黒」を製造開始
- 1980 (昭和55年) ● 業務用缶詰「タヒチカレー」を発売、(今日までロングセラーとなる)
- 1981 (昭和56年) ● 神戸ポートピア'81 にレストラン「ザ・ライスロード」を出店、世界の米料理を紹介
- 1982 (昭和57年) ● レトルトパウチ食品の製造開始
- 1986 (昭和61年) ● MCC ショールーム「味道ラウンジ」を開設
- 1987 (昭和62年) ● 水垣宏隆、代表取締役社長に就任
- 神戸第2工区にて冷凍倉庫 (現 住吉工場) 稼働
- 1988 (昭和63年) ● 中国海南島で食品生産開始
- 業務用冷凍食品「イタリアンピンツアクラスト」を発売
- 1989 (平成01年) ● ジョイントベンチャーによるピッツァ専用工場「株式会社パスタロード」を設立
- 1991 (平成03年) ● 缶詰製造 60 周年を迎える
- 1992 (平成04年) ● 業務用缶詰「タヒチカレー」が日本食糧新聞社より、ロングセラー賞を受賞
- 1995 (平成07年) ● 阪神淡路大震災で被災
- 1997 (平成09年) ● 業務用冷凍食品「ピッツァシリーズ」年間販売量 280,000 ケース突破
- 甲南工場が食品衛生優良施設として厚生大臣賞を受賞
- 2001 (平成13年) ● 家庭用レトルトパウチ「神戸カレーシリーズ (100 年前のビーフカレー・100 時間かけたカレー)」を発売
- 2003 (平成15年) ● ISO9001:2000 (品質マネジメントシステム) を認証取得
- 2005 (平成17年) ● バジルの「地産地消」を目指し、兵庫県内の農業団体との栽培契約とコラボレーションにより、龍野市と一宮町で第2回のテスト栽培を開始。兵庫県農林水産部農政企画局消費流通の「食品産業・産地連携新製品開発事業」認定
- 水垣宏隆、会社業績の発展と食品業界並びに地域社会への幅広い貢献が認められ、2005年 (平成17年)、春の褒章で「黄綬褒章」を受章
- 2010 (平成22年) ● 水垣宏隆、「旭日双光章」を受章
- 2014 (平成26年) ● 6次産業化推進のため出資先 (株) ささ産農にてバジル加工工場竣工
- 2017 (平成29年) ● 地域未来牽引企業に選定
- 2019 (令和01年) ● ひょうご仕事と生活の調和推進企業に認定
-
-
- 2023 (令和05年) ● エム・シーシー食品 (前 水垣商店) 創立 100 周年



ORGANIZATIONAL CHART



NETWORK



- 営業4支店
 - 出張所 (北海道、仙台、前橋、広島)
 - 本社、4工場 (甲南工場・神戸工場・住吉工場・PI工場)
- < 工場 >
 ● 甲南工場 〒658-0023 兵庫県神戸市東灘区深江浜町 32 番 / Ⅱ: 078-451-1482
 ● 神戸工場 〒653-0032 兵庫県神戸市長田区葦通 5 丁目 4 番 18 番 / Ⅱ: 078-671-1245
 ● 住吉工場 〒658-0042 兵庫県神戸市東灘区住吉浜町 9 番 / Ⅱ: 078-822-1115
 ● PI工場 〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 4 丁目 2-8 / Ⅱ: 078-306-2110
 < 営業支店 >
 ● 東京支店 〒108-0075 東京都港区港南 2 丁目 12 番 23 号 明産高浜ビル 6F / Ⅱ: 03-5783-0960
 ● 名古屋支店 〒451-0045 愛知県名古屋市中区名駅 3-6-20 福田ビル 3F / Ⅱ: 052-586-4070
 ● 大阪支店 〒550-0013 大阪府大阪市西区新町 4-1-4 (新なこお筋 中川ビル 5F) / Ⅱ: 06-6539-0410
 (大阪支店・通販グループ) プリ-タイムル Ⅱ: 0120-25-0149
 ● 福岡支店 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 1 丁目 10-27 アステイア博多ビル 6F / Ⅱ: 092-441-1913



「垂水魅力アップ活動助成」を活用したみなさんの声をご紹介します。



もぐもぐ広場
多世代交流・居場所づくり



どんな活動ですか？

食育イベントや体験型イベントを企画・開催しています。今年度は、リトミック、フォトブース、ベビーマッサージなど、垂水で活動する素敵な講師の方々とともに学び楽しむ地域交流イベントを開催しました。

活動を始めたきっかけは？

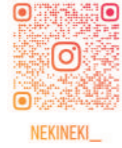
多様な世代の方が出会えるきっかけをつくりたいという思いが発端となっています。

助成申請してよかったことは？

「魅力アップ活動助成」に採択されたことで広報紙に掲載され、一般の方に安心感を持って参加していただきました。また、助成金を使うことでイベントの規模を拡大することが可能になりました。



ネキネキ
音楽・ダンス



どんな活動ですか？

音楽家、画家、ダンサーたちと一緒に遊びながら、参加者が“そのまんま”を“表現”することを楽しめる活動です。

助成申請してよかったことは？

「助成金」はハードルが高いと思っていましたが、地域協働課では、開催場所や資金繰り、広報ノウハウなど、私たちでは考えの及ばないところまでわかりやすく具体的にアドバイスしていただきました。また、図書館などの公共施設にチラシを置いてもらえて、広報もしやすくなりました。年間計画を立てることで長期的な見通しを立てることもでき、活動として大きく前進することができました。



舞子で繋がる
健康ヨガの会
高齢者の健康づくり



どんな活動ですか？

舞子六神社境内をメインに“椅子ヨガ”を開催しています。

活動を始めたきっかけは？

コロナ禍により高齢者のふれあいや運動の機会が減少し、外出するきっかけやコミュニケーションの場をつくりたいと、ヨガの会を企画しました。

助成申請してよかったことは？

活動地域を広げて定期開催することができ、「毎月ヨガ新聞」の発行やイベントチラシも作成できました。SNSを活用したことも相乗効果となり、新たなつながりもたくさんできました。地域協働課の方が親身に相談に乗ってくれてありがたかったです。



Hoaloha Tarumi
高齢者の健康づくり

どんな活動ですか？

イスに座って気軽にできるフラの活動を行なっています。

活動を始めたきっかけは？

コロナ禍で外出もままならない高齢者の方が健康でいきいきと過ごせるような活動をお手伝いをしたいと思い、始めました。

助成申請してよかったことは？

公民館や施設の会場使用料や演奏者をお呼びした際の出演料、イベント告知チラシの作成に助成金を活用しました。助成があったことでプロのミュージシャンの生演奏を聞く機会もでき、より充実したイベントを開催することができました。

みんなの“やってみたい”をサポート
地域活動を応援する
垂水魅力アップ活動助成



さらにこんな声も！

広報紙で掲載してもらって参加者が増えた

寄付や協賛金の呼びかけなど、自主財源の確保については準備期から検討すべき

区内の地域活動団体やキーパーソンとのつながりが大事

活動場所が増えた！他の団体とコラボできた！

1年目(準備期) 助成額 上限 10万円

2年目(実践期) 助成額 上限 30万円

3年目(実践期) 助成額 上限 30万円

自分たちで実践できる！

助成終了後も地域協働課が活動をサポート！



垂水魅力アップ活動助成とは？

よりよい地域づくりのための活動に使える助成金&サポート制度です。
 アイデアはあるけれど何から手をつけたらいいのかわからない方も
 お気軽にご相談ください！地域協働課が伴走します。※相談は毎週月曜日(予約制)

- # 企画の相談
- # 申請書作成フォロー
- # チラシの作成方法
- # SNS発信方法
- # 活動場所の紹介
- # 資金繰りの相談
- # オンラインの打ち合わせ方法



募集期間

準備期 2023年3月1日(水)～12月28日(木)
 実践期 2023年3月1日(水)～4月21日(金) 準備期を終えてから申請できます
※予算の範囲内で助成を行うため、申請期間中であっても助成の受付を終了することがあります

助成対象期間

準備期 採択後～3月
 実践期 4月～3月

助成金額

準備期 上限10万円(年間)
 実践期 上限30万円(年間)
(最大2年まで申請可)

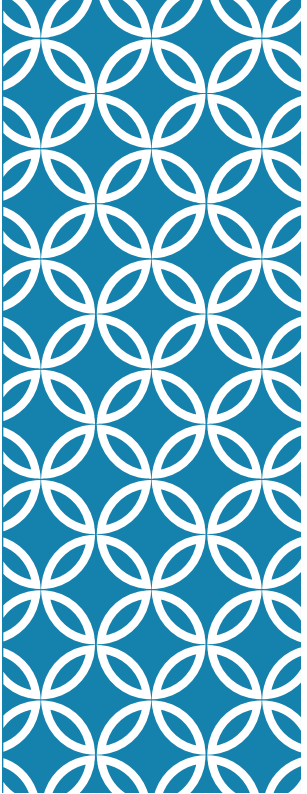
対象団体

- ・企画した活動を終了まで責任を持って遂行できる団体
- ・2名以上で構成される、実行組織や地域活動団体、NPO等非営利団体など

※法人格の有無は問いません。ご近所同士・自治会・サークル・ボランティアグループなどでもOK
 ※過去に本制度に基づく助成を受けたことがない活動が対象

対象となる活動

- ・自ら企画・提案・実施するまちづくり、健康、安心・安全、子育て、交流など、「住みたい 住み続けたいまち 垂水」を目指す活動
- ・まちに根付くことを目指す活動
- ・助成期間中に活動基盤を安定させて、将来的に自走・自立できる活動



垂水魅力アップ活動助成

令和5年度 探採団体

T s u k a n o m a

「子育て中の方に息抜きをしてほしい」という思いから立ち上がった団体。利用者の方にはカフェスペースでゆっくりしてもらい、子どもたちは又タツが留守ります。1人の時間や趣味など、それぞれの時間を過ごしてもらえるようにサポートをします。



秘密基地D0-Z0

子どもの居場所、つくり中。築100年の古いお家子どもたちと面白がつて再生していきます！それぞれの『やってみたい！』ができる場所になるように、せひ、つくとるところから関わって、一緒に遊びましょう！



舞子でつながる健康ヨガの会

舞子六神社や地域福祉センターで「健康ヨガ」を定期的に開催しています。高齢者でも無理なくできるイスヨガ、畳空のもとで行うヨガをお伝えしています。また、自宅でできる体操やストレッチを紹介した『健康ヨガ新聞』も毎月発行しています。



ネキネキ

音楽家、ダンサー、アーティスト達と一緒に遊ぶ、鳴らす、踊る、つくる。笑つ、繋がつて、その時感じたそのまんまを表現してみるワークショップです。



もぐもぐ広場

子育て世帯だけではなく、幅広い年代層が出会い、交流するキック作りを、食育イベントなどの企画・開催を通じて提供しています。また、新しく地域活動をした方や興味がある方へのお手伝いもしています。



石川県能登半島地震復興支援ボランティア

～私達ができる事を探して～

関西福祉大学 萬代ゼミ

・ボランティアの背景

令和5年5月、石川県にて最大震度6強の地震があった。石川県全体での人的被害は比較的少なかったが、珠洲市では家屋の一部倒壊・全壊など住居被害があった。しかし、多くの人達の協力により復興が進んでいたため、特別養護老人ホーム第三長寿園を中心とする心のケアを学生15名・引率教員1名で行った。

・目的

現地での活動を通して地域の活性化を図り、今まで通りの笑顔と元気で溢れる生活を取り戻してもらい、被災前よりも強い住民同士のつながりを持ってもらうこと。

・活動内容

1, 現地活動/実施日令和5年8月7日(月)～8月10日(木)

今回の活動では珠洲市にある、社会福祉法人長寿会特別養護老人ホーム第三長寿園に協力してもらい、利用者と一緒に盆踊りやヨーヨー釣りを行った。加えて、この地震の影響で一部崩落した見附島をはじめ、珠洲市の観光地を取り上げ観光マップ作製も実施した。

2、現地活動以外にも募金活動や、災害復興支援ボランティアの事・現地活動で学んだ事を、本学のコミュニティアワー報告会と兵庫県要約筆記サークル連絡協議会東播・西播地域交流学习会で話をさせていただいた。

活動の様子



・成果

第三長寿園の方に対話や活動を通して喜んでいただき、日々の地域住民や人とのつながりが、災害発生時に強い力になることを学んだ。そして、現地での交流を通して人との交流が前を向く原動力になり、元気で明るいエネルギーは被災者に伝染することを体感した。加えて、地震発生から3か月も経っているにもかかわらず、修繕されていない箇所や現地の人に聞いて初めて知る困難などメディアで報道されていることは、ごく一部のものであり実際に見るのとは大きく違うと知った。さらに、災害発生時の情報の整理・伝え方には、もっと配慮する必要があることが分かった。特に聴覚障害者は、警報音や速報などが聞こえないので避難が遅くなる可能性が高いと気付いた。

・課題

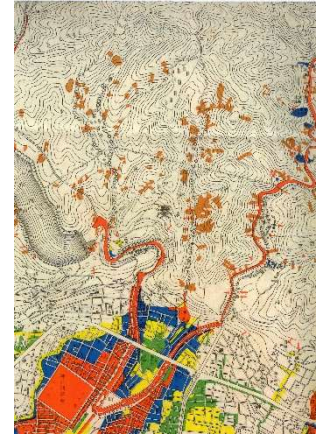
現地活動で地域住民に直接介入する関わりが施設以外であまりできなかったこと。また、私たちが現地で学んだ事を得た知識や情報を外部に伝える活動が少なかったことが課題である。

令和5年度(特非) Co-creation このゆびとまれ活動報告書 「山をまるごと遊ぼうこのゆびとまれプロジェクト」

1 事業の目指すところ

(事業の目的、なぜこの事業を実施しようと思ったか、

現在、大規模な土砂災害や風水害、地震災害が多発しています。正月には、能登半島地震も起こりました。それは、人類による過度な開発や環境破壊が原因の一つだと言われています。活動地である山林は、右図のように昭和13年の神戸大水害後、再建された弁天王というお社があります。日本では、少子高齢化により、空き家が増加し、山林や神社までも、放置される状況にあります。



そこで、多種多様な世代に対して、山の保全や空き家対策等に関する事業を行い、さまざまな環境問題、青少年の健全育成、こどもの居場所づくり、防災意識の向上などに寄与することを目的とした事業を実施しています。

2 特定非営利活動に係る事業 活動内容

- ・ 4月3日 43人 筍取り 親子や、大学生、近所の人など4月、5月で合計延べ135人(昨年63人)が来山(倍増)
- ・ 7月から9月、山の保全や物置設置など
- ・ 10月1日 イラストレータと絵を描く会9名参加
- ・ 10月25日 森の音楽会 10名参加のちに神戸新聞に掲載される→
- ・ 12月3日 シーグラスと竹細工 7名
- ・ 12月17日 タケ子さんの竹体操、
- ・ 12月25日 門松作成
- ・ その他、ほぼ毎週日曜日、整備や保全



3 成果や課題

- (1) 【成果】 多数の方や親子づれだけでなく学生や近所の方も訪れるようになった。高専祭で山の竹で、門が作成された。法人のホームページ「以下 (HP) という。」から多数、タケノコ掘りのシーズンには申し込みがあった。QRコード参照→
- (2) 【課題】 健康と山の健康アップのイベントに参加者がいなかったため中止し、コラボ予定の団体とのコラボが実現できなかった。再度の交渉を重ねて来年度は、実現したい。また、参加者やボランティアを増やしたい。



4 今後の展望、成果の活用

かねてより、コラボをしたいと考えていた近くの古民家を改修した天王茶屋さんにチラシを配布してもらい、イベントを告知してもらうことができた。今後、拠点となる地域交流施設の確保や事例発表の場の設定などを行い参加者の増加など活動を広げたい。

地域づくり活動 NPO 事業助成
もったいないをみんなで笑顔へ（フードシェアリング事業）

認定 NPO 法人宝塚 NPO センター

1.事業が目指すところ（事業の目的・社会課題）

貧困問題や各家庭の食品余剰問題、企業の食品破棄などに対し、地域とのつながりを活かした食料支援事業を行うことで、生活に困窮している方々がこの事業を通して生活を再興するための一歩としていただけるような状況を作り出す。

2. 活動内容（以下の内容で食品回収と配布会 4 回を開催）

| | 食品回収 | | 配布会 | | | |
|---|------------|-------|-------|-------------------------------|------|--------------|
| | 回収期間 | 回収量 | 開催日 | 配布会場所 | 参加人数 | |
| 1 | 6/1~6/15 | 170kg | 6/17 | 宝塚市立男女共同参画センターエル | 11名 | うち相談件数 1件 |
| 2 | 8/1~8/30 | 116kg | 9/2 | 宝塚市立男女共同参画センターエル | 34名 | うち相談件数 3名 |
| 3 | 10/3~10/18 | 127kg | 10/21 | シングルマザーハウス With コミュニティールーム | 27名 | うち相談件数 2名 |
| 4 | 12/1~12/20 | 218kg | 12/23 | ピピアめふ 2 階 コープカルチャー貸室 | 50名 | うち相談件数 1名 |

3.成果と課題

＜＜成果＞＞

回を重ねる度に、徐々にこの活動が広がり、回収量（食品以外の日用品や衣類などを含む）と配布会に来られる方が増えた。配布会開催時に相談ブースを設け、生活や就労の悩みを聞き、必要な連携先を紹介したり、さらには就職に繋げることも出来た。

また、自分たちの団体でもこのような活動を考えているという話があり、その団体に活動内容を伝えることができ、活動の広がりに期待する。

＜＜課題＞＞

生活困窮している方の生活を再興するための一歩までは至らなかったため、例えば民生委員等の連携先を増やし支援を拡げる事で、生活基盤の再興に繋がるよう検討する。

4.今後の展望

自治会、まちづくり協議会、地縁団体等へこの活動をさらに周知し、地域の方々が行えるような仕組みを考え、地域に定着させたい。



食品提供 BOX



配布会の仕分け作業の様子



配布会の様子



本気のこどもクッキング 目指せキッズシェフ! ～食から育てる 子どもの自立心～

NPO法人おーえんくらぶ

1 事業がめざすところ

「食」は親から子へと伝え継ぎたい大切なものだが、核家族化が進んだ現代では、日本の食文化を各家庭で伝えることが困難になっている。インスタント食品・ファストフード・コンビニなどが広まったことで、子供たちの食生活も大きく変化している。

しかし、子供たちの身体が食べたもので作られていることに変わりはなく、本プログラムを通じて参加者や保護者に、子供たちの成長に必要な健康的な食生活の重要性を伝える。

- 【事業の目的】
- ①自分で体にいいものを選び、調理できるようになる。
 - ②食事作りを通じて、子どもたちの自立心・協調性を育む。
 - ③兵庫の特産品や季節の食材を使った献立を調理。地域を知り、地域を愛する機会にする。

2 活動内容

- ①②4月23日・5月21日 お弁当作りに挑戦
- ③7月2日 デコ巻きずしに挑戦
- ④⑤7月27日・7月30日 夏休みのお昼ご飯づくりに挑戦
- ⑥10月7日 備えて安心!防災クッキング!
- ⑦⑧11月3日 お魚をさばろう!
- ⑨⑩12月3日・12月17日 お正月料理を作ろう!
- ⑪1月7日 手作りお味噌を作ろう!
- ⑫2月4日 和食の基本をおさえよう



3 成果や課題点

【成果】

毎月テーマを変えバリエーションに富んだ講座、海苔や鯛など兵庫の食材を使用したり、明石浦漁協や明石神戸の先生方に講師をお願いしたりと、地元密着の企画ができた。参加者にも喜んでいただけた。

【課題点】

昨年は募集開始1時間以内に満席になり、キャンセル待ちが出ていたが、参加の機会を公平にするために、先着順から抽選制に変更。また、保護者の興味が高そうなテーマの時は同じ講座を2回提供した。

昨年ほどの倍率にはならず、また2回開催のときは何度も追加募集をかけたが、定員に満たないこともあった。



4 今後の展望

本事業は1回完結型だったため、参加者の満足度を高めることに注力し、一定の成果を得られたと感じている。しかし1回完結型では、子どもたちが自分自身の成長を感じにくいという面もある。今後は2回、3回シリーズとして開催することも検討する。

子どもたちの生きる力を高め、意欲を引き出すサポートをしている団体であることを知っていただくことで、他の活動へ参加するきっかけにしていきたい。



NPO設立・運営相談及びNPOの資金調達について考える

≫ 事業の目的

地域社会が良くなることを目的に立ち上げたNPOも、活動を続けていくためには、想いだけでなく経営という視点も必要である。その中で、地域のNPOとの相談事業を通して、多くの団体が抱えている課題として資金調達がある。特に、小規模で設立からの年数が浅い団体に顕著に現れている。また、そのような団体は特定の資金源に頼らざるを得ず、活動は年々、疲弊してきている。本事業では、相談事業を中心とするNPO運営の総合的支援とファンドレイジングについて考える機会を提供し、NPOが自立し、活動を続けていくことを目的とする。

≫ 活動内容

■ NPO設立・運営相談

団体の立ち上げから運営まで、幅広い分野の相談に対応する

▶ 相談窓口

| | | |
|------|-------------------------|--------|
| 相談件数 | 70件（面談・訪問・電話・メール・オンライン） | ※1月末時点 |
| 相談内容 | 実務（会議の開催、手続きに関すること） | 24件 |
| | 事業の実施に関すること | 15件 |
| | 設立・法人化に関すること | 11件 |
| | 活動資金に関すること（助成金申請など） | 6件 |
| | その他（会計、登記、解散など） | 13件 |



相談窓口：小野市うるおい交流館エクラ

▶ 情報発信

メーリングリストでセミナーや助成金情報等を毎月2回発信

▶ 個別相談会の実施

NPOの立ち上げや、事業の実施、ICT等に関する個別相談会を実施した。

開催実績 3回 相談件数 6団体

▶ NPO会計個別相談会の実施

会計士による専門分野の相談会を実施。

▶ NPOの座談会

ざっくばらんに地域のこと、活動での困りごとを話せる場（2月下旬開催）

■ ファンドレイジングセミナーの開催

ファンドレイジングの基本的な知識についてのセミナーを実施し、NPOの資金源についての知識を持つ人材を育成する。 2月19日・26日開催予定!

≫ 事業の成果・今後の展望

NPO・設立運営相談では、分野に限らない相談に対応した。個別相談会では、より団体の状況を理解することができ、課題の解決につながった。また、今年度は他地域の中間支援団体との連携も多く、相談対応のスキルアップにつながった。

メーリングリストで助成金情報などを定期的に配信することで、多様な資金源の獲得につながるようサポートを行うとともに、ファンドレイジングセミナーの実施により、NPOの資金調達の理解に繋げることが出来た。



個別相談会チラシ



NPO会計個別相談会チラシ

G Group



| 団体名・企業名・学校名 | 事業名(助成団体のみ) |
|-------------------------|---|
| 学校法人玉田学園 神戸常盤ボランティアセンター | |
| エム・シーシー食品株式会社 | |
| (特非)にしのみや次世代育成支援協会 | |
| (認定)しみん基金・こうべ | 共助の資金循環をつくる助成事業 オンラインITツール講座 |
| (特非)神戸ロボットクラブ | 子供のプログラミング的思考と情報活用能力学習の支援活動 |
| (特非)ふおーらいふ | 家庭が居づらい子ども・若者の居場所作りと支援体制作り |
| (特非)兵庫SPO支援センター | 働いている人・遠隔地の人のためのNPO等支援窓口 -淡路島の中間支援- 不登校及び困窮児童生徒家族の居場所づくりと支援会議の設置 |



神戸常盤ボランティアセンターは、神戸常盤大学生・短期大学部生、神戸常盤女子高校生、神戸常盤大学附属ときわ幼稚園児とその保護者、教職員、卒業生等、学園関係者を対象にボランティア活動の推進を図るため、学園のボランティアセンターとして設置されています。

阪神淡路大震災では、本学園の生徒3名も犠牲となり、校舎やグラウンドも大きな被害を受けました。また、地域の皆様の要望を受けて、大学・高校の校舎を避難所として開放し、その際には全国からたくさんのご支援を頂きました。このような経験がもとになり、地元長田区での様々な地域活動へ生徒・学生や教職員が積極的に取り組んでいます。

その一つとして、新長田鉄人広場で行われている阪神・淡路大震災追悼行事「1.17KOBEに灯りをinながた」では、学園としてボランティア活動に参加しています。会場設営から灯りの見守り、行事継続開催のための街頭募金活動等、行事の運営を支える活動を行っています。今年は能登半島地震災害救援のため募金活動も行いました。



学校法人 玉田学園



ボランティアセンターの大きな特徴として、設立準備段階より神戸市長田区社会福祉協議会と協働してセンター設立準備を行い、神戸市長田区の地域福祉推進の一助となるよう、社会福祉協議会、地域団体と連携した活動を行っています。

地域へ出張して行う健康チェックや一人暮らし高齢者の皆様にお配りするカレンダーの作成、地域の子育てサロンでのボランティア、防災紙芝居の披露等、多彩な分野で学生たちが活躍しています。

ボランティアセンターの他にも、神戸常盤大学子育て総合支援施設KIT（きっと）では、地域のボランティアの皆さんとの協働のもと、学生による絵本の読み聞かせやサイエンスカフェの開催等、子どもを対象としたボランティア活動も盛んです。

これらの活動は、学生・生徒・園児の正課内外での教育活動の一環としてだけではなく、「地域とともに」を目指す本学園の地域貢献活動としての役割も果たしています。



□ ABOUT US

エム・シーシー食品株式会社は、神戸の調理食品専門メーカーとして、「安全で美味しい」食品の提供をお約束いたします。

そのため、兵庫県産パスタをはじめとして、原料の国産化に向けた取り組みを進めてまいります。

お客さまにきつとご満足いただける豊富なラインナップの調理缶詰・レトルトパウチ・冷凍食品を取りそろえ、食文化の担い手として皆様のお役に立ちたいと願っております。

代表取締役社長 水垣 宏隆



会社概要

| | |
|------|-----------------------------|
| 本社住所 | 〒658-0023 神戸市東灘区湊江浜町32番 |
| 資本金 | 9,000万円（非上場） |
| 設立 | 1954年（昭和29年）1月 |
| 売上 | 148億円（2023年8月期） |
| 従業員 | 308名（2023年10月末） |
| 事業内容 | 調理缶詰、調理冷凍食品、レトルトパウチ食品の製造、販売 |

味の感動を伝える一。
エム・シーシー食品株式会社
 MCC FOOD PRODUCTS CO., LTD.



エム・シーシー食品株式会社は「味の感動」をつくりつづけています。

フアンション都市、神戸で生まれて60年。エム・シーシー食品株式会社は、素材缶詰の時代に調理缶詰、素材冷凍食品の時代に調理冷凍食品を他社に先駆けて商品化。つねに時代を先取りしたチャレンジ精神で新商品をつぎつぎに発表してきました。1950年代の「プレザータイプのいちごジャム」、60年代の「調理カレメ、シチュー、ミートソース缶詰」、70年代の「ナイフとフォークで食べる調理冷凍食品、クリームコロッケ」、「湯せんするだけの味が楽しめる調理冷凍ハンバーグ」、80年代の「調理レトルト食品群」、90年代、イタリア料理ブームを先取りした「冷凍ピッツアシリーズ」、「スパゲッティ、パスタソース」など。神戸から新しい食のフアンション、トレンドを発信し、独自の業務用マーケットを築いてきました。

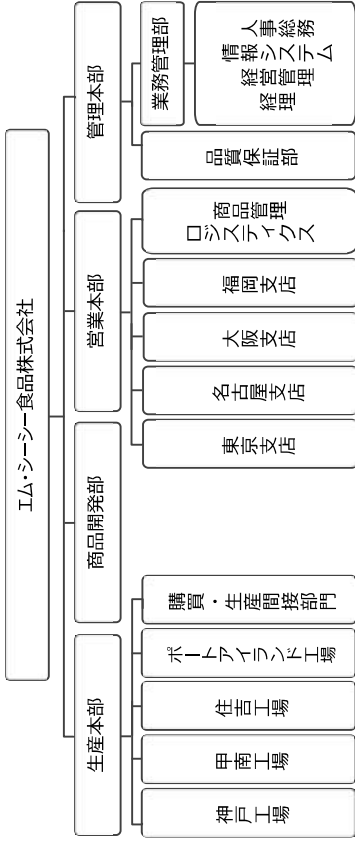
最近では、業務用商品で培ったプロの技を家庭用商品の中に取り込み、より多くの方々に「ほんものの味」の醍醐味、感動をご家庭でも手軽に味わっていただける様になりました。手間と時間を惜しげなく費やし、独自のレシピと調理技術、新鮮な素材を活かして仕上げた「100時間かけたカレメ」など100シリーズ、バラエティ豊かな「スパゲッティソース」シリーズ、東京・神戸の老舗専門店監修のもと高い技術力でお店の味を再現した「名店シリーズ」、神戸消防局・兵庫県警察との取組による社会貢献の一旦を担う目的で商品化した「協創シリーズ」カレメ、ボルシチをはじめとする「朝のスープ」シリーズ、特に「味道・丹波黒」はエム・シーシーの半世紀以上に亘る最高の缶詰技術の粋を集めた逸品です。

食の最先端情報をすばやくキャッチし、商品を独自の切り口で開発し、新しい食のトレンドを創出するエム・シーシー食品株式会社は、プロのキッチン調理手順、伝統を受け継ぎ、「世界の味と食文化を日本へ、日本の味と食文化を世界へ」発信し続ける総合食品会社です。

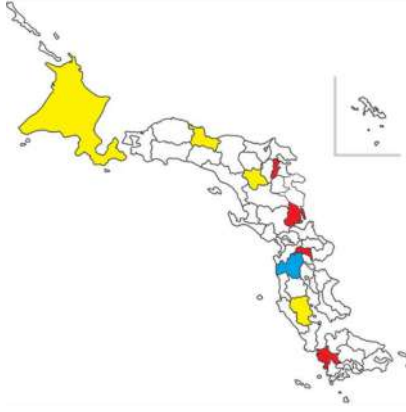
COMPANY HISTORY

- 1923 (大正12年) ● 水垣商店創立
- 1931 (昭和06年) ● イワシ、いちごジャムなどの缶詰製造を開始 (現 神戸工場)
- 1954 (昭和29年) ● エム・シーシー食品株式会社設立
- 1959 (昭和34年) ● 調理缶詰 (ミートソース・ドライカレー) の製造開始
- 1963 (昭和38年) ● 東京支店開設
- 1965 (昭和40年) ● 新幹線缶詰フエ、後に食堂車にカレー缶詰他を納入
- 1968 (昭和43年) ● 調理冷凍食品 (クリームコロッケ) の製造を開始
- 1971 (昭和46年) ● 神戸第4工区に冷凍食品工場完成 (現 甲南工場)
- 1978 (昭和53年) ● 日本古来の伝統食品として、「味道・丹波黒」を製造開始
- 1980 (昭和55年) ● 業務用缶詰「タヒチカレー」を発売、(今日までロングセラーとなる)
- 1981 (昭和56年) ● 神戸ポートピア'81 にレストラン「ザ・ライスロード」を出店、世界の米料理を紹介
- 1982 (昭和57年) ● レトルトパウチ食品の製造開始
- 1986 (昭和61年) ● MCC ショールーム「味道ラウンジ」を開設
- 1987 (昭和62年) ● 水垣宏隆、代表取締役社長に就任
- 神戸第2工区にて冷凍倉庫 (現 住吉工場) 稼働
- 1988 (昭和63年) ● 中国海南島で食品生産開始
- 業務用冷凍食品「イタリアンピンツアクラスト」を発売
- 1989 (平成01年) ● ジョイントベンチャーによるピッツァ専用工場「株式会社パスタロード」を設立
- 1991 (平成03年) ● 缶詰製造 60 周年を迎える
- 1992 (平成04年) ● 業務用缶詰「タヒチカレー」が日本食糧新聞社より、ロングセラー賞を受賞
- 1995 (平成07年) ● 阪神淡路大震災で被災
- 1997 (平成09年) ● 業務用冷凍食品「ピッツァシリーズ」年間販売量 280,000 ケース突破
- 甲南工場が食品衛生優良施設として厚生大臣賞を受賞
- 2001 (平成13年) ● 家庭用レトルトパウチ「神戸カレーシリーズ (100 年前のビーフカレー・100 時間かけたカレー)」を発売
- 2003 (平成15年) ● ISO9001:2000 (品質マネジメントシステム) を認証取得
- 2005 (平成17年) ● バジルの「地産地消」を目指し、兵庫県内の農業団体との栽培契約とコラボレーションにより、龍野市と一宮町で第2回のテスト栽培を開始。兵庫県農林水産部農政企画局消費流通の「食品産業・産地連携新製品開発事業」認定
- 水垣宏隆、会社業績の発展と食品業界並びに地域社会への幅広い貢献が認められ、2005年 (平成17年)、春の褒章で「黄綬褒章」を受章
- 2010 (平成22年) ● 水垣宏隆、「旭日双光章」を受章
- 2014 (平成26年) ● 6次産業化推進のため出資先 (株) ささ産農にてバジル加工工場竣工
- 2017 (平成29年) ● 地域未来牽引企業に選定
- 2019 (令和01年) ● ひょうご仕事と生活の調和推進企業に認定
-
-
- 2023 (令和05年) ● エム・シーシー食品 (前 水垣商店) 創立100周年

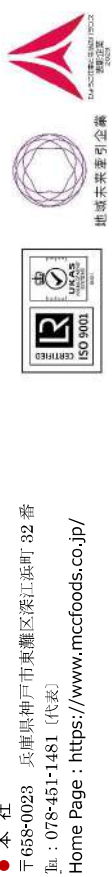
ORGANIZATIONAL CHART



NETWORK



- 営業4支店
 - 出張所 (北海道、仙台、前橋、広島)
 - 本社、4工場 (甲南工場・神戸工場・住吉工場・PI工場)
- < 工場 >
 ● 甲南工場 〒658-0023 兵庫県神戸市東灘区深江浜町 32 番 / Ⅱ: 078-451-1482
 ● 神戸工場 〒653-0032 兵庫県神戸市長田区葦藪通 5 丁目 4 番 18 号 / Ⅱ: 078-671-1245
 ● 住吉工場 〒658-0042 兵庫県神戸市東灘区住吉浜町 9 番 / Ⅱ: 078-822-1115
 ● PI工場 〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 4 丁目 2-8 / Ⅱ: 078-306-2110
 < 営業支店 >
 ● 東京支店 〒108-0075 東京都港区港南 2 丁目 12 番 23 号 明産高浜ビル 6F / Ⅱ: 03-5783-0960
 ● 名古屋支店 〒451-0045 愛知県名古屋市中区名駅 3-6-20 福田ビル 3F / Ⅱ: 052-586-4070
 ● 大阪支店 〒550-0013 大阪府大阪市西区新町 4-1-4 (新なこお筋 中川ビル 5F) / Ⅱ: 06-6539-0410
 (大阪支店・通販グループ) プリ-タイムル Ⅱ: 0120-25-0149
 ● 福岡支店 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 1 丁目 10-27 アステイア博多ビル 6F / Ⅱ: 092-441-1913



2022年度 お茶の間「ぶちだがしやさん」開催日・人数実績

| 開催月 | 開催日・人数 | | | | | | | | 合計人数 |
|-------------|---------|----------|----------|-----------|---------------|----------|-----------|--|------|
| 2022年 4月 | 7(木) 29 | 11(月) 16 | 17(日) 64 | 29(祝) 75 | | | | | 184 |
| 5月 | 5(祝) 66 | 9(月) 16 | 16(月) 29 | 22(日) 72 | 27(金) 27 | | | | 210 |
| 6月 | 2(木) 38 | 13(月) 41 | 14(火) 50 | 21(火) 17 | 26(日) 149 | 30(木) 25 | | | 320 |
| 7月 | 7(木) 27 | 11(月) 19 | 12(火) 10 | 19(火) 30 | 24(日) 109 | 25(月) 54 | | | 249 |
| 8月 | 4(水) 36 | 8(月) 43 | 9(火) 24 | 21(日) 62 | 22(月) 61 | 26(金) 35 | | | 261 |
| 9月 | 1(木) 25 | 12(月) 17 | 13(火) 51 | 18(日) 89 | 19(祝) 台風のため中止 | 29(木) 29 | | | 211 |
| 10月 | 6(木) 36 | 10(祝) 67 | 11(火) 15 | 16(日) 68 | 27(木) 35 | 31(月) 43 | | | 264 |
| 11月 | 1(火) 13 | 14(月) 46 | 15(火) 33 | 20(日) 89 | 21(月) 29 | 25(金) 25 | 26(土) 120 | | 355 |
| 12月 | 2(金) 21 | 12(月) 50 | 13(火) 15 | 18(日) 96 | 19(月) 52 | 26(月) 23 | | | 257 |
| 2023年 1月 | 5(木) 19 | 9(祝) 39 | 10(火) 24 | 15(日) 68 | 16(月) 24 | 27(金) 15 | | | 189 |
| 2月 | 2(木) 20 | 6(月) 45 | 7(火) 32 | 19(日) 99 | 20(月) 34 | 24(金) 22 | | | 252 |
| 3月 | 2(木) 22 | 13(月) 40 | 14(火) 24 | 19(日) 143 | 20(月) 32 | | | | 261 |
| 合計 | 68日 | | | | | | | | 3013 |

お茶の間 ぶち だがしやさん & ほにやらら

事業報告書

つながり、見守り、輝ける地域の「お茶の間」的な居場所づくり事業

お茶の間「ぶちだがしやさん」 のこれから

2021年度より貸し会議室を利用した居場所づくりを進めてきました。その中で、たくさんの地域の方との出会いがありました。場があることで出会いがあり、つながりを築くことができ、ゆるやかにつながり続けることができる…地域のみなさまがつながり、見守り、輝ける場となるよう、常設での開設を目指します。

スタッフ



お茶の間 「ぶちだがしやさん」 サポーター募集中!

お茶の間「ぶちだがしやさん」は地域住民でもあるスタッフがボランティアで運営しています。「なんだかおもしろそう」「駄菓子が好き」「自分の好きなことを活かしたい」「誰かの役に立ちたい」…ちょこっとお手伝いしてみたいという方を募集しています。ちょこっとの時間で大丈夫です。まずは、ちょこっとのぞきに来てください。★興味のある方は 070-8363-6171 までお電話、または、公式LINE、メール、DMにてご連絡ください。お待ちしております。

特定非営利活動法人にしのみや次世代育成支援協会 (NO BARS)

2012年5月に設立。「NO BARS (のうばーず)」という略称には「線引きをしない」という意味が込められています。「みんなちがってみんないい かきねなんてないんだよ」を合言葉に、障害のあるなしに関わらず、どなたでも参加できる体験活動の場づくり(野外活動、料理教室など)を進めてきました。コロナ禍ではZoomを活用したオンライン料理教室などを、にしきた商店街の協力を得ながら開催。そして、より地域に根ざした活動を大切にしたいという思いから、2021年度より地域の「お茶の間」としての居場所づくりを進め、2022年度からは「のうばーず食堂」(子ども食堂)も開催しています。

〒662-0862 西宮市青木町11番17号
TEL 070-8363-6171 FAX 0798-75-2269
e-mail nishinomiya.nobars@gmail.com
理事長 泉 明子



公式LINE



e-mail



Instagram



Facebook

活動の目的

地域のすべての人と支援者(地域の支援者・専門職)、地域の人同士がつながり、見守り合える関係を築ける場づくりと、役割をもって輝ける場づくりを目的としています。

様々な「しかけ」で地域に住む多様な境遇の人がふらっと立ち寄る「きっかけ」をつくり、何気ない交流から「顔が見える」関係を育み、役割をもつことで必要とされる自分に気づき、「安心して楽しく過ごせる」地域の要となる「お茶の間」的な居場所をつくりたい。そんな思いから始まりました。



開催場所 西宮北口の貸し会議室 (西宮市南昭和町9-14)

特定非営利活動法人にしのみや次世代育成支援協会 (NO BARS) 2023年3月

助成事業と情報発信

認定 NPO 法人しみん基金・こうべ

1, 事業の目的

下記5つの中間支援事業を行うことで、市民活動団体への財政的支援や組織力強化を行い、市民活動団体を育成する。

2, 活動内容

- ① 相談対応 11件
- ② 情報提供・ネットワーク
 - ・ HP、SNS、メルマガ発行などにより、助成先団体への訪問等による活動紹介(5団体)、関係各団体から寄せられた情報等の発信
 - ・ ニュースレターの発行 年3回
 - ・ 公開審査会や助成事業成果報告会での「市民活動団体」間、団体と支援者との交流
 - 公開審査会 (こうべまちづくり会館) 10月30日(月)
 - 成果報告会 (こうべまちづくり会館) 12月4日(月)
 - ・ グーグル広告、ヤフーネット募金を使った情報発信
 - グーグル広告 25,926回表示 クリック数 1,601回
 - クリック率 6.18% (4/1~1/15の9か月間半)
- ③ 人材育成
 - ・ 公開審査会や成果発表会時実施による、プレゼンテーション力の育成・向上
- ④ 書類作成指導
 - ・ 助成申請、事業成果報告書などの作成助言
- ⑤ その他
 - ・ 寄付者等へのお礼状作成・発送
 - ・ 団体パンフレットの更新

公開審査会の質疑応答



成果報告会



パンフレット



3, 成果と課題

昨年度の財政赤字のため、今年度は総助成額を減らさざるを得なかった。助成継続、さらにできれば総助成額を増やせるよう財政確保に努めたい。

4, 今後の展望

来年は震災30年。また令和6年能登半島地震もあるため、クラウドファンディングを行い助成事業継続を目指したい。

オンライン IT ツール講座

認定 NPO 法人しみん基金・こうべ

1, 事業の目的

市民活動団体の運営上の 2 大課題は人材不足と資金不足だが、IT ツールの中には両面を補うことができる機能がある。その IT スキルを持った人材は、自宅で空いた時間に少し手伝うだけという関わり方も可能になり、財政獲得にも使えるため、財政確保や人材不足を補う一助としての多様な人材育成を目指す。

2, 活動内容

市民活動団体のスタッフやボランティア向けに、クラウドファンディングやオンラインデザインツール canva、グーグルフォームの講座を実施。多様な人が参加しやすいよう同じ内容で昼開催・夜開催 1 回ずつ実施。

場所はいずれも中央区文化センター

日時：8月24日

参加者：12名

①10時～12時

一般(スタッフ)：10名(2名)

②18時～20時

内容：簡単デザインチラシ・画像作成講座

講師：岡秀和氏(おたがいさまプロジェクト/関学ボランティアセンター)

日時：9月13日

参加者：11名

①10時～12時

一般(スタッフ)：9名(2名)

②18時～20時

簡単フォームアンケート・申込ツール講座

講師：岡秀和氏(おたがいさまプロジェクト/関学ボランティアセンター)

日時：10月20日

参加者：12名

①10時～12時

一般(スタッフ)：10名(2名)

②18時～20時

クラウドファンディングのコツ講座

講師：奥田彩花氏・内藤千賀氏(コングラント(株))

日時：10月25日 スタッフ4名 事業の振り返り

第1回



第2回



第3回



3, 成果と課題

初心者の方でも無理なく取り組めるよう、対面で初歩の初歩からの講座としチラシに「超初心者歓迎」と書いたためそれを見て参加された方が多く、アンケートからも初心者の方の底上げに貢献することができたことがうかがえる回答が多かった。CANVAなどは参加者の年齢層が高かったため夜間開催の必要性が低かった。クラファン講座は夜間に10代20代の参加があった。

4, 今後の展望

企業にはDXが求められているが、市民活動団体も資金不足、人手不足という永遠の課題を少しでも解決するためにITツール活用を進め、自宅作業でのボランティアなども増やしていく必要がある。今回参加されたのは団体メンバーが多かったが、団体メンバーがITツールを使って負担軽減すると同時に新しいボランティアメンバーに教えることで、ツールを使って自宅などでも仕事の割り振りをして効率的に活動できることを期待したい。

『子供のプログラミング的思考と情報活用能力学習の支援活動』(予定) (プログラミングの学習会)

NPO 法人 神戸ロボットクラブ

1 事業が目指すところ

2020年、学校教育にプログラミング教育の導入が始まり、そのために小中学性にパソコンまたはタブレットを一人一台の支給している。しかし、すべての子供たちが容易に使いこなせるとは限らないし、反対にもっと進んだ教育を受けたいが、その教育機関が少なく、費用の面でも教育を受入れられない等の問題が発生している。当協会はそのような子供達に費用面、人的にも一人一人寄り添う教育を行うために、学習会を開き、少しでも置き去りや、興味のなくす子供たちをなくし、より理工学に興味を抱くようにしたい。

2 活動内容

神戸を中心に、姫路、西宮等でパソコンによるプログラミング学習会、ドローンや小型ロボットをプログラムで操作し、より実感のわく学習会



12月の夕方の学習風景



11月 神戸市内の小学校授業

3 成果や課題点

子供たちは、プログラミングが良くわかったもさることながら、学習会が楽しかったを主に、学習会の内容を検討しています。名前が徐々に知れ渡って学習者も増えてきていますが、固定的な学習所がなく、リピーターの定着とはいかず、また、パソコンやタブレットは学校の物は使用できないため、当協会でも都度取り揃えているため、各設定を都度おこなわなくてはならず、また、旧式の物で、大きく重たいものが多いため、支障をきたしている。

4 今後の展望、成果の活用

神戸市内の小学校にも授業の一環としておこなうようになり、当協会の信頼感が増して、今後公共での学習会を行うことが増え、固定的な学習場所の確保、必要機材の充実、講師陣の増員も見込まれるようになり、子供達に対する配慮も深めることにもなり、放課後の学童保護の一翼にもなっていけると思う一方、シニアの講師陣が増え、シニアの生きがい活動にも貢献できる。固定的な場所での『デジタルひろば』の開設も視野に入れたい。

以上

家庭が居づらい子ども・若者の居場所作りと支援体制作り

特定非営利活動法人ふおーらいふ

1. 事業の目的

家庭で居場所がなく、自分ではどうにもならない生きづらさを抱える子ども・若者（11歳～20歳）を対象に、安全に過ごせる居場所を作り、また、場合によって支援機関と連携を取り、子どもたちが信頼できる大人と出会い、安心して未来を考えられるような働きかけを行うことを目的とする。

2. 活動内容

毎週月曜日・木曜日の2日間 16:30～20:00 までの時間、自由に過ごせる場所を開放。また、電話・メール・LINE を用いた相談も受け付け、利用者・相談者の状況によってはスタッフが出向くアウトリーチ支援も行う。

【表① 2023年度居場所開所日数】

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 |
|------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|
| 開所日数 | 8 | 6 | 8 | 5 | 8 | 6 | 7 | 8 | 8 | 7 |



3. 成果と課題

2022年度より居場所を開設し、数は少ないものの関係機関を通じて、居場所の利用年度は当事者の知り合いの方から直接相談があるなど、少しずつ取り組みが広がっている。また、兵庫県内にある子ども・若者の居場所を運営している団体と連絡を取り、実際の取り組みや情報交換などを行った。

課題の面では、なかなか広報が難しく悩むところが多い。また、居場所の過ごし方の部分で、プログラムを設定していないため、「具体的なイメージができない」との声もあり、今後、大まかな枠組みとしてのプログラムを検討している。

4. 今後の展望

居場所の利用者に対して支援の実績を積み重ねいき、数年後には行政からの委託事業として行えるように働きかけを行いたいと考えている。また、この事業をモデル化し、多くの地域で同じような取り組みを普及させ、団体同士のネットワークを構築し、支援が途切れないような仕組みを作る。

働いている人・遠隔地の人のためのNPO等支援窓口 ―淡路島の間接支援―

特定非営利活動法人兵庫SPO支援センター

1. 事業が目指すところ

(課題となる地域情勢)

兵庫県下の間接支援窓口は都市部に集中し、少子高齢化等の課題を抱えている地域には不十分な状況。身近なところで地域がつながり、地域課題解決へとアプローチする中間支援機能が弱い。

(目的)

相談者の事情に合わせて相談に対応。

地域の身近なところで人がつながり、地域課題解決へ向けてサポートできるプラットフォームを創る。

2. 活動内容

① 淡路島等の遠隔地へ出張相談。相談者に合わせた日時での相談対応。36件(1月時点)

② 中・長期的な視点から、県下各地域の身近なところで中間支援的な役割を果たす「図書館」との連携を進める。

②-1 まちづくりネットワーク交流会開催。

同じ地域で活躍している方をゲストに迎え、参加者の気づきと交流を兼ねたパネルディスカッションを行っている。



●10月 第5回まちづくりネットワーク交流会(10月17日)

ゲスト：パルシェ香り 葉坂氏、魚井氏

ネオビエント 近藤氏、小川氏

参加者：25名



●1月 第6回まちづくりネットワーク交流会(1月13日)

ゲスト：淡路島出身の女性画家・増田薫氏

参加者：34名

②-2 パネルディスカッション「図書館×まちづくり」

●2月 テーマ：社会課題解決と図書館の役割(2月12日)

地域課題解決のプラットフォームの可能性を秘めた「図書館」の役割について子午線上にある図書館(西脇市・明石市・淡路島3市)と大学図書館(加東市・兵庫教育大学)館長及び岡本真氏(図書館コンサルタント)等によるパネルディスカッションを開催。

3. 成果・課題 地域の人をつなぐを強化

中間支援のノウハウを持った当団体と図書館が連携しながら、地域に根差し、地域に即した人をつなぐを創った。社会的事業が一般化する中で、相談対応だけでは不十分。

4. 今後の展望 成果の活用

地域に定着した図書館及び洲本商工会議所との連携も進めていく。

不登校及び困窮児童生徒家族の居場所づくりと支援会議の設置

特定非営利活動法人兵庫SPO支援センター

1. 事業が目指すところ

(課題となる地域情勢)

自殺率が県下で最も高い淡路島。洲本市の小中学校では不登校も多く、1クラスに必ず数人が不登校という現状がある。また児童扶養手当を受給している家庭は328世帯、それに就学援助受給世帯を加えると541世帯に上る。孤立と貧困状態が広がっている。

そのような中で当事者は日々の生活に追われ、思いを共有できる場がない。

(目的)

それぞれの思いが共有できる「居場所」を定期的につくることを目的にする。

2. 活動内容

① 居場所をつくる

- 高校生・教育大学生が小学生の夏休みの宿題をサポート (8月10日・24日)

参加者：6名

- 子どもの学習支援 保護者交流会・相談会 (9月10日・

10月7日・11月11日・12月23日)

子ども支援機関の担当者が来所

- 野外イベント開催 (1月20日)

「ジャズコンサート&瓦割イベント」

参加者：瓦割23名 ジャズコンサート：約50名

② 子ども支援会議の設置に向けて

- セミナー開催 (11月18日 14時～16時)

地域協働型子ども包括支援の実践報告

～早期から切れ目のない支援を目指して～

市教育委員会担当者他参加参加者：14名

3. 成果・課題

子どもの孤立解決のために「居場所づくり」という方向性があることを地域にある程度、浸透させることができた。

しかし、市教育委員会の後援と協力をいただきながらも、小中学校との連携には至らなかった。学校現場へのアプローチの難しさを実感した。

4. 今後の展望 成果の活用

今年度の取り組みを通じて、数回にわたり神戸新聞や産経新聞に記事で取り上げていただいた。2月からの「子ども第三の居場所」開設を通じて、口コミを通じた浸透を図っていききたい。



H Group



| 団体名・企業名・学校名 | 事業名(助成団体のみ) |
|----------------------|-----------------------------------|
| (特非)ひょうごセルフヘルプ支援センター | セルフヘルプグループオンライン体験型セミナー: 当事者の声を聴こう |
| (特非)健康・生きがい就労ラボ | 高齢者向け生活に役立つスマホ操作技術普及事業 |
| 猫のミーナ | 猫の譲渡会と野良猫のTNR |
| (特非)あしやNPOセンター | 「Just! do it!」応援します。あなたの活動を夢から実現へ |
| (特非)いながわリンク | 地域活動エンパワーメント事業(2年目) |
| (特非)神戸の冬を支える会 | 生活困窮、困難者への緊急支援とその支援ネットワーク構築事業 |

セルフヘルプグループオンライン体験型セミナー：当事者の声を聴こう

特定非営利法人ひょうごセルフヘルプ支援センター

1. 事業がめざすところ

- ・社会のマージナルな場に追いやられがちで福祉当事者はコロナ禍の中で一層、つながりが欠如し、孤立しがちになっているために福祉当事者をつないで孤立を防ぐ。
- ・既に現在、孤立してしまっている人たちに SHG を広報して仲間とつないで孤立からの解放を図る。
- ・SHG のメンバー同士、ならびにグループ同士のネットワークを構築する。
- ・SHG 活動を広報して活性化を図ると共にメンバーのエンパワメントを図る。
- ・一般市民を対象として、福祉当事者の抱える生活困難について体験談を通して広く伝え、理解を深め分かり合える機会とする。

2. 活動内容

兵庫県内 3ヶ所を基盤として選択し、セルフヘルプ体験型セミナーを開催した。

第 1 部 全体会で福祉当事者の SHG 体験談発表

第 2 部 2つの分科会に分かれてさらに質疑応答によって理解を深め、広める会

第 1 回セミナーの様子



第 1 回：三田市

日時 2023 年 9 月 15 日（金） 14:30～17:00

発表団体 NPO 法人ぼしぶる（身体に障害のある人たちのグループ）

脳卒中友の会

三田市社会福祉協議会

参加者数 オンライン 22 名 会場 17 名

協力 兵庫県社会福祉協議会 三田市社会福祉協議会

第 2 回活動報告

丹波篠山心の居場所 活動風景



第 2 回：オンライン開催

日時 2023 年 11 月 17 日（金） 14:30～17:00

発表団体 丹波篠山心の居場所

ツインラビット

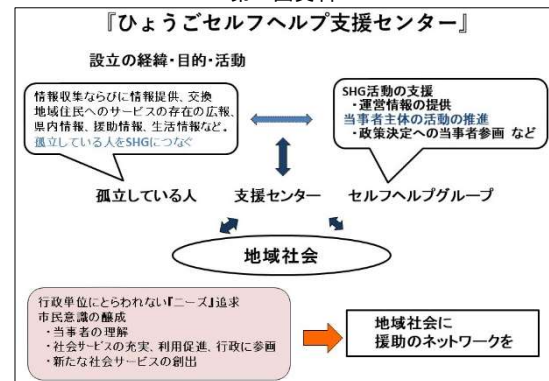
稲美町社会福祉協議会

参加者数 25 名

協力 兵庫県社会福祉協議会 丹波篠山市社会福祉協議会

たつの市社会福祉協議会 稲美町社会福祉協議会

第 3 回資料



3. 成果や課題点

三田市と宝塚市ではオンライン中心としてハイブリッドで開催したが、丹波篠山ではオンラインのみとなった。兵庫県内を中心として神奈川県など遠方からの参加も得ることができた。また、他の市社協からの参加も見られ、地域共生社会を目指す社会福祉協議会の方々の日々の活動にセルフヘルプが浸透しつつあることがうかがえた。さまざまな方々に SHG のもつちから、生活課題を保有する人のちからに気づき、共に支えあえる市民としての位置づけも得られたものとする。そうであるなら、今後は当セルフヘルプ支援センターも協働することによって、一層活発に活動を進展していけるものと考えられる。当センターのオンラインによる発信能力はまだまだ、未熟であり、今後は当センタースタッフ全員のオンライン研修が必要である。第 3 回のセミナーは能登半島地震のために県社協から派遣される人材について変更があったが、無事に滞りなく開催できたことは私たちの自信につながった。

4. 今後の展望

まず、インターネット技術力を有するスタッフを育成する。さらに、ホームページを充実させることによって広報のちからを高め、交流の場、情報発信の場として SHG を周知し、孤立を予防したい。また、市町村域の社会福祉協議会と協働する頻度を増やすことが肝要である。

事業名：高齢者向け生活に役立つスマホ操作技術普及事業

(特非) 健康・生きがい就労ラボ

1. 事業が目指すところ

一昨年発足したデジタル庁が国や地方公共団体、民間事業者などと連携して社会のデジタル化を推進する取組を牽引しているなかで、我々メンバーがデジタル推進委員に任命（現在 24 名）され活動を通してデジタル格差を少しでも改善できるよう期待される。その実現のため自治体と連携して高齢者にスマホを教える仕組みづくりの根底となる教材の整備とスマホ・サポーター養成講座を実施する。

2. 活動内容

1) シニア向けスマホ講座の教材整備（標準化）

＊教材の標準化整備作業の実施（過去のパワポの見直し）

8月6日、13日、20日、9月3日、10日、12月21日
内容の確認、不要箇所の選別、編集、デザイン統一

2) スマホ・サポーター養成講座の実施

＊川西市：於）キセラ川西プラザ（川西市社会福祉協議会）

1月15日、22日、29日に開催（13：30－15：30）
参加人数：受講生 14名 講師・チューター 8名

＊伊丹市：於）伊丹市立中央公民館（スワンホール）

1月20日、27日、2月10日に開催（9：30－11：30）
参加人数：受講生 17名 講師・チューター 8名

3. 成果や課題点

1) シニア向けスマホ講座の教材整備（標準化）

これまでの3年間に作成した各講師が講座に使った資料を見直し、1章から9章に区分した37編のパワーポイントのデータをGoogle Driveで管理することにした。今後各講座担当の講師が都度取り出して使用できるようにして準備の簡素化を行い、変更が生じた場合は、都度修正をすることにした。

2) スマホ・サポーター養成講座の実施

川西市では14名、伊丹市では17名のスマホ・サポーターを目指した方が参加。講師から今までの講座の経験談を含めて高齢者向けの講座のポイントを資料と各自のスマホで体験していただいた。

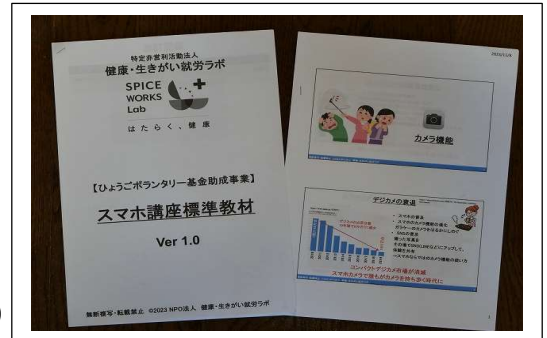
4. 今後の展望・成果の活用

1) シニア向けスマホ講座の教材準備の迅速化

3年間の経験・ノウハウの蓄積による講座資料が整備（標準化）され、いつでも・どこでも使用できるようになったことにより、今後の講座では講師によらず講座の質が担保され、資料作成の効率化が可能になる。

2) スマホ・サポーター養成講座の実施

今回参加された2市の受講者により各地元での高齢者スマホ講座の展開が期待される。我々は今回実施できなかった自治体でも、地域のニーズを探りながらスマホ・サポーター養成講座を実施し、各地のDX化に貢献する。



教材の整備の完成



ここおるでの教材整備作業



キセラ川西プラザでの講座風景



伊丹市中央公民館での講座風景

『猫の譲渡会と野良猫のTNR』

ボランティア団体 猫のミーナ

1. 事業の目的

殺処分される猫の数を減らすために、保健所や行政に持ち込まれた猫を保護して、育て、そして新しい家族を探しています。



子猫の姉妹

4. 今後の展望

TNRを進めていく事によって、野良猫が減り、ゴミを荒らしたり、糞や尿の環境汚染が減り、地域の美化へと繋がります。猫は家庭での癒し効果や、家族の幸せに繋がります。その癒しの効果をどんどん広げて行き、命というものの大切さを子供たちに教えたい。

また、猫の虐待は人への犯罪に進むと思われるので、法律を変えたいと望みます。

幸せになった猫と人の様子



また、猫と繋がる事で人間の社会にも通じ、家庭の問題に携わる事もあり、役に立てることがあればと思いました。

一般の方が猫を拾った場合、里親探しに譲渡会の参加も出来るように協力したいとも思ったからです。



3. 成果と課題

猫が家族になって、家族に幸せが来たとも言われたり、会話も増えたりしたとの声を頂きます。

また、高齢者のペット問題があります。施設に入ったり、亡くなったり、猫が残され、ケアマネージャーから引き取り依頼が入る事があります。

新しい飼い主を見つける事も有りますが、今後の高齢化社会の大きな問題であるかと思えます。

もしも引き取られなかった猫や犬たちは、県や市のセンターに持ち入れ、税金を使って殺処分されることとなります。



譲渡会の様子

2. 活動内容

毎月第2日曜に神戸三宮で譲渡会を開催しています。

臨時でも開催して、1年間に18回くらいを行っています。

年間、譲渡会では100匹以上の猫の里親が決まっています。

神戸市での依頼を受けて、市民からの情報が入ると、野良猫の捕獲をしています。

TNRといい、

捕獲して、手術して、耳カットをし、地域猫として見守り、野良猫を増やさない為に行っています。

捕獲された猫の様子



Just! do it



(特活) あしやNPOセンター

応援します。あなたの活動を夢から実現へ。

■事業が目指すところ

「活動人口 100%のまち」を目指した市民活動やC B (コミュニティ) を推進
地域課題解決に繋がる市民活動やC B を希望している個人・団体の、最初の一步を応援し、不安を解消、
プランを実現化する仕組みをつくるには、中間支援事業としてトータルサポートが望ましい。

→ 実践的支援プログラム「Just! do it」事業を中間支援事業で行う。

■活動・支援の内容 (令和5年度「Just! Do it」事業支援先)

①花と緑があふれる街 Ashiya プロジェクト / 中村 真也

令和4年10月～令和5年9月

花づくりによる街づくりの活動。法人化を実現し、活動範囲を広げている。



②コミュニティほけん室

／おしゃべりカフェにっち・定藤 登紀子

令和4年10月～令和5年9月

健康に役立つセミナーと健康食を提供する独自の
「ほけん室」スタイルの周知が進む。

③ととのうラボ Ashiya / 産前産後ママのためのととのうサポート・

松井ゆりか 金子ふみえ 令和5年10月～

ワンオペ育児の経験からママの居場所を作りたい。

その一步はランチパーティーから。



■成果 中間支援業務における活動支援 (相談、場所提供、チラシ作成、広報支援)

1. 相談業務…地域課題解決に繋がる市民活動やC B に関する相談者を対象とした。
2. ネットワークの構築、情報提供…あしや市民活動センター登録団体加入サポート、同様の分野における活動実績団体や行政へつないだ。
3. 人材育成 (講座の開設等) …CBゼミナールやチラシ作成・広報セミナー、プレゼンセミナーへの受講推奨 CB プレゼンテーション大会へのエントリー推奨
4. 書類作成指導…団体設立に係る会則、事業計画・活動予算の作成支援、助成金申請書作成支援
「Just! Do it」事業を中間支援業務でサポートすることで、相談から実践的支援へ一連の繋がりを待ったトータルサポートが可能となった。

■今後の展望、成果の活用

相談事業による相談者とのファーストコンタクトの機会を大事にし、各種セミナーへの参加や団体との繋がり機会を創出し、活動への不安を軽減させ、一步を後押しする体制が整ってきている。自立に向けたトータルサポートを確立していく。



つくる、つなぐ、つどう、まちコミュニティ。

NPO法人 いながわリンク

■参画協働 ■交流促進 ■情報収集・提供 ■相談支援 ■運営管理

それぞれの「できる」を持ち寄りながら、たくさんの人と一緒にまちのことをかんがえて楽しみたい。そんな気持ちで、既存団体の活動相談や新規団体の立上げなども含め、住民同士は勿論、行政や事業者などとも繋いで支援できるような取組が行えるよう、2021年末にNPO法人を取得しました。住民のシビックプライド(地域への関心や愛着・活動意欲など)を育み関係性を築くこと、またその結果として地域の活性に寄与することを目的として、個人や団体・事業者・行政間の参画と協働をもって地域や世代の交流に関する活動を行なっています。

①相談業務→認知度とともに相談件数昨年比130%

- *つながり～いな☆カフェ 5回開催(5月/7月/9月/11月/1月)
- *つながり～いな☆カフェzoom 6回開催(4月/6月/8月/10月/12月/2月(予定))
- 町内に建設された物流施設のカフェスペース利用とオンラインを併用して定期的開催
- *ちょこっと相談会→③のリンクマルシェキャラバン内で開催



②情報収集・提供→提供ネットワークの整理と再構築

- メール/YouTube/ブログ/Facebook/Instagram/Twitter/ホームページ
- (世代別に普段使っている様々な媒体に合わせられるよう工夫)



③人材育成の取組→2年目強化項目

- *イベント活動チャレンジ→「リンクマルシェキャラバン」
- ・イオンモール猪名川 (8回: 4月/6月/7月/8月/9月/10月/11月/2月(予定))
- *オープン研修・勉強会 (4回: SDGs/防災/広報/話し方)
- *学生ボランティア4名→新規: 高校生2名、大学生1名



④書類作成指導業務→個人や団体に訪問や①の場で随時対応

- ・NPO大学(12月/1月)/協力サポート、動画編集
- ・各種印刷物(チラシやパンフレット)の企画や制作サポート



⑤その他(NPOに係る調査研究など)

- *地域の活動団体取組調査→YouTube「いながわリンクAIR RADIO/のぞいてみるみる」取材、編集、配信
- *地域の中での課題研究(アンケートなど)
- ・大学生と猪名川町について考えよう(8月/10月/11月)
- ・「二十歳のつどい」式典参加者アンケート(2024年1月)
- *地域で活動する人や団体の活躍や交流の場づくり
- ・wacca©wacca(5回: 4月/6月/7月/9月/10月)まちづくり協議会館
- ・下記⑥のイベント多数開催



⑥協働・連携

- ・【主催】竹キャンドルナイト(6月)猪名川町総合公園 | 子ども食堂、まちづくり協議会
- ・【協力】大野山CLEANDAY(3月/7月/11月)大野アルプスランド | 柏原森林組合
- ・【協力】いながわ星まつり(9月)大野アルプスランド | 猪名川町天文台運営委員会
- ・【連携】総合計画住民ワークショップ参画(11月/12月/1月/2月(予定)) | 猪名川住民力向上委員会
- ・【協力】いながわ星旅(12月3週連続)日生中央駅前広場、元宿泊施設、大野アルプスランド | 猪名川町観光協会
- ・【連携】祝・二十歳のつどい(1月)猪名川町文化体育館 | 二十歳のつどい実行委員会

成果・課題・展望▶認知度が高まり活動メンバーの年齢層、相談件数、協働・連携先も増加し広がる一方で、業務や情報の整理が必要に。あらためての意思共有や事業内容のアップデートを常に意識して、次のステップへと歩みを進めたいです。

生活困窮、困難者への緊急支援とその支援ネットワーク構築事業

NPO法人 神戸の冬を支える会

1, 事業の目的、趣旨

収入も所持金のなくその日の食事にも事欠く状態であったり、ホームレス状態に追いやられている方に対して、安心して暮らせる住居の確保と食事や生活必需品等の提供などの緊急的支援を行うとともに、そのような方を地域社会全体でサポートしていく支援体制を具体的な支援活動を通じて構築していくことをめざす。

2, 事業の方法

(1) 緊急支援の実施

・住居を失っていた方が住居確保し生活再建するにあたっての緊急支援

食料品、寝具。日用生活用品、衣類等の提供または貸付

・生活に困窮して生活費が無くなるなどしている方への緊急支援

食料品、寝具。日用生活用品、衣類等の提供または貸付

・そのような状況になった原因や背景などを理解し、各種支援制度利用へのつなぐ取り組みとフォローアップの実施

(2) 支援ネットワークの構築の取り組み

・支援の取り組みを通じて関わった各種団体やメンバーとは、取り組み内容について振り返りを行うなどして、問題の共有化を図り、つながりを強化する。個別の事例を通じてつながりを作り、地域の課題として、生活困窮の問題を考えて行ってもらう環境を作り、支援のネットワークを構築していく。



3, 成果と今後の課題 —活動を通じた地域の支援力の構築—



住居を失った方の生活再建に当たって住居確保に合わせて寝具の提供および日常生活用品・当面の食料品の提供を行った。

支援の実施を通してつながりを持った関係機関との関係強化も実現しており、支援を1回限りのものとし、地域の「支援力」の強化、ソーシャルインクルージョンの具体化に向けた取り組みにつないでいきたい。

Group



| 団体名・企業名・学校名 | 事業名(助成団体のみ) |
|-------------------|--|
| (特非)TEAM・あげあげ | 合言葉は「地域での繋がり」 |
| (特非)あしやNPOセンター | 共生のまちへ「灯籠で街を彩る」 |
| (特非)場とつながりの研究センター | NPOや地縁団体の事務力アップ支援事業 「在住外国人の孤立を防ぎ、仲間づくりができる場づくりプロジェクト」 |
| (特非)夢の森伴走者CUE | 特別養護老人センターを舞台とした「世代間交流カフェ」運営事業 |
| (特非)Goodstock | 「知る」「見る」「過ごす」龍野暮らしのプロジェクト |
| (特非)健康・生きがい就労ラボ | 高齢者の健康づくり就労(ショートワーク等)のネットワークづくり及び浸透拡大事業 |

事業名：合言葉は「地域での繋がり」

特定非営利活動法人TEAM・あげあげ

1 事業が目指すところ

現在兵庫県の東播磨地域で問題となっている4つの項目（地域の高齢化・地域の共生・地域防災・地域コミュニティの再生）について包括的な活動を行うことで「安心して暮らせる地域づくり」を目的とする。

令和4年（2022年）3月末に発足したNPOの行動によって具体化することで昨今の少子高齢化、地域コミュニティの衰退による「地域力の減退」からの回復を目指す。

今年度は明石市のユースによる自主防災グループ TEAM-3A（チームトリプルユース）を法人傘下に置き、同時に加古川、高砂両市においても高砂高校・兵庫大学との連携により次代の地域づくりの育成に取り組んでいる。

2 活動



9月20日(金)KOBE ぼうさい委員会

TEAM-3A が参加している神戸市内の学生グループで地域防災のプレゼンを実施。



10月22日(日)講演会「笑顔の輪を広げよう」

加古川市内の高齢者施設で交流イベントを実施。介護士の資格を持つメンバーがゲームで利用者の方楽しんでいただいた。



第5回合同連絡会議

明石市役所・社会福祉協議会・コープこうべ第6本部との合同会議にTEAM-3A が参加。

◎「令和5年度ぼうさい甲子園」特別支援学校・団体部門において第3位（奨励賞）を受賞!!



12月20日(水)神戸新聞朝刊



12月23日ぼうさい甲子園表彰式

3 事業の成果及び課題

法人としてスタートして2年目。少しずつではあるがグループの進むべき道が見えてきた。昨年度出生数が80万人を割り込み人口減少が話題になったが、今年はさらに減少する見通しである。さらに元日に発生した令和6年能登半島地震でも地域の高齢化が被害の拡大に繋がっていることが問題視されている。その点からも、地域づくりに取り組む若い世代の育成という目的が明確になり一歩を踏み出したことは大きな成果と言える。

4 今後の展望

明石市で1年前に発足した高校生中心のグループが2年前に学生・社会人を含むユース世代のチームとなった。この存在は明石市内で話題になり少しずつ浸透している。同じような活動を周辺市・町にも広げていきたい。

◎当法人及びTEAM-3Aの活動内容については昨秋立ち上げたホームページで紹介しています。

URL <https://www.teamageage.com> 「地域で繋がる 特定非営利活動法人TEAM/あげあげ」

1. 事業が目指すところ

左官職人と中高生が中心となった実行委員会による「灯籠まつり」の開催！

- ・誰もが楽しめる、手作りイベントで街を盛り上げる。
- ・学生が運営することによる多様な世代や団体のつながりと共感を生みだす街づくり

2. 活動内容

実行委員会結成～灯籠まつりの開催

メンバー：芦屋市内中高生、左官職人、あしや子ども笑顔ネット、
芦屋映像倶楽部、あしやNPOセンター、芦屋東ライオンズクラブ

- ①実行委員会を7回開催：5/27(土)、6/17(土)、7/15(土)、8/21(月)、9/10(日)、11/6(月)、12/26(火)

灯籠まつりのコンセプトづくり（1.17を忘れない）、開催時期、開催場所、広報方法、ボランティア募集、スポンサー（協賛先）の開拓、当日までのスケジュール、当日のプログラムなど話し合っ決めていった。



- ②協賛先へのプレゼンテーション：11/22(水) 芦屋東ライオンズクラブへのプレゼンテーションを行った。



②プレゼンの様子

- ③土灯籠づくり：12/17(日) 本番で使用する土灯籠を左官職人の指導を受けた学生実行委員会メンバーが一般公募で参加した市民に教えながら制作した。



活動様子の動画



③灯籠づくり

3. 成果点

- ・1.17を経験していない学生が防災をテーマに、月1、2回の会議を持ち、多様な団体との交渉や協賛先へのプレゼンやラジオ告知を行うなどの貴重な経験を、「楽しかった」と笑顔で話してくれたことが印象深いものとなった。
- ・企画を積み上げていく過程で、学生たちの成長を感じることができた。若者育成としての中間支援の使命のように感じた。



④灯籠まつり当日

4. 今後の展望、成果の活用

学生の考える力、実行する力がつき、多世代とのつながり、行政との協働ができたことで、視野が広がり、今後はバージョンアップした企画運営が期待できる。学生が学校では体験できないことを学ぶ場が、学校側の理解と協力が浸透しつつある。多世代と対等に考え、協働することの経験は将来、積極的に市民活動に関わる社会人になっていくことを期待したいと思う。



中間支援事業の現状と本助成金を受けての展開について

1. 今年度の相談支援体制

- (1)日 時 完全予約制。広報は、主にメールニュースと、ホームページ、フェイスブック、口コミで。
- (2)場 所 ほんまち事務所(三田市三田町 29-14 旧ヨネダ洋品店内)ほか、相談に応じて出張対応も
- (3)支援員 大島 一晃(理事・事務局長)、佐藤 等史(理事)、地域住民のプロボノによる支援(1名)
- (4)相談支援メニュー
 - ・法人設立のアドバイス、認定 NPO 法人取得支援、助成金申請のための書類チェック・アドバイス
 - ・事業計画・報告書作成支援・実務支援(労務・登記・経理)
 - ・「意欲する人」のゆるやかなネットワークづくり支援(交流研修会、子ども支援団体連絡会など)
 - ・NPO 関連制度や事例、助成金情報、人材紹介等の情報提供および企画相談・広報の相談支援
 - ・法人の継続的発展に向けた組織体制強化のための支援
 - ・キャリアコンサルタント資格保有者による、NPO ではたらく人のキャリア支援
 - ・地域の居場所づくり/地域の子どもを地域住民で支える仕組みづくりへの支援
 - 居場所づくり・サードプレイス立ち上げ希望者への相談支援、
 - 学習支援や子ども食堂の立ち上げを希望者への相談支援～裏六甲子どもの居場所ネットワーク
- (5)相談料 1回 2000円(約1時間。初回無料)→本事業助成金を活用し、相談料を1000円に

2. 講座

| テーマ | 日時 | 場所 | 講師 | チラシ |
|--|-----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|---|
| ①無料デザインツール CANVA ではじめる、ワンランク上のチラシ作り講座 | 2023年 7月17日(月祝) 18:30-20:15 | 三田市まちづくり協働センター 参加者 11名 | 足立龍彦さん (場づくりカレッジ エスケープ) |  |
| ②市民活動団体のための交流研修会「活動の魅力を伝える“ことば”を考えるコツ」 | 2024年 2月5日(月) 10:30-12:30 | 三田市まちづくり協働センター | 千馬雅史さん (A-dos シニア コンサルタント) |  |

【事業名】 在住外国人の孤立を防ぎ、仲間づくりができる場づくりプロジェクト

【実施団体】 特定非営利活動法人場とつながりの研究センター（三田市）

●事業概要

《北神日本語教室》

毎週水曜日 18:30～20:00 @ 神戸市北神区文化センター会議室

《日本語ボランティアブラッシュアップ養成講座》

2023年11月29日(水)18:30～20:30

@ 神戸市北神区文化センター会議室

講師:土井 佳彦氏(NPO 法人多文化共生リソースセンター東海代表理事)

《外部研修》 神戸市内を中心に行われる勉強会に参加

●事業目的

縁があってこの地域に居住した在住外国人と日本人が「生活に必要な日本語習得」という目的に加え、お互いのことをしり学びあい、人として育ちあうことを目的に実施。また日本語ボランティアブラッシュアップ講座は、教室同士横の連携を目的に行った。

外部研修にも参加を促し、新たな知識習得も行えるようにしている。

●事業実施した感想

コロナが落ち着き、外国人参加者の増加も窺えた。一人ひとり、生活日本語を習得する目的は違う。地域日本語教室は、参加者の要望にオーダーメイドで対応する場でもある。日本語ボランティアには苦勞を掛ける反面、外国人参加者の期待に応えるため、また、個々におかれる立場の状況に寄り添っているのも良い点と思われる。

日本語ボランティアブラッシュアップ講座は、県内57教室に案内。ボランティア同士だからこそわかる活動の共有や知恵の出しあい、またそれを各教室活動に活かしてもらえればと思い実施した。しかし、夜の講座であったという点から今回は、参加者が少なかったことが反省点である。

外部研修は、仕事をしながらボランティアに参加している人が多く、日中に行われる外部研修には参加が難しい状況が見受けられた。この点も今後見直す必要があると思われる。



特別養護老人ホームを舞台とした 「世代間交流カフェ」事業

今の社会には様々な要因で、「孤独を感じる若い世代」がいます。
福祉×地域NPO法人が連携し、地域の方々との「つながり」と「ぬくもり」が
感じられる助け合いの地域拠点を、10代～20代で運営しています。



私たちが目指すこと

ここは、人と人がつながる場所。
各テーブルに置いてあるノートにはお客様
や店員のメッセージが描かれており、cafe
に関わる人がノートを通してつながる仕組
みです。「ご縁のむすびなおし掲示板」に
は地域の困りごとを掲載しており解決でき
る人や団体とのマッチングをしています。



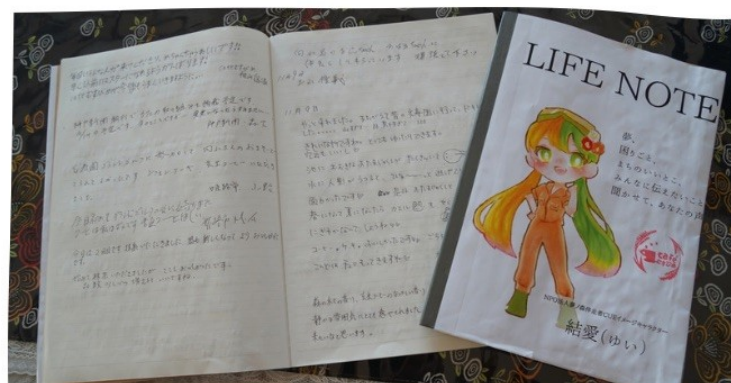
活動内容

7月には老人ホーム「光寿園」にてcafeむ
すびめで提供する商品の試飲会を光寿園利
用者や職員に向けて実施しました。
8月からプレオープンし、今は毎週木曜日
と月2回土曜日の開業をしています。
波賀軽トラ市ではcafeむすびめが出張して
見習い抹茶を提供しました。



活動の成果

私たちは活動を通して、地域の方々へ私た
ちの活動についての認知度向上や会員数の
増加へとつながっています。
各テーブルに設置しているノートには「こ
れから一緒に頑張っていこう!」「活動を
応援しています!」といった温かいメッセ
ージに溢れています。



今後の展望

今年度の目標は、「地域拠点の第一歩目となる形づくり」でした。来年度からは、「若い世代がやりたいことを地域で応援し地域の困りごとは世代を超えて助け合うための地域拠点」を目指して若者による創作イベント実施や困りごとマッチング掲示板「ご縁のむすびなおし」強化を行います。

「知る」「見る」「過ごす」 龍野暮らしプロジェクト

特定非営利活動法人 Goodstock

移住の悲劇... 移住希望者と移住先の地域住民との人間関係や、距離感のミスマッチによるトラブルが起き、移住そのものが破綻してしまう事例が報告されている。

移住者がその地域への移住を決めるよりも前、検討する段階から地域住民と接触し、お互いが「人となり」を把握しあって良好な人間関係を築くことによってある程度避けられるのではないかと、移住してもらうことをゴールにするのではなく、移住前と移住後、両方のアプローチから地域を好きになる・愛着を持てる仕組みを構築し、当団体が地域と移住希望者の間の橋渡しをする役割を担うことができないか検討する。



今年度は揖西町、平野田園部と龍野城下町、重要伝統的建造物保存地区の2拠点でお試し移住体験のモニターを受け入れる準備を進めた

たつの市は4つのエリアに分けることができる。協力者と共に、市内つのエリアそれぞれにお試し移住拠点を整備していく。各拠点をサーキットすることで、それぞれの特徴と特質、風土や歴史、まとう空気を肌感覚しながら、来訪者に土地土地の人やローカル文化に出会ってもらい、その魅力にハマるきっかけ作りができるのではないかと。

将来的には4拠点構想

活動：

【お試し移住拠点準備・モニター体験宿泊】

空き家所有者を通じた自治会長をはじめとする地域の方との交流、地域の行事への参加や、その地域に残るユニークな出自の音頭についての聞き取り調査など、関係を深める。2泊3日以上以上の滞在を想定して必要なものをピックアップ、2拠点それぞれの受け入れ体制を整えた。

【Goodstock Market】

団体の特徴を活かして、空き家から出てきた食器をきっかけに、古い食器や家具雑貨などを「次の人へ」渡すフリマイベントを開催。

空き家・移住相談のポップアップ窓口を設置し、移住モニター候補を獲得した。龍野町にて7回、揖西町にて1回開催。

成果や課題点：

平野・田園部の揖西町の拠点はいわば村であり、当初は早い段階から外部の人間を呼んで、「同じ釜の飯を食う」イベントを検討していたが、

実際に準備を進めていくと、コミュニティに馴染み良好な関係で取り組みを進めるために想定より時間をかけて慎重に準備を進めていく必要を感じ、食のイベントではなく、まず我々を知ってもらうために、いつものフリマを出張開催した。結果、地元の方からたくさんの食器をいただいた。龍野町の拠点は2月から2ヶ月間のお試し移住モニターが始まる。また、マーケットなど企画するイベントに、移住検討会や移住したての若者が参加し、地域の方と自然なつながりの持てる場となった。



1. 事業が目指すところ

旅館・ホテル業界、メンテナンス・設備・検査や保育、介護、飲食などの業界では、人手不足が年々顕著になり、就業者不足が原因となって廃業するケースまでも見られるようになってきた。そのため、雇用延長や再雇用などを導入する企業は増加の傾向にあり、シニア世代の就労ニーズも上昇機運にある。しかし、企業と就労者のニーズのミスマッチは少なからず起っており、就労が一旦途切れた場合、次の就労ステップに進めず、目標を見失ってしまうシニアも多い。

就労には、役割を担い、経済的に評価され、人と繋がり、生活リズムを作り、頭や体を使うことで健康・生きがいを維持する効果があり、無理ない範囲で働くことは介護予防にも大きな効果があることが判っている。

年齢とともに生活就労から生きがい就労へ移行し、いきいきと輝くシニア、今までにない職種・職業など多彩に広がるシニアの就労モデルを示し、生活不活発気味のシニアに就労意欲を創起していただくことを行なう。100年時代と長くなった人生で、生きがい就労にチャレンジすることを後押しすることを事業目的としている。

2. 活動内容

1. 生きがい就労ワーカーを取材し、生きがい就労図鑑を作成・改訂していく

（生きがい就労記録メモを付加）ほか、図鑑サイトを設け、広く閲覧できるようにする。取材風景→



2. “大人の学び直し塾” 川西市アステ市民プラザで2月1日（木）、8日（木）、15日（木）実施予定

チラシ→

※学び直し塾は、当初予定していたみつなかホールのお会場で都合により、延期。会場変更。

3. 成果や課題

130名を超えるシニアと、その就労先に取材を行なった。

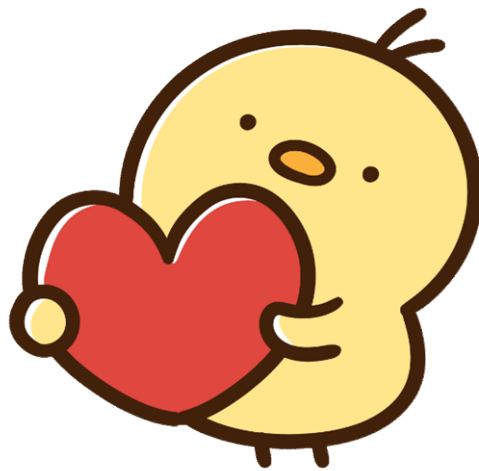
その取材の中では、いきいきと就労しているシニアと受け入れ先がある一方で、受け入れられていないと訴えるシニアと、思いのほかパフォーマンスが上がらない、コミュニケーション能力に問題があると嘆く就労先もあった。そのリアルに触れたことで、いきいきと働いているシニアの傾向、そうでないシニアの傾向を明確にすることができた。また、就労を受け入れる側にも、シニアの特性への無理解や就労環境不備等も見られた。その課題を解決するシニア向け“学び直し（学びほぐしを含む）”等の橋渡しする存在や機会が少ないことも見えてきた。

4. 今後の展望・成果の活用

今後、生活就労から生きがい就労への橋渡しとして“学び直し塾”を定期的に行なうだけでなく、少し長期的な視点での講座を検討し、この講座を受けたシニアは、自信を持って第2・第3の就労先に移行してもらいたい。また、企業に対しても、なぜシニアの就労を積極的に採用しないのかをアンケートし、これまでの健康・生きがい就労トライアル事業で介護・保育分野にて行なってきたように（有資格、無資格別）仕事の切り出しや、働き方を提案していきたい。

さらに地域で行っている善意の無償仕事（植栽の手入れ、ガイドヘルパーなど）を小仕事として有償化するシステムの検討も行ない、就労シニアの年齢の幅を広げ、シニアが若い世代を支えるのが当たり前となる社会の仕組み作りの一助となるよう活動する予定である。

J Group



| 団体名・企業名・学校名 | 事業名(助成団体のみ) |
|---------------------|--|
| 食親同好会 | ローカルパートナーシップ活性化による地域QOL向上事業 |
| 猫のミーナ | 猫の譲渡会と野良猫のTNR |
| (認定)ソーシャルデザインセンター淡路 | SODA地域応援事業2023 淡路島と神戸と結ぶ新たな拠点づくり |
| (特非)いながわりリンク | 地域活動エンパワーメント事業(2年目) |
| (特非)One by one | 協働のまちづくり防災学習 |
| しんぐうNext | 『Next Seeds プロジェクト』しんぐう 未来研究室～協働・共創社会の実現と新たなまちのカタチから未来を想像する～ しんぐう☆まちあそび2023【～まちが人を育む、人がまちを育む『まち育プロジェクト』～】 |



1. 事業が目指すところ

- 1) 課題(地域QOL向上)に対し、①食縁交流会活動 ②環境美化活動 ③多世代異文化交流活動の3大活動を軸に社会貢献活動の展開を通して、地域のつながりづくりを目指しています。
- 2) 地域QOL(主観的健康)の向上を達成するために地域の絆(相互扶助)を深めることが最も大切です。つまり、地域資源としてのローカルパートナーシップを活性化し、橋渡し型で誰もが平等に参画し、有機的につながる地域をプロデュースすること(他団体との協働)が重要だと思います。
- 3) 持続可能性を追求する意味でも、調査研究で可能性を探索し、ローカルパートナーシップを活性化して団体間のネットワーク組織化を推進します。狙いは、誰もがやらない魂のぶつかり合いによる「ほんまもん」の実践です。

2. 活動内容

| 年月 | 活動内容 | 年月 | 活動内容 |
|---------|--|---------|---|
| 2023/4 | 食養生クッキング(食生活改善対策) | 2023/7 | 親子向ワークショップ1(生物多様性のお話し他) |
| 2023/10 | 医食同源をベースに免疫力アップ達成 | 2023/11 | 同ワークショップ2(家族参画のパンづくり) →東灘図書館と協働 |
| 2023/5 | 栄養療法クッキング(生活習慣病予防対策) | 2023/5 | サブディイベント(東灘区の環境美化対策) →東灘区内のボランティア団体と協働 |
| 2023/7 | →甲南女子大学と協働 | | |
| 2023/6 | フレイル予防クッキング(機能性予防対策) | 2023/9 | 東灘クリーンサミット:東灘区美化団体と 神戸市環境局との情報共有化を推進 |
| 2023/8 | 次世代(女子大生)レシピ活用多世代交流 | | |
| 2023/11 | →神戸松蔭女子学院大学と協働 | 2023/10 | 食育と環境イベント:食育講演と環境美化をアピール 神戸市東灘区・灘区&両社協の後援をベースに 展開→国土交通省兵庫国道事務所と協働 |
| 2023/9 | シニアパンづくりクッキング(若返り対策) | | |
| 2023/10 | キッズハロウィンクッキング(親子で健康弁当づくり) →武庫川女子大学と協働 | | |

3. 成果と課題点

- (1) 成果 → 健康づくり集団としてローカルパートナーシップ活用の地域サステナブルデザインを実践
- 1) 食縁交流会活動:管理栄養士養成の女子大学(松蔭女子学院大、甲南女子大)等と協働して健康長寿を推進
→年8回実績、計204人(フレイル3回/93人、栄養2回/51人、食養生2回/34人、パンづくり1回/26人)
 - 2) 環境美化活動:クリーンクルーの美化活動として、兵庫国道事務所とボランティアサポートプログラム協定を締結中
→年145回実績、クリーンクルー参加者720人、クリーンサミット参加者22人 計742人
 - 3) 多世代交流活動:ジェンダー&ダイバーシティを地域社会の中で自然適合を企図(東灘図書館、武庫川女子大と協働)→年5回実績、食育と環境80人、サブ90人、親子WS2回67人、キッズクッキング33人 計270人
- (2) 課題点 → ローカルパートナーシップ活性化を期するも他団体との同時歩調を合わせるのが困難
- 1) 相互目標・目的が合致しても、双方の事情(担い手不足・資金不足・認識不足)が足枷になりました。
 - 2) 新しい技術や考え方を導入する際に、固定観念にこだわる団体との折衝に手間取りました。
 - 3) 調整(日程、目的、内容等)のスムーズ化は、「フットワーク力と情熱力」が鍵だと思いました。

4. 今後の展望、成果の活用

- 1) 食縁交流会活動:地域食育推進による全世代健康づくり → SDGs第3目標「すべての人に健康と福祉を」
→全世代対応食縁交流会として、従来からの高齢者対象に留まらず全世代へ広げる健康づくりクッキングを展開。
次年度からは、子どもまんなか社会の充実として「ファミリークッキング」を軸に異次元の少子化対策を実践します。
- 2) 環境美化活動:自分と地域のウィンウィン関係推進 → SDGs第11目標「住み続けられるまちづくりを」
→ネットワーク組織(事務局:食親同好会)として、地域別クリーンクルーを支援して運営全般を管理。国交省兵庫
国道事務所との協働関係をより一層強化して、特に国道沿いの清掃美化を徹底していく覚悟です。
東灘区&灘区の国道沿いに「ボランティア・サポート・プログラム」のパネルが13箇所あり、更に増やす見込です。
- 3) 多世代異文化交流活動:相互リスペクトによる変容樹立 → SDGs第4目標「質の高い教育をみんなに」
→感性と多様性をリスペクトする活動として「誰一人取り残さない」という全世代対象のプログラムを中心に推進して
きました。結果、教育の基本は子どもにあるという想いに至りましたので、今後は親子共育・共学の観点から子どもと
子育て世代を対象に「新しい家族像」を求める異世代応援団としての活動を展開します。

『猫の譲渡会と野良猫のTNR』

ボランティア団体 猫のミーナ

1. 事業の目的

殺処分される猫の数を減らすために、保健所や行政に持ち込まれた猫を保護して、育て、そして新しい家族を探しています。



子猫の姉妹

4. 今後の展望

TNRを進めていく事によって、野良猫が減り、ゴミを荒らしたり、糞や尿の環境汚染が減り、地域の美化へと繋がります。猫は家庭での癒し効果や、家族の幸せに繋がります。その癒しの効果をどんどん広げて行き、命というものの大切さを子供たちに教えたい。

また、猫の虐待は人への犯罪に進むと思われるので、法律を変えたいと望みます。

幸せになった猫と人の様子



また、猫と繋がる事で人間の社会にも通じ、家庭の問題に携わる事もあり、役に立てることがあればと思いました。

一般の方が猫を拾った場合、里親探しに譲渡会の参加も出来るように協力したいとも思ったからです。



3. 成果と課題

猫が家族になって、家族に幸せが来たとも言われたり、会話も増えたりしたとの声を頂きます。

また、高齢者のペット問題があります。施設に入ったり、亡くなったり、猫が残され、ケアマネージャーから引き取り依頼が入る事があります。

新しい飼い主を見つける事も有りますが、今後の高齢化社会の大きな問題であるかと思えます。

もしも引き取られなかった猫や犬たちは、県や市のセンターに持ち入れ、税金を使って殺処分されることとなります。



譲渡会の様子

2. 活動内容

毎月第2日曜に神戸三宮で譲渡会を開催しています。

臨時でも開催して、1年間に18回くらいを行っています。

年間、譲渡会では100匹以上の猫の里親が決まっています。

神戸市での依頼を受けて、市民からの情報が入ると、野良猫の捕獲をしています。

TNRといい、

捕獲して、手術して、

耳カットをし、地域猫として見守り、野良猫を増やさない為に行っています。

捕獲された猫の様子



SODA 地域づくり応援事業

認定 NPO 法人ソーシャルデザインセンター淡路



SODA
SOCIAL DESIGN CENTER AWAJI

1. 活動内容・目的

① 相談事業

◎NPO法人、社団等の起業、運営相談、地域連携、地域の課題解決について等

② 情報提供

◎HP、チラシ配布、新聞掲載等で情報を提供する。

◎ネットワークの構築

- ・「淡路ひきこもり等地域連携ネットワーク」の事務局機能
- ・「南あわじ市ひきこもり・不登校のための連携会議」を開催
- ・洲本市社協、南あわじ市社協との連携
- ・洲本実業高校、東灘高校との連携
- ・島内の県立、私立高校との連携
- ・洲本市教育委員会との連携
- ・淡路県民局との連携 など



③ 人材育成

◆地域づくりの人材育成や地域における豊かな人間関係を気づくことなどを目的とする。

◎令和5年度地域づくり応援セミナー

「これからの島の暮らしをつくる学校 高校生編」(中止)
～島の先輩と話そう～

日時：令和5年12月16日(土)13:00～16:30

会場：洲本総合庁舎3階会議室

◎「描こう！語ろう！始めよう！高校生の未来フォーラム」

日時：令和6年2月17日(土)13:00～17:45

会場：南あわじ市広田地区公民館3階第ホール



④ 書類作成指導

⑤ その他

◎第16回これからの島の暮らしを考える市役所

「次の世代に受け継ぐまちづくり～地域で取り組む空き家対策～」

講師：NPO法人空き家相談センター理事長

アトリエ・キューブ建築設計一級建築士事務所代表

橋詰 慎さん

日時：令和6年1月20日(土)10:00～12:00

会場：福良地区公民館2階



成果と今後の展望

今年度は、地域づくり応援セミナーの対象を島内の高校生とした。3年前にSODAで企画し、実施したのが始まりである。島内の高校生が一堂に会してそれぞれの地域活動や研究発表などの場は今までは、ほとんどない中、コロナ禍もあってこうした場は持てなかったらしい。昨年は淡路青少年交流の家と。今年度は淡路県民局が主催でSODAが共催という形で開催されることとなった。また、3年目を迎えるにあたってその必要性を感じ、高校の先生方の中にも一緒にこうした企画を進めようと実行委員になってくださる方も生まれてきている。SODA発信の企画が地域に根付いていくような期待が膨らんでいる。今後の進め方を考えていきたい。

次に第16回島の市役所では、昨年度の福良地域のビジョンづくりを終え、そのアクションプランとして「空き家対策」を提案する。当日は40人を超える参加者で、講演の後の質疑応答も具体的な問題が出された。南あわじ市役所からも課長をはじめ職員の方々も参加。市役所として提供できる制度についての説明もされ、「これからの島の暮らしを考える市役所」がめざす参画と協働が形となって市民向けのセミナーができた。セミナーは大変好評だったことを受け、今後もNPO法人空き家相談センター、市役所と連携しながら、まずはこうした会を継続し開催することとなった。



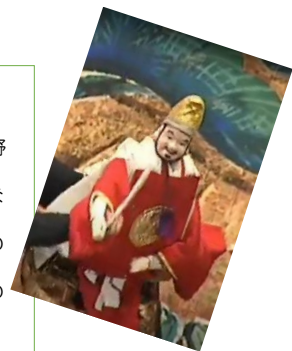
「淡路島と神戸を結ぶ新たな拠点づくり」事業



認定 NPO 法人ソーシャルデザインセンター淡路

1. 目的、課題

この事業は、昨年度、獣害対策で伐採した木を使用し、SODAの仲間たち(ひきこもり等)が手掛けた木工製品や淡路島の農家直送の野菜などを販売する「つながりマルシェ」を、洲本実業高校の生徒さんたちと一緒にイベントとして神戸で開催したことがきっかけとなり、さらに島のコミュニティビジネスやソーシャルビジネスのような課題解決につながる拠点として。また文化交流の場や情報交換の場としての拠点と位置付けて、島と神戸を繋ぐ市民活動の拠点づくりをし、今後継続可能な活動となることを目的とする。また、その協働相手である神戸市内のNPO法人フクロウの夢がちょうどSDGs活動の一環として「新聞紙によるエコバック」づくりについては、神戸発信の事業を、淡路島内の高齢者やひきこもり、障害者などの孤立防止の事業として取り組みを広げていきたい。



2. 活動内容

島と神戸を結ぶ「つながりマルシェ」の開催(会場:神戸市東灘区)

SODAが支援している仲間たち(ひきこもり等の就労弱者)が製作している雑貨や島内の農家、事業所等の野菜、加工品の販売。

令和5年6月24日(集客数:約90人)

7月22日(集客数:約120人)

8月26日(集客数:約80人)

9月30日(集客数:約30人)

10月28日(集客数:約100人)

11月25日(集客数:約70人)

12月17日(集客数:約150人)

洲本実業高校の生徒さんたちによるワークショップ、販売

令和6年1月27日(集客数:)

「淡路人形浄瑠璃青年研究会」によるご祝儀戎舞(えびすまい)の上演と交流

島と神戸を結ぶ「新聞紙によるエコバック」運動

SODAがめざす「誰もが役割のある社会」の一環として独居老人やひきこもり等の活動の一つとして普及していきたいと考えている。そこでまずは、その実践活動とネットワークづくり、仕組み作りに取り組んでいく。

・令和5年8月25日(金)13:30~:市役所多目的ホールにて

「南あわじ市消費者協会 エコバック研修会」(参加人数:19人)

講師:NPO法人フクロウの夢 理事長 豊田幸聡

・令和5年10月16日(月)13:30~:吉備国際大学農学部(50人)

「エコな新聞閲覧台を創ろう」

講師:NPO法人フクロウの夢 理事長 豊田幸聡さん

・令和5年10月17日(火)10:00~:島の学舎(4人)

「ひきこもり・不登校等の親子向けエコバックづくり」

講師:NPO法人フクロウの夢 理事長 豊田幸聡さん

・令和6年2月28日(水)13:30~:南あわじ市中央公民館

主催 南あわじ市社回復し協議会

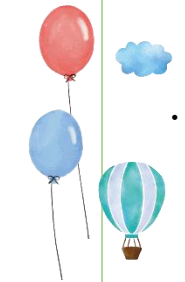
「知る・認め合う・つながりあう~エコバック研修会」

講師:NPO法人フクロウの夢 理事長 豊田幸聡さん



3. 成果と今後の展望

「つながりマルシェ」については、毎月、開催していると顔なじみになってこちらの活動に興味を持ってくださる方が少しずつ増えてくる。また淡路島出身の人たちが懐かしそうに来てくださる。「ひきこもり、不登校の問題はどことも同じで共感を得ることが多くある。また、こうした事業を通して応援団になりたいという人が二人できたことは大きな成果である。高校生の参加した12月のマルシェのことで、東灘高校とご縁もいただき、来年度から神戸大学との連携で始めようとしている「つながりカフェ」を東灘高校とも連携することになりそうだ。また、SODAでは空き家問題にも取り組んでいるので神戸の方々の移住などのご案内もできるかもしれない。「エコバック運動」も地元南あわじ市を中心に活動の輪が確実に広がりつつある。こうして一歩前に行くことでの新たな可能性にワクワクしている。





つくる、つなぐ、つどう、まちコミュニティ。

NPO法人 いながわリンク

■参画協働 ■交流促進 ■情報収集・提供 ■相談支援 ■運営管理

それぞれの「できる」を持ち寄りながら、たくさんの人と一緒にまちのことをかんがえて楽しみたい。そんな気持ちで、既存団体の活動相談や新規団体の立上げなども含め、住民同士は勿論、行政や事業者などとも繋いで支援できるような取組が行えるよう、2021年末にNPO法人を取得しました。住民のシビックプライド(地域への関心や愛着・活動意欲など)を育み関係性を築くこと、またその結果として地域の活性に寄与することを目的として、個人や団体・事業者・行政間の参画と協働をもって地域や世代の交流に関する活動を行なっています。

①相談業務→認知度とともに相談件数昨年比130%

- *つながり～いな☆カフェ 5回開催(5月/7月/9月/11月/1月)
- *つながり～いな☆カフェzoom 6回開催(4月/6月/8月/10月/12月/2月(予定))
- 町内に建設された物流施設のカフェスペース利用とオンラインを併用して定期的開催
- *ちょこっと相談会→③のリンクマルシェキャラバン内で開催



②情報収集・提供→提供ネットワークの整理と再構築

- メール/YouTube/ブログ/Facebook/Instagram/Twitter/ホームページ
- (世代別に普段使っている様々な媒体に合わせられるよう工夫)



③人材育成の取組→2年目強化項目

- *イベント活動チャレンジ→「リンクマルシェキャラバン」
- ・イオンモール猪名川 (8回: 4月/6月/7月/8月/9月/10月/11月/2月(予定))
- *オープン研修・勉強会 (4回: SDGs/防災/広報/話し方)
- *学生ボランティア4名→新規: 高校生2名、大学生1名



④書類作成指導業務→個人や団体に訪問や①の場で随時対応

- ・NPO大学(12月/1月)/協力サポート、動画編集
- ・各種印刷物(チラシやパンフレット)の企画や制作サポート



⑤その他(NPOに係る調査研究など)

- *地域の活動団体取組調査→YouTube「いながわリンクAIR RADIO/のぞいてみるみる」取材、編集、配信
- *地域の中での課題研究(アンケートなど)
- ・大学生と猪名川町について考えよう(8月/10月/11月)
- ・「二十歳のつどい」式典参加者アンケート(2024年1月)
- *地域で活動する人や団体の活躍や交流の場づくり
- ・wacca©wacca(5回: 4月/6月/7月/9月/10月)まちづくり協議会館
- ・下記⑥のイベント多数開催



⑥協働・連携

- ・【主催】竹キャンドルナイト(6月)猪名川町総合公園 | 子ども食堂、まちづくり協議会
- ・【協力】大野山CLEANDAY(3月/7月/11月)大野アルプスランド | 柏原森林組合
- ・【協力】いながわ星まつり(9月)大野アルプスランド | 猪名川町天文台運営委員会
- ・【連携】総合計画住民ワークショップ参画(11月/12月/1月/2月(予定)) | 猪名川住民力向上委員会
- ・【協力】いながわ星旅(12月3週連続)日生中央駅前広場、元宿泊施設、大野アルプスランド | 猪名川町観光協会
- ・【連携】祝・二十歳のつどい(1月)猪名川町文化体育館 | 二十歳のつどい実行委員会

成果・課題・展望▶認知度が高まり活動メンバーの年齢層、相談件数、協働・連携先も増加し広がる一方で、業務や情報の整理が必要に。あらためての意思共有や事業内容のアップデートを常に意識して、次のステップへと歩みを進めたいです。

「自主防災活性化事業」

団体名：NPO法人One by one

1 事業が目指すところ

- ①防災意識の普及啓発
- ②居住地の防災を担う人材育成
- ③防災減災のために活動されている個人・団体・町内会への支援。

2 事業内容

「かこがわ防災メッセ」
防災講演/5町内会防災発表



1部 防災講演 講師/頼政良太



2部 5町内会防災取組の発表

「避難所HUG」
5箇所（全事業11箇所）



加古川市 新野辺第一町内会



加古川市 砂辺町内会

「防災学習・防災訓練」
5箇所（全事業10箇所）



加古川市 西公民館



加古川市 新野辺第五町内会

「神戸新聞」11/3 記事
「BAN-BAN ネットワークス」
11/17～23 放送データ



神戸新聞 東播 記事



BAN-BANテレビ放送

3 事業成果、または明らかになった反省点や課題

- (1)成果：個別避難計画策定の有効性を伝え地域防災の活性化を促すことができた。避難所運営ゲームHUGでは防災学習を加えることで気づきや認識での理解を深めることができた。
- (2)課題：防災や減災の意識が低く取り組みの無い地域での防災学習の実施。

4 今後の展望、成果の活用

DIG（ディグ/災害図上訓練）では、仮想地図ではなく、居住地の地図で実施できる体制を整え研鑽して地域の防災学習に活かしたい。

『Next Seeds プロジェクト』 しんぐう☆みらい研究室

～協働・共創社会の実現と新たなまちのカタチから未来を創造する～

【しんぐうNext】



HP FB

1.事業が目指すところ

まちの新たな自治のカタチを検討し、地域全体でさまざまな課題を解決していけるような核になる組織を作り出す事業を行う。それにより、自治会組織を補完しながら、より効率的なコミュニティ活動を展開し、情報の伝達・共有をスムーズにできるような環境を整えていく。まちの様々な組織や団体との間でネットワークを構築しながら、『未来を創る』活動につなげていきたい。また、町内において議論されている小学校の統廃合や小中一貫校、廃校の跡地利用などの未来を考える議題に対しても幅広いつながりを活かした話し合いや取り組みの方法を模索していける組織づくりを目指す。

2.活動内容

☆今年度は、「まちづくり協議会」の設立を目指していましたが、もう少し時間をかけながら進める方が良いと判断しました。その上で、まずは、「新宮地区まちづくり連絡協議会」を設立し、情報の共有をしながら実際に課題を一つずつ明らかにし、できる事から進めていく事になりました。最初の課題として取り上げたのは、『旧新宮高校跡地』と『旧町役場跡地』の今後の展望について。長いあいだ進展のないこの事柄について、行政側の担当課に今後のすすめ方を教えてほしいと嘆願書を提出する為準備をしている。(2月下旬)…【協働・共創】

☆たつの市社会福祉協議会新宮支部と龍野北高校の学生さんをつなぎ地域課題(買い物支援・移動支援、にぎわいづくり、担い手不足など)について話し合う場を作りました。…【健康と福祉の充実】

☆光都地域で地域団体と共に地域課題(販売店の閉鎖問題、外国人住民の支援、まちの協働についてなど)の解決に向けた取り組みを実施してきました。…【協働・共創】【未来を創る】【にぎわいの場を作る】

☆しんぐう☆みらいサロン開催。(まちの未来について語る会)

○龍野北高校で福祉をテーマに開催。…【未来を創る】【健康と福祉の充実】

○『若者の結婚と子育て』をテーマに実施予定(2月23日)。…【教育・子育ての環境を整える】

☆『たつのde懇話会』の開催。

たつの市内で魅力的な地域づくりされている方を集めて『まちづくり』と『観光』をテーマにワークショップや交流をする懇話会を計画中。(令和6年2月21日(水)18時～志んぐ荘で開催予定。)

※新宮町内に報告資料を各戸配布する予定(2月下旬)

左:みらい☆サロン(龍野北高校ボランティア部)⇒

右:光都地域の課題について協議(月一回) ⇒



3.成果や課題点

『まちづくり協議会』を作るということを目標に活動していますが、様々な組織や団体が存在するまちのカタチの中で、皆さんに理解して頂き、同じ方向を向いてもらうことはなかなか難しい試みであり、かなり時間がかかることだと気づきました。ただ、これはある程度想定内であり、あまり無理に進めすぎず、丁寧な説明と情報の開示や提供が必要だと感じています。その上で、連絡協議会として組織の目的を変更し、皆さんに情報の共有をしていながら、地域課題の解決に向けて少しずつできる事を実施していく事で住民の皆さんに理解と共感をいただけるように尽力していきたいと考える。

同時に、ミッションテーマごと(協働と共創、未来を創る、賑わいを作る(集いの場、観光など)、健康と福祉の充実、教育環境を整える)に事業を展開していく事でそれぞれの分野で協働が生まれ、アプローチが可能になったことは大きな成果となりました。今後もそれぞれのテーマで取り組みの内容を作りこみながら、少しずつでも課題を改善していけるような動きをしていきたい。

4.今後の展望、成果の活用

今年度、『まちづくり』と『観光』をテーマに懇話会を開催予定であるが、テーマを変えながら毎年恒例事業として継続していけるような仕組みにしていきたい。その上でまちをみんなの力で盛り上げていけるようなカタチに醸成していきたいと考えている。また、若い世代の協力をもっと増やしていけるように、若者の意見を聞いたり、声掛けや活動参加がしやすいような努力を今後も続けていながら、地域全体の共感や期待を得られるよう進めていきたい。

『しんぐう☆まちあそび2023』

【～まちが人を育む、人がまちを育む『まち育プロジェクト』～】

【しんぐうNext】



1.事業が目指すところ

過疎化、少子高齢化、若者の町外流出など新宮町の地域課題を解決するべく、若い世代を中心としたにぎわい創出事業に取り組んでいる中、この『まちあそび事業』では、子どもや親子向けの学びや体験などを集め、「学校では教わらないことを地域が担い、伝える！」を目標に活動している。

子ども達の教育において、自然・職業体験などの学びの場は必要不可欠なものであり、その体験が将来の夢や新たな興味、関心につながり、子ども達の未来にとって大変貴重な経験になると考える。

子供たちの学びの場を地域の力で生み出すことにより、まち全体で子ども達の興味や関心を引き出す事や、参加者の夢や目標につなげていく活動にしていきたい。また同時に教える側の生きがいづくりや地域内交流を生み出す事業にしていく事で、地域全体で人を育む環境を整え、『まち育』事業として全体をつなげていきたい。そして、地域の力や学びの力を使い、みんなが楽しめるまちにしていきたい。

2.活動内容

新宮町内の自然や人などの地域資源を活かした親子・子ども向けのワークショップや体験プログラムを実施する活動を行う。その中で、新宮に遊びに来てもらい『新宮町の魅力発見』や『新宮で楽しむ！』をテーマに地域住民をはじめ市内外の人々の交流を促進し、活気ある「まちづくり」「賑わいづくり」を創出する事業を行う。今年度は、【人材バンク】のような仕組みを作り、マイスターを地域に派遣する事業にも取り組んだ。

☆実施事業☆『しんぐう☆まちあそび2023』【()内は開催場所・参加者人数、[]は協働先】

【1.しんぐう☆まちあそび】 [たつの市/消防団/ボランティア協会]

7/8(土) しんぐう☆七夕ナイト(新宮総合支所・約300名)



「七夕ナイト」

【2.しんぐう☆農家体験】 [たつの赤とんぼクラブ/市内農園]

6/18(日) 【もち米の田植え】(けんたろう農園・6組20名)

7/8(土) 【ママ部:タネ撒き】(右田農園・5組12名)

7/18(火) 【ママ部:定植】(右田農園・6名)

8/6(日) 【ママ部:土寄せ】(右田農園・4名)

10/22(日) 【もち米の稲刈りとハザガけ体験】(けんたろう農園・6組20名)

11/4(土) 【サツマイモ収穫体験】(右田農園・4組8名)

12/10(日) 【餅つき体験】(けんたろう農園・8組24名)

※2月下旬にねぎの収穫体験を計画！



「餅つき」



「ママ部」

【3.しんぐう☆謎解きミステリー】 [地域ボランティア/光都地域/ダイセル]

11/18(土) しんぐう☆謎解きミステリー(ひょうご環境体験館・160名)

【4.しんぐう☆イルミネーション】 [新宮総合支所/自治会]

※2月中旬ごろ～、新田山ライトアップイベントを企画中。

2月下旬 まちあそび事業報告＆マイスター募集チラシ作成予定。

新宮町全戸配布及び行政施設等配布予定(6000部)。



「謎解き」

3.成果や課題点

今年度の『まちあそび』もたくさんの方に参加していただきました。参加者のみならず、協力者やマイスターさんも少しずつ増え、事業の趣旨に賛同してくれる方や共感してくださる団体さんなども広がりを生んでいます。

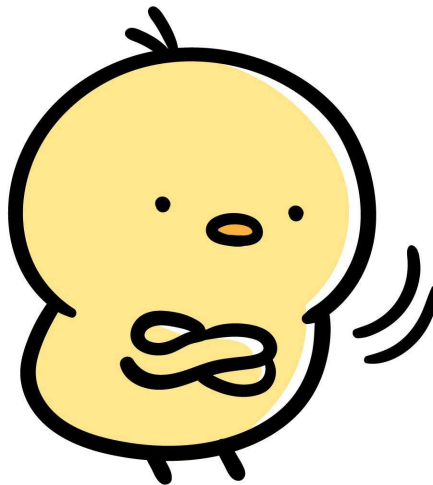
今年度は、新たに人材バンクのような仕組みを作り地域内にマイスターを派遣する事業も実験的に開始しました。福祉施設やこども園などの施設にマイスターさんに来ていただき、学びや交流を生み出したことは今後の新たな展開につながると考えます。また、多方面から様々な反響をいただき、小学校の児童向けの体験事業にお声掛け頂けたり、他の地域からの視察や研修依頼が増えたりとおかげさまでこの事業の良さを皆さんに認知して頂けていることを実感しています。

課題点は、昨年度も上げさせていただきましたが、この事業を継続して実施できるようにする方法(参加費を有料にする。ボランティアを有償にする等)を今後も考えていく必要があることです。今年度のイベントでは有料化や企業との協働を行い事業費に充てる試みをしてきました。しかしながら、事業を継続的に循環できる仕組みにまでには至っておらず、ボランティアと収益事業とのバランスなどをまだまだ研究していく必要があると感じます。

4.今後の展望、成果の活用

これまでのご縁により新たな企画も生まれています。大規模イベントの開催だけではなく、一人一人に行きわたるような地域教育を目標に、『まち育事業』として整えていきたいと考えています。出張授業やマイスターの派遣など、これまでには無かった教育のカタチも模索しながら、子ども達の将来の夢や職業につながるような取り組みになればと考えています。そして、都会から地元に戻りたい！！と思ってもらえるような、地元愛を育める事業になっていく事を期待しています。

K Group



| 団体名・企業名・学校名 | 事業名(助成団体のみ) |
|-----------------|-------------------------------|
| (特非)市民事務局かわにし | 「NPO大学・マナビ塾」2023 |
| (特非)高砂海文化21C | 海洋プラスチック問題を伝える、学ぶ、ヨットでのごみ回収実証 |
| (特非)奥播磨夢倶楽部 | 中山間地域における地域づくり支援事業 |
| (特非)ミャンマーKOBÉ | ミャンマー人への支援・交流事業 |
| 生涯学習応援隊so-so.39 | SRHRたんばプロジェクト その1 |
| 自由演劇倶楽部 えん | 市民による自由演劇倶楽部の推進事業 |

NPO大学“マナビ塾”2023

特定非営利活動法人 市民事務局かわにし



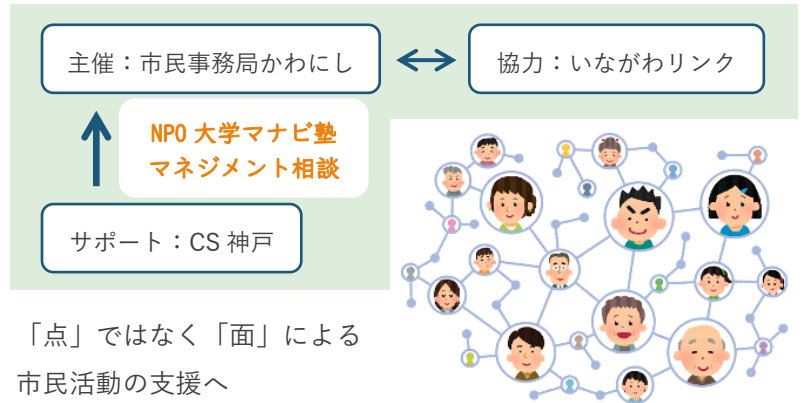
26年間の積み重ね

・「NPO 大学」事業は、1997年に神戸で産声を上げ、兵庫県内 NPO 法人の持続可能な運営を目的に「NPO マネジメントスクール」、「NPO 大学」、再び「NPO マネジメントスクール」、そして「NPO 大学“マナビ塾”」と呼称を変えながら 26年間実施されてきました。

・長年の運営主体であった「認定 NPO 法人 CS 神戸」からバトンを引き継ぎ、2015 年度より「NPO 法人市民事務局かわにし」が実施しています。

成果

中間支援の相互エンパワメントと地域情報の交換



基礎編はオンライン、実践編は対面セミナー！

実施報告

基礎編 オンライン (Zoom) 開催 (オンデマンド配信あり)

2023年 12/14 (木), 12/15 (金), 2024年 1/22 (月)

受講料 2,000円 (4講座) /人 お支払いは、申し込み後に事務局から振込先をご連絡いたします。

NPOって? 『実践活動から』 講師: 中村 順子 さん
認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸 (CS神戸) 理事長
1996年にCS神戸を設立。当スクール発起人の1人。NPOの起業・運営支援を多数手がける。

NPOって? 『よくある質問から』 講師: 三井 ハルコ さん
NPO法人市民事務局かわにし 理事長
2005年に中間支援NPO法人を設立。2010年からは「川西市市民活動センター」男女共同参画センターの指定管理者としてセンター長、2023年からはスーパーバイザーを務める。

組織の『健康診断』ツールを知る 講師: 當間 克雄 さん
兵庫県立大学大学院社会科学部 教授
2004年度から講師として参画。2006年度から当スクール学長、NPO法人の理事 (1法人)、監事 (4法人)、アドバイザー (2法人) を務める。

組織の『羅針盤』ツールを学ぶ 講師: 當間 克雄 さん
「SWOT」分析表を展開させて作成する「戦略マップ」や「BSC」(バランススコアカード) について学ぶ

学びを活かす **実践編** 「基礎編」の受講は必須です

2024年 1/31 (水) 13:00~17:00

個別にアドバイスを受けながら、自組織を「SWOT」で分析して課題を抽出。さらに「SWOT」分析表を使って「戦略マップ」「BSC」を作成し、次年度の「事業計画」にもつなげます。

会場 川西市市民活動センター・川西市男女共同参画センター (川西市小花1-8-1「パレットかわにし」内)

定員 15人 ※同一団体から複数で受講いただくと、より効果的です。

受講料 2,000円/人

- 日時: **基礎編** (オンライン開催、オンデマンド配信あり)
 - ①2023年12月14日 (木) 14:00-14:40
 - ②2023年12月15日 (金) 14:00-14:40
 - ③2024年1月22日 (月) 10:00-12:30**実践編** (対面セミナー)
2024年1月31日 (水) 13:00-17:00

- 会場: 川西市 市民活動センター
男女共同参画センター
- 協力: NPO 法人いながわりリンク

- 申込: **基礎編** 10人 (NPO 法人、任意団体など)
- 実践編** 9人 (NPO 法人、任意団体など)



「海洋プラスチックごみ問題を伝える、学ぶ、ヨットでのゴミ回収実証」

(特非) 高砂海文化 21C

1 事業が目指すところ

我々が活動している高砂市は加古川支流の堀川を通じ播磨灘に面しております。ここにも少なからずプラスチックごみが浮遊しております。この現状について、従来よりいろんなイベント開催時において、海洋環境の保全を訴えてきました。

この度、これら海洋プラスチックごみ問題を地元小、中、高校生を始め多くの一般市民に伝える事、さらに自らも浮遊するプラスチックごみをヨットに乗って回収する事を目指しました。

2 活動内要

実施済みの活動では、10月28日に、トリニティ体験学習（①郷土の歴史を学ぶ、②海洋プラスチック問題を学ぶ、③江戸の北前船とヨットの動く原理は同じ）を実施しました。

①は地元の歴史に精通した方に講師をお願いし、②は当NPOのメンバーによる環境講座（①、②共、工楽家旧宅内で座学）③は2隻のヨットに分乗して実施しました。（午前、午後2班に分けて実施）



出航前の安全指導



見にくいですがプランクtonネットを引いています

3 成果や問題点

上記、体験学習のほか、高砂町内で活動しているボランティア団体（ルネサンスみなとまち高砂、高砂町づくり協議会）と環境テキストを用いて「海のサロン」を開催し海洋プラスチックごみ問題についてディスカッションしました。その中では、我々が主に活動している加古川下流域だけでなく上流から食い止める事が重要である等、問題意識の共有化を図る事が出来ました。

海のサロンは各ボランティア団体のメンバーに参加してもらったので参加者募集に関して、スムーズにはかどりました。一方トリニティ体験学習は高砂市内小中学生の全校生徒対象に約7000枚を配布しましたが応募状況は芳しくありませんでした。参加された方々からは一応に高評価を頂いていますが、募集方法、時期等に問題があるのかもしれない。

4 今後の展望、成果の活用

播磨灘高砂沖でのマイクロプラスチックの定期的な採取と、そのデータ化が出来れば、その実態を当該の行政・団体へ提供する事が可能になります。又当該行政を通じて海に接していない加古川上流域の市町村への情報発信も行う事が出来ます。

企業や専門団体と連携してさらに海の環境課題を座学による理論とヨットでの現場検証を実践して参加者にはワンステップで体験出来ることをアピールし参加者を募る事で、体験型観光の実証につなぐことも可能です。

基本事業：

1 事業が目指すところ

中山間地域である奥播磨において、地域づくりの課題解決のための相談室を開設し、相談・助言を行うことにより持続可能な地域づくりをめざす。令和5年度は、NPOネットワークづくりのほか、中山間地域で活動している地域づくり団体が活動を続けていくための支援を行う。ワークショップにより、地域づくりに主体的に取り組む人材や地域と多様に関わる人の確保するため方策を話し合う。外部からの人材確保により地域の新たな取り組みが始まり、地域が継続していけるよう支援する。

2 活動内容

(1) 相談室の運営

面談・Web・電話・メールなどで対応
相談件数9件・回数36回 地域づくり団体など対象

(2) 情報提供、ネットワーク・WS運営サポート

①地域作り団体などへの情報提供 8件
②ネットワーク・WS運営サポート 回数 8回・延べ数143人
今までにネットワークを組んでいるエリアと、新規エリアがさらに広域にネットワークが広がって行くよう働きかけた
(奥播磨・宍粟市団体3団体、佐用町1団体、鳥取市2団体)

(3) 人材育成

講演会&座談会

「これから生きる自分たちのために今動きだそう！」

対象者：環境問題や消費、若者支援などに関心のある団体
日時：1月20日(土) 場所：宍粟防災センター
講師：NPO法人夢ノ森伴走者CUE 代表 向山遥温氏
参加団体：4団体(社会福祉協議会、消費者協会、文化大学、地域団体)

(4) 書類作成指導 広報印刷物やその他の資料作成サポート 7件

(5) その他

1. 地域情報便「おくはりまNEXT2023」B5冊子500部
テーマ：持続可能な仕組みづくり・ネットワークづくり
2. 鳥取県鳥取市鹿野町で活動する団体の研修受入れ 人数20人
テーマ：宍粟市山崎町のまちづくり事業取組み・歴史文化、世代交代の実践について
3. ネットワークづくり動画作成として講演会の様子を撮影し、PRに活用していく。
講演会では「インスタライブ」配信し、会場に来れなかった人向けの発信を行った



地域資源を活用したワークショップ(6月4日)



広域ネットワークづくりのワークショップ(10月22日)



団体間ネットワークづくりワークショップ(11月7日)



これから生きる自分たちのために今動きだそう講演会(1月20日)



3 成果や課題点

(1) 成果

- ①「これから生きる自分たちのために今動きだそう」をテーマとした講演会をNPO法人夢ノ森伴走者CUE代表の向山氏を招いて開催、市内外からの幅広い世代の聴講者が参集し、活発に意見交換を行った。
- ②講演会やWSサポートの現場に、NPO若手メンバーを配置し、スタッフの役割を担わせた。
- ③全国規模で活動しているNPOからの執筆依頼を受けて、2023年9月に水曜社から出版された「フットパスによる未来づくり」の中で、「広域ネットワークづくり」の1事例として、当NPOが進める中間支援的な取組みの実践内容について紹介している。
- ④当NPOの推進する多様なネットワークを活用した中山間地域における地域づくり支援の取組みが評価されて国土交通大臣表彰「令和5年度手づくり郷土賞」一般部門を受賞。(全国で13団体、近畿地方では当NPOのみ選出された)

(2) 課題点

アフターコロナの社会の流れの中で、多世代多様な人材をどのように確保し、中山間地域のリーダーに育てていくかが直面している課題である。若い世代を講師に招き、若者の参集を呼びかけたが、思うように集まらず、これまでの経験が活かしづらいところはある。試行錯誤しながら、人材の確保を進めていく。

4 今後の展望、成果の活用

多彩な講師陣を招いた講座の開設や当NPO独自のワークショップの定期的な企画、地域資源を活用した企画を実施したい団体のサポート、多様な人材交流の場を提供により、直面している課題解決につなげて行く。

今後も地域特性に応じた中間支援を継続し、ネットワークを活用して持続可能な中山間地域づくりをめざす。

「ミャンマー人への支援事業等」

特定非営利活動法人ミャンマー-KOBE

1 事業が目指すところ

生活上の困難を抱えるミャンマー人に対し、冬服・食料等の支給を行い支援するとともに、写真展等により市民のミャンマーへの理解を促進する。

2 活動内容

(1)生活相談会の実施

神戸在住・在勤等のミャンマー人から、面談や電話・メール等により、生活・住居・仕事等に関する相談を受け対応を行った。

(2)食料等の支給会

○冬服等プレゼント会

日本で暮らすミャンマー人にとって日本の冬の寒さは厳しい。生活が苦しいミャンマー人を対象に、寄付を受けた冬服や寝具をプレゼントした。



(3)ミャンマー伝統行事の開催

11月5日(日)、ふたば学舎等において、ミャンマーの伝統的な祭り「カテイン祭り(袈裟祭り)」を、在神戸ミャンマー人グループと共に開催した。



(4)ミャンマーに関する活動の市民等への紹介

10月11日(水)～10月19日(木)、ひょうご国際プラザ交流ギャラリーにおいて、「プラス1ネット」と共に、ミャンマー絵画展「ぼくかわいい!わたしかわいい!」を開催した。

3 成果

多くのミャンマー人に冬服や食料を支給し、また各種相談に応じることにより、生活支援を行った。併せて、市民等に対してミャンマーの理解を促進することができた。

4 今後の展望

引き続き、これらの事業を継続し、ミャンマー人の生活支援等を実施していく。

SRHR たんばプロジェクト その1

生涯学習応援隊so-so.39

SRHR=Sexual and Reproductive Health and Rights、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、性と生殖に関する健康と権利について丹波市は遅れています。それを啓発するためのプロジェクトをスタートさせました。

【Action 1】

団体メンバーが、シニア層に入り、それぞれの家庭事情で動きが悪くなっている。しかもジェンダーや性教育について活動する団体がない。できれば後進を作りたいと思い、昔、子育て支援の事業に参加してくれた40代の女性に声をかけて、意見を聞き始めた。

【Action 2】

丹波市の女性の健康や権利についての啓発活動、学校での性教育の現状を知るために、丹波市健康課、丹波市教育委員会学校教育課、小学校長などを訪ねて情報収集した。

【Action 3】

今年度の具体的な活動についてメンバーと相談。

①神戸市立看護大学 高田昌代教授の講演会の開催

②若者への啓発など、繋がりを作ること の2点を目標に進めることを決定。

●活動報告●

- 11月4日(土) 神戸市立看護大学 高田昌代教授の講演会開催。 「子どものカラダの健康と権利」会場参加20名。1週間限定ネット配信 視聴115回



- 県立氷上西高校で性教育授業実施 11月7日、14日、21日の各2校時目 2年生34名対象 3回の授業内容、使用するパワポの作成をメンバーで実施する。授業後に次の進行の確認。



- 県立西脇北高校からデートDV防止授業の依頼 12月20日 内容をメンバーと相談し、氷上西高の授業内容を盛り込んだパワポ資料を作った
- 丹波市立看護専門学校へ高田教授の出前授業実施について相談 →希望はされたが日程が合わず次年度へ。また、多様な性についての講義についてもリクエストされた。これも次年度の宿題へ。

市民による自由演劇倶楽部の推進事業

自由演劇倶楽部 えん

1. 事業が目指すところ

地元神戸や兵庫県の民話を朗読劇風に発表して、地域おこしや地域交流に取り組みたい。地元の民話をさらに発掘していき、その地域の児童館やふれあい喫茶、老人会、カフェ、神戸市内のイベントなどで民話の普及活動が続けるとともに舞台での公演にも取り組んでいく。また、地域のNPO団体等と連携した社会貢献活動や『わいわい・がやがや おしゃべりカフェ in 「えん」』（居場所）等を通じて地域交流活動にも尽力していく。

2. 活動内容

1. 地域の初心者の発声練習では大きな声を出すことや滑舌の練習の機会を持ってもらう。
2. 月2回のメンバーの朗読劇のレッスンは活動の基本で、昨年後半からはより一層、技術に磨きをかけるよう取り組んでいる。
3. 毎週木曜日午前中の『わいわい・がやがや おしゃべりカフェ in 「えん」』は文字どおり地域住民の触れ合いや居場所や交流の場になっている。
4. 映画においては神戸の震災30年の節目に向けての作品などを計画している。
5. FMYY(YouTube)でヤングケラーなどの社会問題の朗読劇の発表を、2024年の1月からは「知らなかったあ〜神戸のあんなこと、こんなこと」というタイトルで神戸の民話を中心に月に一度配信する。



3. 成果や課題点

公演をしたところではまた次も来てほしいとの要望が多く、地域の地域福祉センターやお寺、生協などとの結びつきが深まっている。民話についてはどの世代でも驚くほど知られておらずやりがいがある。

活動が広がるにつれ一部のメンバーの負担が大きくなり組織運営の工夫や改善が必要になってきている。

4. 今後の展望、成果の活用

神戸の民話を大事にしながら今後は舞台や映画に出る機会をつくりたい。これらを通じて地域活性化、地域おこしをさらに進めたい。

北向き地蔵（三宮）



| 2023年度 活動別年間延参加者数 | | |
|-------------------|------|--------|
| 活動の種類 | メンバー | 会場参加者数 |
| 発声練習 | 12 | 13 |
| レッスン | 266 | ----- |
| 朗読劇公演 | 59 | 365 |
| 居場所（ふれあい喫茶） | 26 | 244 |
| 映画出演・上映会 | 24 | 335 |
| F M Y Y | 15 | ----- |
| 合計 | 402 | 957 |

L Group



| 団体名・企業名・学校名 | 事業名(助成団体のみ) |
|-----------------|---|
| (特非)市民事務局かわにし | 「NPO大学・マナビ塾」2023 |
| (特非)高砂海文化21C | 海洋プラスチック問題を伝える、学ぶ、ヨットでのごみ回収実証 |
| (特非)奥播磨夢倶楽部 | 中山間地域における地域づくり支援事業 |
| (特非)ことばルームへようこそ | 「小さく生まれたり、医療的ケアの必要な赤ちゃんたちとそこを両親を先輩父母と医療職がサポートします!」カンガルーポー |
| (特非)ハッピーキッズひがし | 『親子で楽しく体験活動』『長期休み・児童居場所づくり健全育成』支援事業 |
| 東灘こどもカフェ | 学び実践を通じて「こ」が輝き成長する事業 |

NPO大学“マナビ塾”2023

特定非営利活動法人 市民事務局かわにし



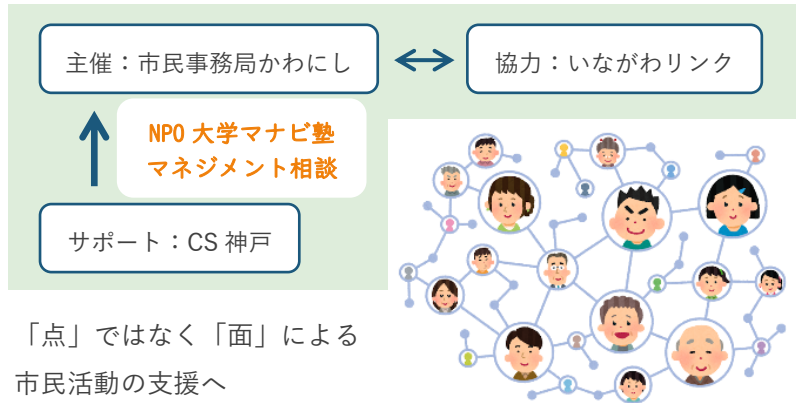
26年間の積み重ね

・「NPO 大学」事業は、1997年に神戸で産声を上げ、兵庫県内 NPO 法人の持続可能な運営を目的に「NPO マネジメントスクール」、「NPO 大学」、再び「NPO マネジメントスクール」、そして「NPO 大学“マナビ塾”」と呼称を変えながら 26年間実施されてきました。

・長年の運営主体であった「認定 NPO 法人 CS 神戸」からバトンを引き継ぎ、2015 年度より「NPO 法人市民事務局かわにし」が実施しています。

成果

中間支援の相互エンパワメントと地域情報の交換



「点」ではなく「面」による
市民活動の支援へ

基礎編はオンライン、実践編は対面セミナー！

実施報告

基礎編 オンライン (Zoom) 開催 (オンデマンド配信あり)

2023年 12/14 (木)、12/15 (金)、2024年 1/22 (月)

受講料 2,000円 (4講座) /人 お支払いは、申し込み後に事務局から振込先をご連絡いたします。

NPOって? 『実践活動から』 講師: 中村 順子 さん
認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸 (CS神戸) 理事長
1996年にCS神戸を設立。当スクール発起人の1人。NPOの起業・運営支援を多数手がける。

NPOって? 『よくある質問から』 講師: 三井 ハルコ さん
NPO法人市民事務局かわにし 理事長
2005年に中間支援NPO法人を設立。2010年からは「川西市市民活動センター男女共同参画センター」の指定管理者としてセンター長。2023年からはスーパーバイザーを務める。

組織の『健康診断』ツールを知る 講師: 當間 克雄 さん
兵庫県立大学大学院社会科学部 教授
2004年度から講師として参画。2006年度から当スクール学長。NPO法人の理事 (1法人)、監事 (4法人)、アドバイザー (2法人) を務める。

組織の『羅針盤』ツールを学ぶ 講師: 當間 克雄 さん
「SWOT」分析表を展開させて作成する「戦略マップ」や「BSC」(バランススコアカード) について学ぶ

学びを活かす **実践編** 「基礎編」の受講は必須です

2024年 1/31 (水) 13:00~17:00

個別にアドバイスを受けながら、自組織を「SWOT」で分析して課題を抽出。さらに「SWOT」分析表を使って「戦略マップ」「BSC」を作成し、次年度の「事業計画」にもつなげます。

会場 川西市市民活動センター・川西市男女共同参画センター (川西市小花1-8-1「パレットかわにし」内)

定員 15人 ※同一団体から複数で受講いただくと、より効果的です。

受講料 2,000円/人

- ・日時: **基礎編** (オンライン開催、オンデマンド配信あり)
 - ①2023年12月14日 (木) 14:00-14:40
 - ②2023年12月15日 (金) 14:00-14:40
 - ③2024年1月22日 (月) 10:00-12:30**実践編** (対面セミナー)
2024年1月31日 (水) 13:00-17:00

- ・会場: 川西市 市民活動センター
男女共同参画センター
- ・協力: NPO 法人いながわりリンク

- ・申込: **基礎編** 10人 (NPO 法人、任意団体など)
実践編 9人 (NPO 法人、任意団体など)



「海洋プラスチックごみ問題を伝える、学ぶ、ヨットでのゴミ回収実証」

(特非) 高砂海文化 21C

1 事業が目指すところ

我々が活動している高砂市は加古川支流の堀川を通じ播磨灘に面しております。ここにも少なからずプラスチックごみが浮遊しております。この現状について、従来よりいろんなイベント開催時において、海洋環境の保全を訴えてきました。

この度、これら海洋プラスチックごみ問題を地元小、中、高校生を始め多くの一般市民に伝える事、さらに自らも浮遊するプラスチックごみをヨットに乗って回収する事を目指しました。

2 活動内要

実施済みの活動では、10月28日に、トリニティ体験学習（①郷土の歴史を学ぶ、②海洋プラスチック問題を学ぶ、③江戸の北前船とヨットの動く原理は同じ）を実施しました。

①は地元の歴史に精通した方に講師をお願いし、②は当NPOのメンバーによる環境講座（①、②共、工楽家旧宅内で座学）③は2隻のヨットに分乗して実施しました。（午前、午後2班に分けて実施）



出航前の安全指導



見にくいですがプランクtonネットを引いています

3 成果や問題点

上記、体験学習のほか、高砂町内で活動しているボランティア団体（ルネサンスみなとまち高砂、高砂町づくり協議会）と環境テキストを用いて「海のサロン」を開催し海洋プラスチックごみ問題についてディスカッションしました。その中では、我々が主に活動している加古川下流域だけでなく上流から食い止める事が重要である等、問題意識の共有化を図る事が出来ました。

海のサロンは各ボランティア団体のメンバーに参加してもらったので参加者募集に関して、スムーズにはかどりました。一方トリニティ体験学習は高砂市内小中学生の全校生徒対象に約7000枚を配布しましたが応募状況は芳しくありませんでした。参加された方々からは一応に高評価を頂いていますが、募集方法、時期等に問題があるのかもしれない。

4 今後の展望、成果の活用

播磨灘高砂沖でのマイクロプラスチックの定期的な採取と、そのデータ化が出来れば、その実態を当該の行政・団体へ提供する事が可能になります。又当該行政を通じて海に接していない加古川上流域の市町村への情報発信も行う事が出来ます。

企業や専門団体と連携してさらに海の環境課題を座学による理論とヨットでの現場検証を実践して参加者にはワンステップで体験出来ることをアピールし参加者を募る事で、体験型観光の実証につなぐことも可能です。

基本事業：

1 事業が目指すところ

中山間地域である奥播磨において、地域づくりの課題解決のための相談室を開設し、相談・助言を行うことにより持続可能な地域づくりをめざす。令和5年度は、NPOネットワークづくりのほか、中山間地域で活動している地域づくり団体が活動を続けていくための支援を行う。ワークショップにより、地域づくりに主体的に取り組む人材や地域と多様に関わる人の確保するため方策を話し合う。外部からの人材確保により地域の新たな取り組みが始まり、地域が継続していけるよう支援する。

2 活動内容

(1) 相談室の運営

面談・Web・電話・メールなどで対応
相談件数9件・回数36回 地域づくり団体など対象

(2) 情報提供、ネットワーク・WS運営サポート

①地域作り団体などへの情報提供 8件
②ネットワーク・WS運営サポート 回数 8回・延べ数143人
今までにネットワークを組んでいるエリアと、新規エリアがさらに広域にネットワークが広がって行くよう働きかけた
(奥播磨・宍粟市団体3団体、佐用町1団体、鳥取市2団体)

(3) 人材育成

講演会&座談会

「これから生きる自分たちのために今動きだそう！」

対象者：環境問題や消費、若者支援などに関心のある団体
日時：1月20日(土) 場所：宍粟防災センター
講師：NPO法人夢ノ森伴走者CUE 代表 向山遥温氏
参加団体：4団体(社会福祉協議会、消費者協会、文化大学、地域団体)

(4) 書類作成指導 広報印刷物やその他の資料作成サポート 7件

(5) その他

1. 地域情報便「おくはりまNEXT2023」B5冊子500部
テーマ：持続可能な仕組みづくり・ネットワークづくり
2. 鳥取県鳥取市鹿野町で活動する団体の研修受入れ 人数20人
テーマ：宍粟市山崎町のまちづくり事業取組み・歴史文化、世代交代の実践について
3. ネットワークづくり動画作成として講演会の様子を撮影し、PRに活用していく。
講演会では「インスタライブ」配信し、会場に来れなかった人向けの発信を行った



地域資源を活用したワークショップ(6月4日)



広域ネットワークづくりのワークショップ(10月22日)



団体間ネットワークづくりワークショップ(11月7日)



これから生きる自分たちのために今動きだそう講演会(1月20日)



3 成果や課題点

(1) 成果

- ①「これから生きる自分たちのために今動きだそう」をテーマとした講演会をNPO法人夢ノ森伴走者CUE代表の向山氏を招いて開催、市内外からの幅広い世代の聴講者が参集し、活発に意見交換を行った。
- ②講演会やWSサポートの現場に、NPO若手メンバーを配置し、スタッフの役割を担わせた。
- ③全国規模で活動しているNPOからの執筆依頼を受けて、2023年9月に水曜社から出版された「フットパスによる未来づくり」の中で、「広域ネットワークづくり」の1事例として、当NPOが進める中間支援的な取組みの実践内容について紹介している。
- ④当NPOの推進する多様なネットワークを活用した中山間地域における地域づくり支援の取組みが評価されて国土交通大臣表彰「令和5年度手づくり郷土賞」一般部門を受賞。(全国で13団体、近畿地方では当NPOのみ選出された)

(2) 課題点

アフターコロナの社会の流れの中で、多世代多様な人材をどのように確保し、中山間地域のリーダーに育てていくかが直面している課題である。若い世代を講師に招き、若者の参集を呼びかけたが、思うように集まらず、これまでの経験が活かしづらいところはある。試行錯誤しながら、人材の確保を進めていく。

4 今後の展望、成果の活用

多彩な講師陣を招いた講座の開設や当NPO独自のワークショップの定期的な企画、地域資源を活用した企画を実施したい団体のサポート、多様な人材交流の場を提供により、直面している課題解決につなげて行く。

今後も地域特性に応じた中間支援を継続し、ネットワークを活用して持続可能な中山間地域づくりをめざす。

医療職が職場を出て先輩父母とともに
相談サポートの出来る居場所づくりをします！

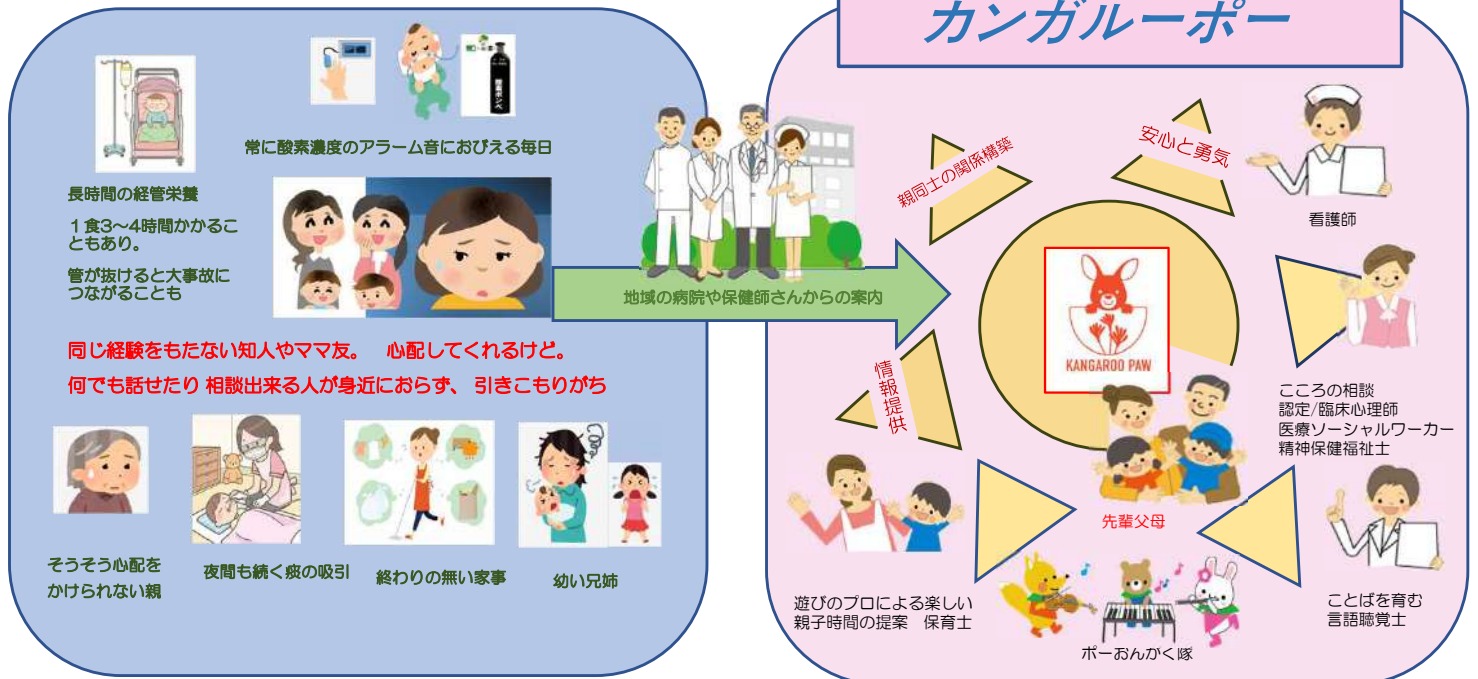
カンガルーポー



対象となるご家族

小さく生まれたり、医療的ケアの必要な赤ちゃん
24時間 目の離せない看病と家事育児を担う親

カンガルーポーHP、Instagram



1. 背景と目的

医療先進国で守られた命があるからこそ、「世界でもまれな高度医療機器で子どもの命を家庭で見守る」という難しく厳しい日々が、人知れず父母の努力で続けられています。子どもが育つ地域で、医療的ケアや見守りを必要とした乳児を持つ親同士が安心して自然に出会い、子育てや医療、発達相談も受けられるような居場所づくりが必要とされています。参加家族とスタッフにとって温かく楽しい居場所を作ることがカンガルーポーの目的です。

2. 令和5年度の成果

- 地域の保健師さんからの案内で小さく生まれた赤ちゃん親子の参加が続き、毎月の開催ができました
- スタッフに恵まれ、企画や広報、保育などカンガルーポーの内部組織の基礎が構築されました
- 企画の活躍でヨガ、絵本読み聞かせ、手形やおもちゃ作り、ネイル、など毎回参加者全員で楽しみました
- 保育の活躍で赤ちゃんや兄弟を同じ会場で預かる体制に。父母が安心して企画に参加でき、喜ばれました
- 広報の活躍でホームページが充実しインスタも開始。認知・理解度が向上、問い合わせが増加しました
- ポーおんがく隊がスタッフで結成され、毎回ライブ音楽を楽しんでいただけるようになりました。
- 尼崎市協働推進課からの案内で、尼崎市のふるさとチョイスにNPO法人として参加することが出来ました
- 尼崎市の低出生体重児のお子さんの家族に配布される「あまっ子すくすく手帳」にカンガルーポーが掲載される予定となりました

カンガルーポーは植物の名前でその花はカンガルーの手のような形をしています。

親同士の手と手をつなぎ、その手に安心と勇気と情報を渡すことができればと思い名付けました。

『親子で楽しく体験活動』『長期休み・児童居場所作り&健全育成』支援事業

特定非営利活動法人ハッピーキッズひがし

1. 事業が目指すところ

少子高齢化、核家族化、3歳児以上保育無償化による保育園利用者の低年齢化、さらには、コロナ感染症による活動制限等のため、特にこの3年間ほどは、子育て世帯の孤立化が進んでいる。近くに子育てについて相談できる人がいない、周りにお友達がいない、子ども達が十分な体験・経験を出来ておらず、子どもの発達に支障をきたしている。また、児童においても、一人で家でゲームをする機会が増え、友達とコミュニケーションをとって、一緒に遊ぶことができない児童が増えている。共働きにより家庭学習が十分にできていないケースもみられる。いろんなことを体験できる場、話をできる場を作り、楽しく子育てができ、子ども達が心身ともに健全に育つような支援が必要である。

2. 活動内容

【親子体験活動の実施&育児相談】

- ふれあいスポーツデー(10月22日)
- 人形劇とふれあい遊び(11月24日)
 - ・パネルシアター『ころころパンケーキ』他
 - ・食育指導(綿菓子)
- クリスマス会&ふれあいコンサートⅠ(12月8日)
 - ・楽器遊び/ハンドベル/マンドリン演奏など
 - ・食育指導(ホットケーキ)/子育て相談(主任児童委員)
- 節分豆まき&ふれあいコンサートⅡ(2月2日)
 - ・節分・豆まきの由来などのお話/音楽とふれあい遊び
 - ・食育指導(きな粉飴)/子育て相談



『ふれあいスポーツデー 親子で競技』



『クリスマス会 楽器遊び&食育』

●長期休み 児童宿題お手伝い&体験の場・遊び場の提供

- 7月25日 折り紙教室『朝顔・ひまわり・夏の虫など』
- 7月31日 料理教室『たこ焼き&ゼリー』
- 8月1日 ボーリングで遊ぼう
- 8月2日 工作教室・ワイヤークラフト
『タオルアイスキャンデー』
- 8月4日 工作教室『ランプシェードを作ろう』
- 8月7日 工作教室・クラフト工作『小物入れ』
- 8月8日・10日・17日 読書感想文・生活作文を書こう
- 8月22日 紙飛行機大会
- 8月24日 料理教室『ホットプレートでパンを焼こう』
- 8月28日 夏祭りデー(魚釣り、スーパーボールすくい等)



料理教室
『パン作り』



3. 成果や課題点

(1) 成果

コロナが5類になったため、ようやく多くの人が集える機会、食育などを企画・実施できた。親子体験活動では、身体を動かしたり、親子でふれあい遊びをしたり、手作りおやつと一緒に食べたり、楽しい時間を過ごすことができた。

夏休みの幼稚園・小学生プログラムは、異年齢の子どもたちが協力し合って、活動をし、遊ぶことができた。特に、夏祭りデーでは、それぞれが自分で考えて制作し、ルールを決めて、店番をしっかりと果たした。小学生は、幼児さんのお手伝いも自主的にこなした。

(2) 反省点

複数の団体と協働したり講師をお願いする場合、日程の調整や会場の調整が難しく、予定していた講師さんに来てもらえなくなったり、親子参加行事が他と重なってしまい、参加者を増やすつもりが、減らすことになってしまった。



『夏祭りデー (子どもたちの手作り祭り)』



4. 今後の展望、成果の活用

駐車場が広い、走り回れる、調理ができる、幼児連れ親子からお年寄りまで利用している、という場所の特性を活かし、親子ふれあい遊びや幼児・学童の体験・遊び・学習など子育て支援活動に、シニアも参画し、活気ある地域づくりに展開できればと良いと思う。

【活動の記録写真】

7/1 はじめてのおかいもの (東灘こどもカフェ×マザープロジェクト×フクロウの夢、甲南商店街協力後援) こども記者新聞



7/27 お金の管理と運営講座



8/5 福池祭り



8/13 ゆかた祭りと花火大会



8/17 こどもフリマ



10/15 ふれあいまつり



10/28 ハロウィン英語



M Group



| 団体名・企業名・学校名 | 事業名(助成団体のみ) |
|-------------------|--|
| (特非)NGO神戸外国人救援ネット | 地域で孤立する外国人の相談・支援活動 |
| (特非)なごみ | 協働体制で構築する新たな地域づくり中間支援事業(2年目) |
| 兵庫県健康生きがいづくり協議会 | 健康生きがいづくり |
| (特非)親子会エルフ | 親子会 ～大人も子どもも季節行事を楽しもう～ |
| (特非)京ロスコラ | 不登校・ひきこもり経験者等、社会に出るのに不安を抱える青少年に対する総合的な相談支援及び居場所づくり |
| (一社)みくもや | 若者に特化した中間支援事業UxCampus(2年目) |

地域で孤立する外国人への相談・支援活動

特定非営利活動法人 NGO 神戸外国人救援ネット

1 事業が目指すところ

在留外国人数は日本社会の各方面でなくてはならない存在となっている。兵庫県内でも全自治体で外国人数は増加傾向であるが、全ての外国人が地域に馴染んで問題なく暮らしているかという点決してそうではなく、様々な生活上の問題を抱えてどのようにしたらいいのかわからないまま、生活困窮や在留資格喪失などの困難を抱えている方も少なくない。今後ますます相談活動のニーズは増加し、内容も複雑化、高度化していくことが予想され、それに対応するには、まず相談へアクセスしやすい環境整備が必要である。このような困難な問題を抱える外国人の相談を受け、問題解決のための必要な支援を各種関係機関と連携して実施する。そのことにより外国人の生活や権利を守り、安心して生きていくことのできる多文化多民族共生の地域社会を実現することを目的としている。

2 活動内容

- (1) 移動生活相談会の開催
- (2) 地域で孤立する外国人への寄り添い型支援活動

3 成果や課題点

◆成果

- (1) 移動生活相談会

2024年2月22日(木) 18時~21時

共催：丹波市国際交流協会

協力：丹波市社会福祉協議会、PHD協会、
多言語センターFACIL、FMわいわい

- (2) 寄り添い型支援活動

ブラジル、ボリビア、台湾、ロシア、
ウガンダ、シリア、ガーナ、フィリピン、
ネパール出身の相談者に実施した。

ある相談者は夫婦共に外国籍で、日本に数十年住み、工場で働いてきた。高齢になり、妻が体調を崩して入院することになったのだが、病院での手続きが難しいと相談を受けた。入退院の手続きの他にも年金の受取手続きも手伝った。

◆課題

移動相談会を兵庫県内2箇所で開催する予定だったが、地元との連絡調整が難しく、今回は1箇所のみでの実施となった。

4 今後の展望、成果の活用

今回、国際交流協会、社会福祉協議会、日本語教室の方と一緒に移動相談会を実施する。来年度もこのノウハウを活かして、兵庫県内の他の地域でも移動相談会を共催し、地域で孤立している外国人に繋がれるようにしたい。



NPO法人なごみ

特定非営利活動法人なごみ

協働体制で構築する 新たな地域づくり中間支援事業

実施活動① 西宮市内で9か所のモデル「まちの情報SPOT」設置



※西宮市の社会資源サイト『にしま〜れ』を扱える拠点として、ロゴマークの使用許可もいただきました

実施活動② 新しい中間支援のカタチを模索する検討会・研修会の開催

行政：市民協働推進課（市民局）地域共生推進課（福祉局）生涯学習企画課（産業文化局）
社会福祉協議会・モデル拠点団体とが集まり、これから求められる中間的支援の在り方や体制について、一緒に考える機会を作りました。



実施活動③ 各拠点への相談記録と反応の調査

- モデル拠点に日常的に入る「相談」内容とその対応結果について継続的記録を行い傾向を調査。
- SPOT表示をすることによる利用者、住民の反応を調査。

1. 事業が目指すところ

会員が中心となり、地域の健康生きがづくりへの啓発活動を行うとともに、その実践のための技術指導も行うことで地域における健康生きがづくりの推進を目指しています。また、高齢者から子供までが一緒に楽しめるニュースポーツであるディスコンの普及活動を通じて、地域の健康増進、世代間の交流の活性化を図ることを目指します。

2. 活動内容

高齢者を中心とする層に対する健康生きがづくりのための場の提供とその具体的実践のための指導ならびに活動実践に不可欠な健康チェックの提供。

- (1) 講座開催 毎月の「ふれあい広場」として講座を中心に神戸市婦人会館において開催している。
(5月、6月、7月、9月、11月、1月、2月、3月の第2土曜日の午後) 対象者は会員および兵庫健生の活動に賛同いただける一般の方を対象として開催案内を送付。参加者は毎回20～30名。
- (2) 高齢者の方の社会参加のハードルを下げる目的のための演芸大会を年1回12月に開催。
- (3) 健康チェックと健康関連指導をセットにした大規模イベントを年1回10月に開催。
- (4) 高齢者の方の健康増進と世代を超えた交流の活発化を目指したディスコンの普及活動を毎月1回伊丹南小学校などで継続的に実施。兵庫健生としてチームを編成して全国大会にも出場している。

3. 成果や課題

- 5月：山本紗弥香先生によるメンタルヘルスの講演
- 6月：「人生100年時代-ライフスタイル変更講座」録画を使った講座
- 7月：健康同好会・八田陽子先生による健康体操
- 9月：新会員村山美知先生による管理栄養士の調理講座その1
- 10月：健康チェックと健康関連指導をセットにした大規模イベント
- 11月：健康同好会の吉田貴子先生のリラクゼーション健康体操
- 12月：第3回演芸大会
- 1月：新年の抱負を語ろう（情報交換会）
- 2月：村山美知先生による管理栄養士の調理講座その2（予定）
- 3月：熟年体育大学リサーチセンター松尾隆和先生によるインターバル速歩講座（予定）
- 4月～3月（除く12月）：ディスコン練習会（伊丹南小学校、西宮市民交流センター等）
- 11月：第8回全国ディスコン大会 in 岡山に出場（岡山市総社市の体育館で開催）



4. 今後の展望、成果の活用

- (1) 昨年度まで毎月の「ふれあい広場」の参加者は20名前後であったが、今年度は会員以外の方への参加の呼びかけが奏功して25名前後にまで増えてきた。会員以外での案内送付者は48名まで増加した。
- (2) ディスコンは昨年引き続き全国大会に参加したことで新たな目標ができ、地域の長寿会文化祭で活動の紹介を行ったことで活動が活性化しつつあり、今後はさらに多くの方の参加を目指す方針である。

親子会 ～大人も子どもも季節行事を楽しもう～

NPO法人親子会エルフ

<現状>

働く親が増え親子で楽しむ機会が減っている。塾や習い事で遊ぶ時間のない子、さわやかな公園で黙って電子ゲームをする子、不登校や学校に行きづらい子、また叱られてばかりの子、自分に自信のない子が多い。子育てに悩む母親の孤立、核家族化で季節行事がおろそかになりがち。地域に子供会がなく、少子化も進んでいる。

<目的>

上記の現状を改善するため、豊かなこころ作り、楽しく安心できる居場所作り、親睦を図り地域活性化への貢献に努めている。今年度は自治会とも連携をとり、地域ぐるみで子育て支援に努める。

<対象> 未就園児、幼稚園児、小学生、中学生、高校生、大学生、保護者

| 日付 | 開催時間 | プログラム | 内容 | 人数 (子供) | 人数 (大人) | |
|-------------|-------------|-----------|-----------------------------|------------|------------|-----|
| 2023年4月1日 | 10:00~14:30 | お花見ハイキング | 寿荘桜のトンネルを歩き、武庫山公園で風食と自由あそび | 31 | 11 | |
| 2023年5月7日 | 10:00~14:30 | いちご狩り遠足 | 雨天中止 | | | |
| 2023年6月10日 | 10:00~12:00 | 田植え体験 | 三田市へ。田植え体験を楽しみ自然の中でのびのびと過ごす | 9 | 8 | |
| 2023年8月22日 | 14:30~16:30 | 夏祭り | 夏祭り ゲームやお祭りらしい飲食を楽しむ | 27 | 13 | |
| 2023年8月23日 | 14:00~15:50 | 夏祭り① | 夏祭り ゲームやお祭りらしい飲食を楽しむ | 30 | 18 | |
| 2023年8月23日 | 16:00~17:50 | 夏祭り② | 夏祭り ゲームやお祭りらしい飲食を楽しむ | 36 | 14 | |
| 2023年9月30日 | 10:00~12:00 | 稲刈り | 親子で稲刈り体験を楽しみ、自然の中で過ごす | 10 | 10 | |
| 2023年10月30日 | 16:00~18:00 | ハロウィン祭り | ハロウィン祭りを楽しむ | 28 | 14 | |
| 2023年10月31日 | 16:00~17:30 | ハロウィン祭り | ハロウィン祭りを楽しむ | 40 | 24 | |
| 2023年12月19日 | 16:00~17:30 | 親子クリスマス会 | クリスマス会（スイーツ・プレゼント・ゲーム）を楽しむ | 15 | 5 | |
| 2023年12月20日 | 15:00~16:20 | 親子クリスマス会① | クリスマス会（スイーツ・プレゼント・ゲーム）を楽しむ | 22 | 9 | |
| 2023年12月20日 | 16:30~17:50 | 親子クリスマス会② | クリスマス会（スイーツ・プレゼント・ゲーム）を楽しむ | 28 | 7 | |
| 2024年1月9日 | 11:30~13:30 | 餅つき | お餅を作って色々なトッピングで食べる | 12 | 21 | |
| 12回開催 | | | | 延べ人数 | 288 | 154 |

<成果>

親子で楽しい時間をすごしたり、たくさんの家族で親睦を図れた。地域の活性につながった。自治会と連携すべく担当者と話し合ったが今年度の連携は断念することになった。

<課題点>

参加費をワンコイン（¥500）で開催しているので赤字であるが、そこはそのままにしたい。自助努力もしているが、ボランティア基金も今年度で終了するので別の助成金先を検討せざるをえない。

<展望>

多くの子ども達に参加してもらうため今までの会員制を撤廃し、誰でも参加できるようにする。そのためにも宝塚市社会福祉協議会からの助成を受ける予定

夏祭り



田植え



ハロウィン



稲刈り



クリスマス会



お花見ハイキング



「不登校・ひきこもり経験者等、社会に出るのに不安を抱える 青少年に対する総合的な相談支援及び居場所づくり」

NPO法人 京ロスコラ

当団体について

不登校生対象のフリースクール京ロスコラとしてスタートし、2003年にNPO法人化。現在は、学齢期～青年期に至るまでを対象に、その人が社会とつながるための支援を心身両面にわたって提供している。併設の相談機関京ロカウンセリングセンターと連携して運営。

1. 事業の目的

社会に出るのに不安や困難を抱える若者は年々増えており、次第に高齢化していることも大きな問題となっている。そのような、なかなか外に出られない若者が気軽に利用できる居場所を作り、そこで安心できる人と出会いながら、生活訓練、共同活動、共同作業などができる機会を提供し、心身の安定と、自律的に社会とつながれることを目指す。

2. 主な活動

居場所事業 … 毎週金曜日 11:00～17:00 開所。

来る時間帰る時間は自由。(最初は、ただ来るだけでも良い)

料理や清掃、体づくりや頭の体操などの活動。

創作活動、レクリエーション、季節のイベントなど。

◇ 月に一回程度、ボランティアの方に来ていただいて、創作・工作やお菓子作りなどを教えてもらいながらいっしょに体験する機会を設けている。

親の会 … 月一回の開催。

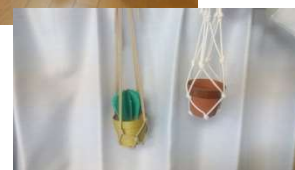
不登校やひきこもり傾向のお子さんを抱える親御さんたちの会を開催。スタッフを交えながらの情報交換と親自身の勉強、および家庭の安定が目的。



上 お菓子作り／下 新年会

3. 成果

居場所事業については、平均で一日あたり4～5名の利用があった。コンスタントに継続的に利用されている方もおり、その方の生活のメリハリづくりの一助となっている。利用者同士も次第に顔見知りになり、会話が増えたり、楽しく共同作業やレクリエーションができるようになってきている。また、本人はなかなか家から出られないけれどもご家族の方（親御さん）が利用してくださって、その雰囲気や家庭に持ち帰ることにより少しずつ動きがある、といったこともあった。



クラフト

親の会は、コンスタントに参加されている方が多く、次第に、親自身の悩みを互いに話せる場になってきている。親同士共感できることと、スタッフからの見方とを交えて話し合うことで、各参加者にとって良い刺激になっている。

4. 今後の課題、目標

一年目ということもあり、居場所として安定させること、慣れることを中心に活動をした。次の段階としては、自己の心身のバランスをとる力や、生活能力の向上があげられる。そして将来的には、創作・制作活動といった、「生産」の活動にまで広げていきたい。

活動内容が安定してくれば、将来的に開所日を増やすことも視野に入れる。スタッフの後方支援の下での、一部自主運営のような形ができないか検討していく。

若者に特化した中間支援事業 “Ux Campus”

R5年度 中間支援創設 一般社団法人みくもや

1. 事業が目指すところ

神戸市では、地域コミュニティへの主な参加者の高齢化が進んでおり、若い世代の地域の担い手の発掘・育成が急務となっている。また、市内には中間支援組織が複数ある一方、学生や若者に特化した支援組織は数少ない。そのため、若者が地域に参画する機会や選択肢が限られていたり、地域の団体が若者を活動に巻き込みたくてもその方法が分からず、世代交代が進まないという現状がある。そこで、本事業では、若者を地域に巻き込むことに特化した中間支援事業を行うことで、若者による地域活動の参画を促進する。

創設3年間の計画

1年目

支援体制構築

広報基盤強化
ネットワーク構築

2年目

実績の積み上げ

ネットワークの拡充
支援の仕組み強化

3年目

支援の拡充

インターン生の受入
支援ノウハウの蓄積

2. 令和5年度 活動内容

2-1. 情報提供・ネットワークの構築

市内外の中間支援組織とのネットワーク構築の一環として、ニュー☆ハリマ（播磨町）視察、ひょうご中間支援ネットワークへの加入と全体会への出席、神奈川・茨城の中間支援団体視察受け入れの協力、明石市タウンミーティングへの出席、一般社団法人ケアと暮らしの編集社視察（豊岡市、2月訪問予定）、子ども第三の居場所「みらいえ」視察（洲本市、2月訪問予定）などを実施。各地域の中間支援における課題を把握したり、キーパーソンとつながったりすることで、今後の若者支援に活かせる情報やネットワークを蓄積することができた。



2-2. 人材育成の取組

2-1や他事業に取り組む中で繋がった学生の相談を受け、伴走支援を行った。例えば、地域コミュニティ支援に関心のある学生をNPO法人シミンズシーズに紹介・マッチングしたり、須磨海岸を舞台にイベントの開催を目指す学生団体Delightに対してオンラインで企画の相談に対応するなど、必要とされる個別のサポートを提供した。また、このような相談や活動支援をより拡張すべく、Ux Campusとしての拠点を構えることを目指した。結果として長田区にある空き家を借り、拠点を整備していくことが決まった。現状（2024.1.25時点）では整備前ではあるが、地域協働課のサポートを受けたり、長田区で活動するプレイヤーや高校とつながり、2月中旬には試験的にイベントを開催することが決定している。



3. 成果と課題

市内外の中間支援組織とのネットワークが広がったことが一つの大きな成果である。神戸市内在住の学生に限らず、多様なエリアで地域での活動に関心を持つ学生をコーディネートできるための素地が整ったと言える。一方、具体的な拠点を構えることも決まったため、拠点周辺の地域特有の課題やそれらに対する取り組みを理解したり、地域のプレイヤーとのネットワークを更に広げることで、Ux Campusに相談に来る若者にとって適切なコーディネートが可能になる。来年度は、拠点を整備しつつ、若者支援に関連する具体的なプロジェクトを組成し、更に実績を積んでいくフェーズとなる。

(参考) 当日のプログラム

令和5年度 ひょうごボランティア地域づくりネットワーク会議・ ひょうごボランティア基金助成事業 事業報告会

日時 令和6年2月5日(月) 13:00~16:10
場所 神戸クリスタルタワー クリスタルホール

— プログラム —

13:00~13:10 開会あいさつなど

13:10~14:00 基調講演

講師

特定非営利活動法人岡山NP0センター代表理事 石原 達也さん

演題

SDGsを軸とした協業・協働 ~誰一人取り残されないマチを目指して~

(休憩10分)

14:10~15:25 グループ別意見交換

14:10~14:15 趣旨説明

14:15~15:25 意見交換

(意見交換のテーマは当日発表します)

(休憩5分)

15:30~15:50 グループ発表

15:50~16:10 助成事業選考委員によるコメント

16:10 閉会



令和6年能登半島地震兵庫県義援金の募集について

令和6年1月1日に発生した能登半島を震源とする地震により、各地に甚大な被害をもたらしました。

この災害の被災者に、私たちの善意を届けるため、兵庫県社会福祉協議会では兵庫県が主体の「令和6年能登半島地震兵庫県義援金募集委員会」に参画し、義援金の募集を行っております。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします



兵庫県HP
能登地震募金の
QRコード

